

体協50年のあゆみ



特定非営利活動法人

新十津川町体育協会

町民憲章

わたしたちのまちは、十津川郷からの団体移住によってひらかれ、たくましい開拓精神と団結の力できずかれた由緒あるまちです。

わたしたちはこのまちの町民であることに誇りをもち、たがいのしあわせと郷土の発展をねがい、ここに町民憲章を定めます。

1. 自然を愛し、緑の美しいまちにしましょう。
1. 心とからだをきたえ、健康で明るいまちにしましょう。
1. 働くことに誇りをもち、ゆたかなまちにしましょう。
1. きまりをよく守り、住みよいまちにしましょう。
1. 未来に夢をもち、子どものしあわせなまちにしましょう。

(昭和45年10月12日制定)

健康づくりの町宣言

私たちがしあわせで明るく豊かな町は町民こそぞって健康であることです。

私たちはこの自覚に立って互いに協力し、健康増進と体力増強に努めることを誓い、ここに宣言します。

(昭和43年6月10日制定)

1・1運動! 全町民が1日に1回運動することを奨励しています。

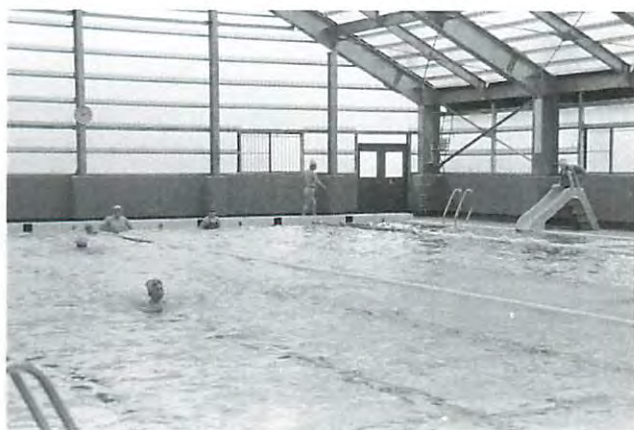
(新十津川町体育協会)

写真で見る過去のスポーツイベント

新十津川町内でのスポーツイベント、スポーツ施設オープンの様子などの様子をご覧ください。



1972(昭和47)年10月10日
歩け歩け運動開催



1989(平成元)年5月3日
勤労者水泳(現温水)プールオープン



1990(平成2)年8月15日
大相撲新十津川場所開催



1993(平成5)年4月27日
サンスポーツランド(テニスコート、野球場)オープン



1997(平成9)年12月13日
そっち岳スキー場チアリフト設置



1998(平成10)年3月8日
歩くスキーのつどい開催

ピンネシリ登山マラソンの歴史

1995(平成7)年に第1回が行われたピンネシリ登山マラソンは、今年2019(令和元)年で第25回を数えます。思い出の場面をご覧ください。



1998(平成10)年9月6日 第4回大会



2002(平成14)年7月7日 第8回大会



2003(平成15)年7月6日 第9回大会



2004(平成16)年7月4日 第10回大会



2014(平成26)年7月6日 第20回大会
橋本聖子名誉大会長あいさつ



2015(平成27)年7月5日 第21回大会

ピンネスタジアム・サッカーコートでのイベント



1993(平成5)年8月3日
イスタンリーグ 巨人対横浜戦



2008(平成20)年5月20日
ドリームベースボール・少年少女ふれあい野球教室



2012(平成24)年6月9日
イスタンリーグ 日本ハム対巨人戦



2012(平成24)年5月27日
NHKジュニアスポーツ教室



2017(平成29)年8月13日
イスタンリーグ 日本ハム対巨人戦
オープニングセレモニー



2017(平成29)年8月13日
日本ハム選手と新十津川中学校野球部

新十津川スポーツクラブの歩み

新十津川スポーツクラブは、2015(平成27)年7月発足。2017(平成29)年4月から体育協会が運営し大人向けフィットネス系教室をはじめ、託児付き教室、小学生向け教室などを実施している。



2015(平成27)年7月～8月(スポーツセンター)
スポーツクラブの大人向け教室として最初に行われたズンバ



2016(平成28)年10月30日(ゆめりあ)
小学生ダンスクリニックに参加した小学生
たちが町民文化祭で練習成果を披露。



2017(平成29)年11月8日、15日(児童館)
託児付き教室として開催したウエーブリングヨガ



2017(平成29)年7月～8月(ゆめりあ)
ボールを使った体幹トレーニング



2019(平成31)年2月2日(スポーツセンター)
2015年度から毎年開催しているサッカー教室



2019(平成31)年5月18日、25日(新十津川小学校)
小学生に人気の走り方教室

目 次

町民憲章・健康づくりの町宣言・1-1運動

写真で見る過去のスポーツイベント

ピンネシリ登山マラソンの歴史

ピンネスタジアム・サッカーコートでのイベント

新十津川スポーツクラブの歩み

記念誌発刊のことば	特定非営利活動法人 新十津川町体育協会理事長	吉 田 邦 男	7
祝 辞	公益財団法人北海道スポーツ協会会長	堀 達 也	9
祝 辞	新十津川町長	熊 田 義 信	10
祝 辞	新十津川町議会議長	笹 木 正 文	11
祝 辞	空知管内体育協会連絡協議会会長	鎌 田 誠	12
祝 辞	新十津川町教育委員会教育長	久保田 純 史	13
歴代会長・現役員		14
協会発足以前の状況		16
体育活動の記録		20
協会加盟団体の歩み		25
かつて体育協会に加盟していた団体の状況		67
各スポーツ少年団の状況		71
協会定款(最新)		78
協会規約(NPO法人化以前)		87
協会歴代役員		89
協会表彰受賞者一覧		90
創立50周年記念事業の概要		104
スポーツ施設の概要		106
編集後記		108



創立50周年を迎えるにあたって

特定非営利活動法人新十津川町体育協会

理事長 吉田邦男

平成から令和に元号が代わった歴史的節目の年に体育協会創立50周年を迎えますこと誠に喜びに絶えません。同時に当協会の設立と発展、町民のスポーツ振興と健康づくりにご尽力頂きました諸先輩の皆様には深甚なる感謝と敬意を表します。

新十津川町の体育の歩みは母村奈良県十津川村を祖としており、神武天皇東征より尊皇護持のために武術の修練を怠らず。時を経てその魂は新十津川への移住者にも受け継がれ、厳しい開拓の中でも剣道の修行に励まれてきました。

明治43年尚武会を結成し、強靱な体力と精神力の育成に努め、人づくり、地域づくりの大きなエネルギーとなりました。戦前・戦中も富国強兵を志向する国策と相まって一層精励され、今なお剣道の町新十津川として北海道はもとより全国にその名を馳せております。長い歴史と伝統が今もなお力強く息づいていることは尊奨に値します。

戦後の経済復興は従来の勤労過重視から脱却し、国民にゆとりある生活をもたらしました。昭和39年第19回東京オリンピック・48年巨人軍連続9V・44年第1回道民体育大会開催などマスメディアの発達も伴い国民がスポーツを身近に感じられるようになり、余暇の善用としてスポーツを愛好する人も増えてまいりました。新十津川町もこの時代的動向に応じて、昭和43年「健康まちづくり」を宣言し、翌44年に、町民「皆スポーツ」を目指して新十津川町体育協会が設立されました。剣道・排球・軟式野球・弓道・籠球・卓球・陸上・スキー、その後柔道・ソフトボール・長刀・羽根球が加わり12加盟団体でスポーツ振興の大きな礎が築き上げられました。

町民運動会・行政区単位のスポーツレクリエーション・企業や組織間の交流試合・昭和51年の町民スキー大会・平成7年の第1回ピンネシリ登山マラソン大会と町民が参加し、楽しみを共有する参加型スポーツへと広がりました。 ※（現在体協加盟団体14団体、記念誌参照）

施設面では進取の気概のもと、スポーツセンター・プール・パークゴルフ場・野球場・テニスコートなどが『ふるさと公園』に設けられ、生涯スポーツの殿堂として町内外から人々が集まり活気を呈しております。

また、そっち岳スキー場も多くの人達の知恵と汗の結晶で整備されてきました。スキー人口の減少、スキー場の撤退などが進む現状下、中空知圏内のスキー講習検定会・ファミリスキー・学校スキーなど有益に活用されており、小さなスキー場が広域的に大きな役割を果たしております。

そして、平成25年に母村十津川村の檜と本町産トドマツを使って再建された尚武館（中学校武道場）は、学校と地域とが連携して剣道に励むための逸物として有効に活用されております。

第18回冬季オリンピック長野大会の翌年平成11年に体育協会設立30周年式典が挙行され、町民の生涯スポーツの舵取り役として心新たに決意し、スポーツ振興に尽くしてまいりました。

しかし、近年の人口の減少、少子高齢化など社会情勢の変化は、加盟団体や会員の減少、活動の弱体化となって現れ、見過ごせない問題となってきております。

平成22年法人化された新十津川町体育協会は従来目的であるスポーツ振興に施設管理や運営面が加わり、スポーツ施策の充実を図る改革がなされました。

スポーツが人々の「からだ」「こころ」を健全に育み、夢や生きがいのある社会を築くための不可欠なものであることは言うまでもありません。当協会は「だれでもが」「いつでも」「いつまでも」スポーツに親しめる環境づくりが緊要な課題と捉え、平成27年に町民のニーズに応えるためスポーツクラブを設置いたしました。平成31年はスラックライン・エアロビックなど25講座を提供し、1講座8から12回で実施しております。今その取組みに工夫を傾注しているところであり、また、新しく吹き矢倶楽部、ラジオ体操会が誕生し、活動の途上にあります。

私たちは創立50周年を新たなスタートして、町民皆運動を目指し、「1・1運動」（1人が1スポーツ・1日に1回運動）を標語に掲げ、現状と課題を直視しながら先人が心血注ぎ築き上げられた新十津川町体育協会のさらなる発展に向かって努力してまいります。今後とも皆様の深いご理解とご支援を切にお願い申し上げます、創立50周年記念誌発刊の辞とさせていただきます。





特定非営利活動法人新十津川町体育協会 創立50周年記念誌の発刊を祝して

公益財団法人北海道スポーツ協会

会 長 堀 達 也

特定非営利活動法人新十津川町体育協会創立50周年に及ぶ輝かしい歩みを記念し、また、新元号となる節目の令和元年に記念誌が発刊されますことを心からお慶び申し上げます。

貴協会におかれましては、昭和56年に北海道体育協会に加盟いただいて以来、共に手を取り道民の体力向上とスポーツの振興と普及に取り組んでいただいておりますことに衷心より感謝申し上げます。

貴協会は、昭和44年に創立されて以来、新十津川町のスポーツ団体を統括する唯一の団体として着実に発展し、指導者講習会やスポーツ少年団の育成などの事業をはじめ、競技力向上、生涯スポーツの振興に積極的に取り組まれており、新十津川町におけるスポーツ振興の中核的な役割を担っておられます。

これまで真摯にスポーツ振興に取り組まれてきた数々の実績は、歴代の会長さんを始め、先達の方々並びに関係する多くの皆様方のこれまでのご苦勞とご努力によって脈々と引き継がれたものであり、安定した質の高い法人運営を遂行されてきた実績の積み重ねに対し、改めて心からの敬意を表するものであります。

これらは、行政、体育協会、競技団体をはじめ地元関係者の皆様が一丸となって取り組まれてきた成果であり、様々なスポーツ振興事業を通じて道内の各市町村体育・スポーツ協会を牽引されていると考えているところであります。

また、長年にわたり道体協の略称で皆様にご協力いただいております北海道体育協会も、今年4月1日より、北海道スポーツ協会と名称を変更し、新たなスタートを切らせていただいております。

引き続き、加盟市町村体育・スポーツ協会や競技団体の皆様をはじめ、道や道教委とも連携・協力し、様々な取り組みを広げて参りたいと考えておりますので皆様方の一層のご協力をよろしくお願いいたします。

結びになりますが、貴協会におかれましては、これまでの輝かしい歴史を礎として、どうか今後とも本道スポーツのトップリーダーとして、より一層のご尽力を賜りますようお願い申し上げますとともに、貴協会のさらなる発展を祈念しお祝いの言葉とさせていただきます。



新十津川町体育協会創立50周年を祝して

新十津川町長 熊田 義信

昭和から平成、そして令和と移り変わる時代の中、昭和44年の創立から半世紀、関係の皆さまにおかれましては、この間の出来事や思い出の数々を感慨深く振り返っておいでのことと拝察いたします。

新十津川町体育協会が創立50周年を迎えられましたこと、心からお祝い申し上げます。

貴協会は、創立以来、スポーツ文化の進展を視野に、地域と一体となって活動され、着実に成果を上げてこられました。

町としても、貴協会の創立の前年に「健康づくりの町」宣言を行い、体育振興を図り、体育施設の整備等を行ってまいりました。

それらに伴い、町民参加型の大会が町を挙げて開催されるようになり、その大会の企画や運営に尽力され、本町の体育振興の中心的役割を担っていたのが貴協会でありました。

歴代会長を始め、関係の皆さま方の体育振興への熱意とたゆまぬ努力に深く敬意を表し、感謝を申し上げます。

さて、本町の町民憲章には「心とからだをきたえ、健康で明るいまちにしましょう。」と定められ、多くの町民の方がスポーツに親しみ、体力増進の達成感、満足感を味わいながら、心身両面にわたる健康増進に取り組んでおられます。

特に近年は、新十津川スポーツクラブのお力添えもあり、吹矢やスラックラインなど、ニュースポーツの愛好者も増えております。

今後さらに、ライフスタイルの変化に伴って、町民のスポーツに対する関心とニーズは高まっていくことでしょう。

そのような中、貴協会の存在は誠に大きく、そのご活躍は、町民の健康づくりと地域や家庭の絆づくりに直結すると申し上げても過言ではございません。

この50周年を契機に、貴協会がさらに町民に親しまれ、スポーツが生活の中に定着されますことをご期待申し上げるとともに、私も、町民のすべてが、生涯にわたって、健康で、生き活きと暮らすことのできる「健やかなまち」をつくることに尽力してまいります。

結びに、伝統に輝く新十津川町体育協会のますますのご発展と会員皆さまのご活躍を祈念申し上げます、お祝いの言葉といたします。



新十津川町体育協会創立50周年を祝して

新十津川町議会議長 笹木正文

新十津川町体育協会が栄誉ある創立50周年を迎えられたこと、また、更なる飛躍へ向けての記念誌を発刊されるにことについて、大変意義深く、町議会を代表して心からお祝いを申し上げます。

日本のスポーツは、昭和40年代の急速な経済成長の中、地域住民の交流を重視する「コミュニティスポーツ」、昭和50年代からはスポーツの平等と民主化を進める「みんなのスポーツ」、平成に入ると生涯学習振興の一環である「生涯スポーツ」へと変化してまいりました。このような中、貴協会におかれましては、昭和44年の発足以来、町民のスポーツ活動において核となる団体としてスポーツ人口の拡大と交流を進めてこられました。更に、平成21年9月には特定非営利活動法人となり、ふるさと公園内体育施設の指定管理者として施設の管理運営に取り組むとともに、平成29年からは新十津川スポーツクラブを運営し、スポーツによる生きがいや健康づくりに寄与するなど、厳しい経済環境、社会環境の変遷の中で、町民の気持ちに立って日々ご努力されていることに、改めて敬意と感謝を申し上げる次第であります。

スポーツは、体力を向上させるとともに精神もリフレッシュさせるなど、心身の両面にわたる健康の保持と増進に資するものであります。また、近年のスポーツは「する」だけでなく「観る」、「支える」という関わり方もあり、2020年に開催を控える東京オリンピック、パラリンピックにおいても熱戦が望まれる中、スポーツが人々に与える勇気や活力の大きさは計り知れないものがあります。今後も貴協会におかれましては、町民誰もがスポーツに親しむための環境整備を通じ、スポーツ活動の発展と健康増進に寄与していただくことをご期待する次第であります。

結びに、新十津川町体育協会の充実と発展のために御尽力いただきました歴代の役員の皆様をはじめ、加盟団体をはじめ全ての関係者の皆様に感謝を申し上げますとともに、伝統に輝く新十津川町体育協会の今後の更なる発展を祈念し、お祝いの言葉といたします。



新十津川町体育協会創立50周年を祝して

空知管内体育協会連絡協議会

会 長 鎌 田 誠

新十津川町体育協会が昭和44年に発足され、この度、創立50周年という記念すべき年を迎えられましたことに対し、心からお祝いを申し上げるとともに、これまで協会発展に尽くしてこられた役員の方々をはじめ多くの関係者の皆さんに深く敬意を表するものであります。

新十津川町体育協会の50年の歳月は、町民一人ひとりの健康増進と生涯を通じてスポーツに親しむことができる環境づくりを目指し、レクリエーション・スポーツ大会の開催や各加盟団体の活発な活動を奨励するなど、スポーツ人口の拡大や交流を深めながら、町民スポーツの核となる団体として、たゆむことなく歩み続けてきた輝かしい歴史であると思います。

少子・高齢化社会が進む社会状況に置いて、私たちを取り巻く環境は大きく変貌して参りました。様々な問題が山積する厳しい時代の中で、健康の増進と生涯スポーツの推進のもと、明るく住みよい社会を築くため地域社会の中で何をすべきか、極めて重要な課題として私たちは真剣に取り組まなければならないと思っております。

そのためにも、活発な新十津川町体育協会の活動は、空知管内体育協会連絡協議会を構成する他市町の模範ともなることかと考えておりますので、今後の更なるご活躍を期待しているところでございます。

「2020年 東京オリンピック・パラリンピック」の開催が迫ってきており、全国的にもますますスポーツに対する関心の高まりが予想されるところでございますので、新十津川町体育協会におかれましてはこれまでの活動とその成果をもとに、健康増進と生涯スポーツの先導役としてますます発展し、飛躍されんことを祈念いたしましてお祝いの言葉といたします。



創立50周年を祝して

新十津川町教育委員会

教育長 久保田 純 史

新十津川町体育協会創立50周年を迎えられましたことに心からお祝い申し上げます。

顧みると、貴協会は昭和44年に子どもから高齢者まで幅広くできる地域スポーツの普及、振興をめざし7団体により発足し、以来町民スポーツの中核となる団体として町民の体力向上と健康増進に努めてこられました。

また、平成21年にはスポーツ人口の拡大に向けた教室やイベント開催など、事業の拡大と推進を図るため、特定非営利活動（NPO）法人を設立するとともに、翌年の平成22年からは、加盟団体や町民のニーズを踏まえた体育施設の管理運営を推進するため、ふるさと公園内体育施設の指定管理者として、今日まで良好な施設の維持管理を行なっていただいております。

こうした事業活動により、近年では手軽にできるスポーツとして平成29年にはラジオ体操会が、平成30年には吹矢倶楽部がそれぞれ協会に加盟し現在では14団体で480人の会員が各種目でスポーツに親しんでいます。

さらに、平成29年からは、町民がいつでも年齢に合わせ、手軽にスポーツ活動に取り組むことができる新十津川スポーツクラブを開設し、現在30種類のレッスンプログラムを設け、年間660人が参加し、心身のリフレッシュに励んでいます。

これもひとえに、吉田理事長はじめ役員や加盟団体さらには、歴代関係者によるご尽力の賜物であり心から感謝を申し上げます。

また、来年は東京オリンピック・パラリンピックが開催され、日本人選手の活躍が期待されていますが、たくさんの刺激や感動を受け、スポーツの素晴らしさを再認識し、本町から全国・世界で活躍する選手が誕生することを期待しています。

結びに、少子高齢化が進む今日、町民が生涯にわたり健康で明るく豊かな生活を推進するための「町民1日1回運動」を、体育協会が奨励していることに敬意を表するとともに、創立50周年を節目としてさらに発展されますことをご祈念申し上げ、お祝いのことばといたします。

新十津川町体育協会歴代会長



初代会長
鈴木源太郎氏
昭和44年6月
～昭和56年3月



2代
高樋正男氏
昭和56年4月
～昭和62年3月



3代会長 昭和62年4月～平成21年9月
初代理事長 平成21年9月～平成25年5月
現顧問 高宮九州夫氏

現 三 役



理事長
吉田邦男



副理事長
悪七廣雄



専務理事
谷口 榮

現 役 員



理 事
木 原 和 枝



理 事
西 村 麗 永



理 事
久 保 田 篤 司



理 事
上 家 國 義



理 事
佐 川 純



理 事
後 木 祥 一



監 事
関 山 洋 幸



監 事
出 田 光 夫

体育協会結成前の本町の体育活動（創立30周年記念誌から転載）

本町は明治22年、奈良県十津川郷を襲った大水害によって壊滅的な打撃を受けた人々が、新天地を求めて集団移住し、不撓不屈の精神と努力によって開いた町です。

文武の業を尊ぶ十津川郷の伝統を受け継ぎ、明治28年には道庁の認可を得て新十津川文武館を開校するなど、特に精神鍛練と武道の鼓舞を重視して青少年の教育にあたってきました。中でも剣道はその核として、誇り高く、揺るぎない伝統を築きあげてきています。

第2次世界大戦の終結とともに、本町にも同好者による各種のスポーツ団体が結成されるようになり、町の内外での大会にも優秀な成績を残す団体もあって、活発に活動が進められるようになりました。

以下、体育協会結成前の各団体の活動の状況を、新十津川百年史から転載します。

1 新十津川尚武会

母村十津川郷においては、勤王尚武を伝統とし誇りとしていたので、本町でも武道の奨励は極めて熱心であった。

開村初期の頃は、開拓小屋の庭先等で剣道を行っていたが、優れた指導者のいるところでは、逸早く演武場を建てて青年達に剣道を奨励した。また、少年たちには、明治28年（1895）2月文武館が開校すると剣道を正課として毎日実施したと伝えられている。

開村初期に結成されたと伝えられる尚武会の創立年は、不明であるが、明治37年日露戦争の時、村に奉公会ができたので、尚武会の事業一切をこれに委ねたとの記録があり、このころ既に尚武会があったようである。

明治36年に在郷軍人団が、同38年に青年会が結成され、両者ともそれぞれ会員に武道を奨励したが、青年会は日露戦争終結により解散した奉公会の事業も引き受けたので、尚武会の事業も行った。

明治43年11月、在郷軍人団の機構が改められ、名称も帝国在郷軍人会新十津川分会となったのを機に、青年会と相謀り尚武会を復活し、新十津川尋常高等小学校の剣道教師（役場付属員）であった柳剛流吉村政直（移住民）を師範とした。今は、この時をもって尚武会の創立年月日としているが、実際にはまだ早いのである。

翌44年3月、吉村は老齢を理由に辞任したので、母郷出身の辻村勇五郎を奈良県より招いて師範とした。辻村は奈良師範学校を出て県内の五条中学校撃剣教授（嘱託）兼、五条女子尋常高等小学校に奉職中であったが、乞われて来村して新十津川尋常高等小学校教師の傍ら、剣道の指導をしたのである。

その後、大正14年尚武の組織強化が図られて、村長を会長に在郷軍人分会長、青年団長、及び新十津川尋常高等小学校長を副会長に推し、全村民をもって会員とする組織に改められ、その事業も精神修養に関する講演会、剣道講習会、武術大会、各種対抗試合の開催など、年とともに活発な活動を行い、武道の発展に尽くした。

このころの剣道場は、各地区の青年集会所の役割も果たしていたが、大正初期までに建てられたのを演武場、それ以後昭和初期までに建てたのを青年会館、青年倶楽部等の看板を掲げていたが、いずれも剣道ができる間取りが特徴である。

また、西徳富、上徳富、中徳富、下徳富の各学校に剣道教師を配置して、生徒及び地域の青年

の指導に当たらせてたのである。

こうして村を挙げて剣道を行ったので、昭和13年において村の有段者数は、80人の多きに達した。

昭和20年、敗戦という戦争終結によって尚武会も自然解散となったが、昭和28年に至り有志の者が集まり、剣道を行うこととなり、名称も昔のままの尚武会とし「剣道により心身の鍛練と人格の向上を図り社会人として郷土の発展に貢献し、もって会員相互の親睦と剣道の振興に資する。」という同好者の団体として復活することとなった。

会長には村長が推され、村費によって、新十津川、下徳富、上徳富、吉野の4校に剣道具が備え付けられ、児童にも剣道が指導されるようになり、再び村の各所から竹刀の音が聞かれるようになったのである。

尚武会の大きな事業に「母村との交流」と「全国選抜少年剣道錬成大会出場」がある。

「母村との交流」は昭和35年9月、町の開基70周年記念式典に来町した母村の人たちと親善剣道試合を行ったことが契機となり、青年、少年の交流が行われるようになった。この剣道の交流は、町の人々を刺激し、各種団体の母村との交流が盛んに行われるようになり、両町村の親交を深めたのである。

「全国選抜少年剣道錬成大会」は、水戸市の剣道場東武館が主催する大会で、昭和37年母村訪問の途次、水戸市の東武館を訪ね指導を受けたのが縁となり、昭和39年第5回大会より毎年小学生が出場して、優秀賞、敢闘賞等数多く受賞している。

2 新十津川軟式野球連盟

本町で野球が行われるようになったのは、昭和5年である。同年10月5日、下徳富・橋本クラブ・役場・中徳富の4チームが橋本町グラウンド（石狩川橋の西側にあった。）に集まり村内対抗試合を行った。

その後、全村の同好会による大和クラブチームを結成して滝川へ遠征し、対外試合も行うようになった。

大和クラブの主要メンバーは、金野大介・西正明・中林豊次・矢野竜馬・平賀政治・鮎田寛二・堀克己らであった。

日華事変から太平洋戦争に入り、戦局がし烈になるにしたがって野球は一時中絶の状態となったが、戦後昭和22年再び野球熱がぼつ興し、翌23年には、新十津川軟式野球連盟が結成され、昭和25年ごろの加盟チームは、大和（橋本町）、ナインスターズ（菊水町）、下徳富イーグルス、杉浦木工場、役場、新十津川農協、新十津川郵便局、教員の8チームを数えた。

その後野球熱はやや停滞ぎみで、チーム数にも変動があり、連盟は自然解散の状態となったが、昭和36年、表谷英夫・松田正一らの尽力でその再建がはかられ、昭和38年ごろの加盟チームは、教員クラブ・役場・新十津川農協・中信金・下徳富・金滴・学園の7チームであった。全町から優秀選手を選抜して「新十津川クラブ」を結成し、国体予選、東日本準硬式、天皇杯、白熊杯などの北空知予選大会に出場し、健闘している。特に昭和39年の天皇杯北空知予選では、みごと優勝を成し遂げ、全道大会に駒を進めた。

連盟主催の大会としては、町内大会年4回のほか、読売杯争奪北空知準硬式選抜大会を開催した。

昭和42年、朝野球協会が結成され、出勤前のひとときを、健全なスポーツをとおしてお互いの

親睦と、友愛の精神を養うことを目的とした。当初の構成チームは、三枝商店、清水靴店、松葉商店、笹木クリーニング、中根建設、三谷工業所、役場OBの7チームである。

歴代会長

- | | |
|---------|---------|
| 1 杉浦 順孝 | 2 矢野 竜馬 |
| 3 表谷 英夫 | 4 島田 薫 |
| 5 三枝 泰司 | 6 仲谷 武夫 |

3 新十津川排球クラブ

本町における男子のスポーツには、古い歴史と伝統をもつ剣道があり、戦後は野球・籠球・弓道など幅広く、かつ、盛んになってきたが、一方、女子のスポーツにはほとんどみるべきものがなかった。

昭和28年6月、上徳富中学校教諭であった吉田義男が中心となり、女子の同好者58人を集めて上徳富排球クラブを結成した。排球を選んだのは、水田勤労による不健康な姿勢を正そうというのが理由であった。

技術指導には、吉田義男・善生利弘・中俣茂雄・篠原節子ら（上徳富小学校、同中学校教諭）が当たり、クラブ員は、家業を終えてから夜間練習を続け、めきめき腕をあげ、チーム結成2年目で全道大会に出場して第3位の成績をあげた。

昭和35年4月、上徳富排球クラブを発展的に解消し、全町から同好者が参加できるようにという趣旨で、新十津川排球クラブと改称し、輝かしい戦績を残した。

主な戦績

昭和29・8	全道青年大会3位	昭和32・8	全道選手権大会2位
〃 29・9	全国青年大会参加	〃 34・8	全道選手権大会優勝
〃 30・9	中空知青年大会2位		国体中空知予選優勝
	国体中空知予選優勝	〃 35・8	全道青年大会6位
	全道選手権大会優勝	〃 36・8	全道青年大会
〃 31・8	全道青年大会2位		準々決勝で惜敗
・11	全道選手権大会優勝	〃 37・8	全道青年大会準優勝
〃 32・8	全道青年大会優勝	〃 38・8	全道青年大会
	全道選手権大会優勝		準決勝で惜敗
	(3連覇)		
・11	全国青年大会出場		
	準々決勝で新潟に惜敗		

歴代会長

- 1 岡本 信雄 昭28・6～昭34・3
- 2 藤崎 信一 昭34・4～体協結成まで

4 新十津川籠球協会

昭和25年4月、新十津川中学校教諭前川庄作・安田麻夫・教育委員会渡辺博文らが中心となって設立した。設立以来、毎年春秋2回の町内大会、審判技術講習会の開催、バスケットボール教

室の開設、近隣市町村チームとの交歓試合などを行っている。

昭和38年当時の所属チームは、上徳宮・郵便局・役場・新十津川中学校教員・新十津川小学校教員・新十津川高校（生徒）・下徳富2チーム・新中同窓生チーム2チームのあわせて11チームであった。

また、役場チームは他チームの優秀選手を補強して「新十津川町役場チーム」の名称で実業団Cブロックに加盟登録し、全道大会などにも参加した。

歴代会長には新十津川中学校長が選ばれていた。

森谷 弥一 昭25・4 茂野 実 昭28・4

高見 米蔵 30・5 市田 次男 33・4

鈴木 忠義 34・7 橋爪藤司一 38・6

高樋 正男 42・1

5 新十津川弓道会

昭和28年10月、竹井己之助（5段、幸楽園主、元滝川警察署長）北向与八（6段、総富地小学校長）の熱心な勧めにより、吉成清（教育長）・藤森純義・山口諭・川合弘起・神原熊太郎・細谷義雄らが中心となって結成した。

弓道は、年齢にかかわらず比較的入りやすいところから、会員はたちまち20名ほどとなり、翌29年9月、玉置神社の祭典には、射場を設けて奉納射会を開いた。

指導は、主として北向6段が当たったが、北向は29年滝川へ転出した。しかし、会員の熱心な練習によって段位を獲得する者が増え、昭和33年には、藤森4段を筆頭に有段者6名を数えるようになった。昭和38年当時は会員20名程度で、その数は発足当時とほとんどかわらないが、全員が有段者で、町内の大会をはじめ、道内各地の射会に出場していた。

歴代会長

竹井己之助・藤森 純義・橋本 英彦

6 新十津川柔道同好会

昭和36年8月、当時新十津川小学校長であった野原次郎輔が渡辺鉄三郎・続木朝一・西田勇らとともに結成し、町費の助成と篤志者の寄付によって新十津川小学校のあき教室に、畳40枚を入れて道場を開設した。同月27日滝川・住友赤平・東洋高圧・妹背牛・江部乙・月形の6チームを招いて同好会結成記念柔道大会を開催したが、町内の柔道人口は極めて微々たるもので、新十津川チームを結成してこれに参加するまでに至らなかった。

その後もそれほど発展をみていないが、活法・審判法・救急法などの講習会を開いて一般への柔道の普及をはかったり、青少年の健全育成という立場から小・中学生に対する柔道指導を行ったりしていたが、昭和42年ころから適当な指導者が得られなくなり、解散の状態になった。

歴代理事長

野原次郎輔 福永 清治

体育活動の記録

年 月 日	記 事
明治 22. 8. 19	十津川大水害（～20日）
11. 18	十津川罹災者移住民空知太到着
23. 1. 15	北海道庁令第1号をもって新十津川村設置
6. 15	移住民567戸新十津川村に入地
7. 26	第2次十津川移住民197人ソッチへ来住
28. 2. 11	私立新十津川文武館開校
31. 9. 6	石狩川大洪水 被害甚大
32. 9. 25	子爵渡辺昇一行来村、文武館で大撃剣会開催
33. 6. 12	東京高師校長嘉納治五郎来村、文武館で講演
35. 9	私立新十津川文武館廃校
9. 15	新十津川高等小学被設置
39. 9. 10	新十津川酒造株式会社創立
41. 11. 3	演武場開場式
43.	尚武会結成
44. 8. 1	村沿革史「遠津川」完成
45. 4. 7	ピンネシリ登山、村吏員、教員他11名
(大正元) 11.	新十津川郵便局電話業務開始
大正 3. 12. 30	菊水町、橋本町に電灯がつく
4. 7. 18	菊水町有志役場前で自転車競走運動会開催
5. 11. 3	立太子礼泰祝高等科紅白撃剣大会
6. 8. 27	青年会主催ピンネシリ登山、支庁長他100余名
8. 6. 10	村内5校連合運動会
10. 7. 2	全村青年団少年団連合大運動会、菊水町グラウンドで
11. 4. 3	全道武術大会新十津川校で開催
13. 2. 3	滝川で開催の全道剣道大会高点試合で 野崎 勇1位、玉置 宣夫2位となる
14. 7. 12	菊水町で空知連合青年団陸上競技会開催
昭和 3. 9. 13	深川で開催の全空知剣道大会で尚武会大勝する
4. 11.	武術御前試合本道選手代表に玉置寛夫、 少年団代表に桑田秀次を派遣
5. 3. 2	岩見沢で開催の空知連合青年団町村対抗剣道大会で優勝
10. 5	橋本町グラウンドで第1回村内野球大会開催下徳富・橋本クラブ・役 場・中徳富校の4チーム参加、役場優勝
6. 3. 27	第8回空知武道大会で5度目の優勝
11. 3. 8	全道武道大会を新十津川小学校で開催
21. 8. 18	全新十津川野球大会を新十津川国民学校で開催

年 月 日	記 事
昭和 23.	軟式野球連盟結成
25. 4. 1	新十津川籠球クラブ設立
28. 6. 5	上徳富排球クラブ発足
7. 20	新十津川尚武会設立総会
10. 30	新十津川弓道会設立
29. 10. 2	上徳富青年団女子バレー全国大会出場
32. 1. 1	町政施行
8. 20	町政施行記念大相撲開催 新十津川卓球連盟結成
34. 11.	中央体育館竣工
35. 4.	上徳富排球クラブを新十津川排球クラブと改称 第15回北海道弓道選手権大会で続木朝一三段が優勝
36. 8. 28	新十津川柔道同好会発足
36. 8. 6	第1回町内体育祭を新十津川小学校で
39. 3. 29	全国少年剣道錬成大会（水戸市）に尚武会少年選手初参加、団体敢闘賞、田岡覚志最優秀賞
40. 2. 20	第17回道民体育大会登山部門大会をピンネシリで開催
41. 1. 5	公民館前広場にスケートリンク開設
7. 17	町営中央プール完工式並びにプール開き
42. 6.	朝野球協会発足（7チーム）
43. 8. 3	開道100年記念空知スポーツ大会青年女子バレーで大和チーム優勝
12. 4	町立体育館新築竣工
44. 6. 13	新十津川町体育協会設立
44. 8. 10	尚武会創立60周年記念剣道大会 「新十津川ピンネ」バレーボールママさんチーム結成 新十津川卓球連盟、体育協会に加盟
45. 11. 1	開基80周年記念式典 籠球全道クラブ選手権（Cクラス）優勝
47. 10. 10	第1回歩け歩け運動実施
48. 11. 30	尚武館建設工事竣工
50. 1. 8	新十津川町スキー協会結成
12. 27	スケート愛好会発足
51. 2. 11	上総進地区で第1回町民歩くスキー大会
52. 8. 7	第1回町内子どもソフトボール大会 尚武会が北海道スポーツ賞を受賞
53. 10. 10	新十津川尚武会文部大臣表彰
54. 4. 10	新十津川柔道連盟設立
55. 3. 8	新十津川ソフトボール協会設立

年 月 日	記 事
昭和 55. 3. 30	新十津川柔道連盟主催第1回町民柔道大会
8. 3	開基90周年記念第1回町民大運動会
8. 24	第1回全町ソフトボール大会(男子)
9. 7	尚武会創立70周年記念式及び剣道大会
9. 15	第1回空知少年柔道大会
9. 15	中空知地区弓道大会
11. 24	新十津川町バドミントン協会設立総会
12. 21	スキー協会新十津川スキー場オープン式
12. 25	新十津川町剣道史発刊
56. 9. 19	スキー場を町営そっち岳スキー場とし、ロープトウ2基、夜間照明等を整備 町内にゲートボール競技活動を始める
57. 3. 14	卓球連盟、拓銀女子卓球部を招待、模範試合
7. 4	山村多目的広場(野球)開場式
7. 14	第1回全町婦人ミニバレーボール大会
10.	ふるさと公園野球場、テニスコート竣工
59. 6. 16	花月剣道少年団決団式
60. 4. 21	新十津川柔道スポーツ少年団結成入団式
7. 7	第1回新十津川町少年柔道大会
11. 17	新十津川町少年サッカースクール開校式
11.	総進体育館竣工
61. 3. 16	第1回全町男子ミニバレーボール大会
6. 28	新十津川町ゲートボール連盟結成 第1回ゲートボール親睦大会
7. 27	第4回全道小学生選抜陸上競技大会(網走市)で大和小5年村本政美 200米で優勝1500米で2位
8. 3	全道中学校剣道大会(釧路市)で新十津川中学校優勝(2回目)全国 大会出場
63. 11.	ふるさと公園にゲートボール場竣工
平成 1. 1. 30	新十津川町スポーツセンター竣工
3. 10	新十津川町勤労者水泳プール竣工 新十津川スイミングクラブ設立
2.	新十津川町開基100年記念関連行事開催
4.	新十津川スイミングクラブ体育協会に加盟
3. 7. 19	新十津川ミニバレーボール協会設立
7. 28	ふるさと祭協賛12時間ソフトボール大会開催
8. 4	全道中学校剣道大会(稚内市)で新十津川中学校男子優勝、全国大会出場
11.	ふるさと公園サッカー場竣工

年 月 日	記 事
平成 4. 4. 30	新十津川ミニバレーボール協会、体協に加盟
8. 2	全道中学校剣道大会(足寄町)で新十津川中学校男子優勝、全国大会出場
10. 15	サンスポーツランド(野球場、テニスコート)竣工
10. 29	株式会社渡辺鉄工所より地域スポーツの発展にと体育協会に50万円を寄附されました。
5. 6. 10	新十津川パークゴルフ同好会設立
6. 3. 4	新十津川大極拳同好会設立
4. 4	新十津川パークゴルフ同好会、体協に加盟
	新十津川スイミングクラブが、新十津川水泳協会と名称変更
8. 10	新十津川中央野球スポーツ少年団ホワイトベアーズ、第1回全軟式野球選抜大会(江別市)で優勝
7. 8. 6	第1回ピンネシリ登山マラソン
10. 21	新十津川体育協会親睦パーティー
8. 9. 1	新十津川体育協会親睦パーティー 第32回全道教職員剣道大会において 新十津川中教諭松井大介が中学校の部で、 新十津川小教諭高田恭介が小学校の部で優勝する
9. 7.	サンウッドパークゴルフ場竣工
8. 3	第3回ピンネシリ登山マラソン
9. 7	新十津川体育協会親睦パーティー
9. 28	全道マスターズ短水路新十津川町水泳競技大会
11. 28	新十津川テニス協会設立
12. 2	そっち岳スキー場にペアリフト(331m)設置
12.	新十津川スキー協会新十津川パークゴルフ同好会が、新十津川スキー連盟、新十津川パークゴルフ協会に名称を変更する
10. 2. 13	新十津川テニス協会、新十津川太極拳同好会が体育協会に加盟
8. 30	体育協会親睦パーティー
9. 6	第4回ピンネシリ登山マラソン(橋本聖子参議院議員参加) ゲートボール連盟、第11回全国スポーツレクリエーション大会に出場、敢闘賞を受賞
11. 2. 15	新十津川ハーフテニス同好会体育協会に加盟
7. 30	有限会社クラウンより体育協会創立30周年記念事業にと体育協会に5万円を寄附されました。
8. 4	なぎなたの島貫和子さんより体育協会創立30周年記念事業にと体育協会に1万円を寄附されました。
各 年	平成7年1月の「健康まつり」を皮切りにかんぼ健康増進支援事業(各町内郵便局)によって現在まで計20回約237万円が各種スポーツ・レクリエーション大会の運営のために援助されています。

年 月 日	記 事
平成 11. 9. 9	体育協会創立30周年記念式典・祝賀会
13. 3. 25	新十津川尚武会（小学生）が第42回全国選抜少年剣道錬成大会でベスト6
15. 8. 21	松井雅嗣君が第33回全国中学校剣道大会男子個人の部で第3位
16. 1. 11	村中一美氏ら9人が第50回十津川村駅伝大会出場
17. 8. 20	新十津川中学校剣道部が第35回全国中学校剣道大会男子団体の部で準優勝
20. 5. 20	ドリームベースボールで名球会メンバーが来町
21. 9. 18	特定非営利活動法人新十津川町体育協会が設立
22. 4. 1	体育協会がふるさと公園内の体育施設の指定管理を町から受託
22. 7. 28	NHKラジオ夏期巡回ラジオ体操・みんなの体操会がイベント広場で開催
22. 7. 30	新十津川中学校野球部が第61回北海道中学校軟式野球大会で初優勝し、全国大会へ出場。
23. 11. 1	そっち岳スキー場リフト運行業務を町から受託
24. 6. 9	ピンネスタジアムでイースタンリーグ公式戦日本ハム対読売巨人戦開催
26. 11. 26	日本ハム金子誠選手、岡大海選手が応援大使として来町
28. 7.	ピンネスタジアムのスコアボード全面改修
29. 4. 1	体育協会が新十津川スポーツクラブ業務を町から受託
29. 5. 15	新十津川ラジオ体操会が体育協会に加入
29. 7. 29	新十津川中学校女子剣道部が第38回北海道中学校剣道大会で初優勝。全国大会へ出場。
29. 8. 13	ピンネスタジアムでイースタンリーグ公式戦日本ハム対読売巨人戦開催
30. 7. 28	NHKラジオ夏期巡回ラジオ体操・みんなの体操会がイベント広場で開催
30. 8. 30	新十津川吹矢倶楽部が体育協会に加入
30. 11. 3	スラックライン世界チャンピオン木下晴稀氏を招き、新十津川小体育館で体験会を開催
令和 元. 7. 10	体育協会創立30周年記念式典・祝賀会

尚 武 会

設立 不明(1953(昭和28)年7月20日復活)

加盟 1969(昭和44)年6月13日

沿 革

新十津川町は、奈良県十津川郷から600戸、2,489人の移住者によって拓かれた町である。

明治22年8月19日、未曾有の大水害に襲われた。水害から3ヵ月後には滝川の屯田兵屋に集結。翌年6月15日トック原野へ移住がなされた。

新十津川の剣道は、町の歴史と移住者の故郷、奈良県十津川村の歴史を抜きにして語ることはできない。すなわち母村十津川村には、672年の壬申の乱以来、保元の乱、南北朝時代、幕末と朝廷の護衛に馳せ参じた歴史がある。古くから勤皇尚武の志厚く、文武の気風は代々村民に受継がれてきた。

被災者が北海道へ移住する決め手としたのは、新天地に安住の地を求めるとともに、ロシアの南下政策に対して北海道を守る北門の鎖やく(北辺国境を警備し、北門の守りとなる。)を尽くすためでもあった。

移住者達は、滝川への途中、11月3日天長節(文化の日)に市来知(三笠)の空知監獄署の看守と撃剣の試合を行ったことからその気概を知ることができる。

入植の年、直ちに学校の建設を始め、翌年には二つの小学校が開校した。青年への期待も大きく、移住早々青年の教育は武の鍛錬からということで演武場を建て尚武会を発足させ、青年は武道に励んだと伝えられている。

村役場の当直日誌には、「明治38年1月6日に尚武会大撃剣会開く」と記載されており、この頃すでに尚武会なる組織があったようである。しかし詳しいことは不明である。

入植以来豊作が続いたが、明治30年の夜盗

虫の大発生、翌年の石狩川の大洪水と大きな被害を受け続け、尚武会の活動も休止状態となっていく。

やがて開墾事業が成功し、村の安定期に入ると再び剣道が行われるようになる。明治43年11月3日在郷軍人分会、青年会の両者により尚武会が復活する。これをもって新十津川尚武会の始まりとしている。このような経過を踏まえ、新十津川尚武会の周年行事には復活の言葉をいれて入れている。

大正14年には村長を会長として全村民を会員とした村ぐるみの剣道団体となり、村技として剣道が奨励されていた。

戦後の一時期剣道は中断したが、昭和28年新十津川尚武会が復活した。

昭和35年に新十津川町開基70周年を記念して行われた新善剣道大会を機に母村十津川剣道クラブとの交流が始まる。これはその他母村との交流の先駆けとなるものであった。

昭和38年には有段者200人を数えたが、過疎化の進行により剣道人口も漸減した。

そうした中、昭和48年には剣道専用道場である町立新十津川尚武館が落成、青少年の剣道振興に拍車がかかり、各種大会で好成績を残してきた。平成に入ると成人・少年の活躍がめざましく、平成17年の中体連全国大会では団体戦2位の成績を残した。

また尚武会少年部から巣立った多くの剣士が道内をはじめ全国各地で活躍している。

最近では故郷に戻り居を構えたり、家業を継ぐ青年が増え、尚武会員として稽古に励む姿が見られる。

平成30年現在、尚武会会員数は成人47名、少年部は30名と近隣市町村中、上位に位置している。平成24年12月には(中学校剣道場・尚武館)が建設された。北海道内においても

これだけの環境を有する施設は稀であり、注目されております。これに恥じないよう会員一同、将来に向かい、元気で仲良く和をもって、永久に精武していくことが目標。

1. 組織

年間行事

- 1月 事始め稽古会、寒稽古、級審査
- 8月 土用稽古、級審査、町内剣道大会
- 9月 新十津川神社祭典奉納剣道大会

役員

任期平成30年4月1日～32年3月31日

- 顧問 長名 實・白石 昇
- 会長 上家國義
- 副会長 竹原嘉一
- 少年指導部長 竹原嘉一
- 理事長 小野由貴
- 副理事長 宮井浩之
- 理事 泉谷文雄・佐藤武久・和歌伸洋
高橋一徳・清野正嗣・谷島靖弘
前谷卓男
- 監事 松田義雄・鈴木久一
- 事務局長 政所正人
- 事務局員 白石 学・後木啓史

2. 全道大会成人の成績

(平成12年以降)

全道団体優勝大会(旭川)

D級(60歳以上の部)

・平成26年準優勝

(先鋒泉谷文雄・次鋒竹原嘉一・中堅後木祥一・副将上家國義・大将白石 昇)

・平成27年優勝

(先鋒鈴木久一・次鋒泉谷文雄・中堅竹原嘉一・副将後木祥一・大将上家國義)

B級(5段以下)平成12年第3位・平成24年第3位・平成25年第3位・平成27年第3位

3. 十津川剣道クラブとの交流

- 1) 十津川剣道クラブ復活50回記念大会
(平成13年8月新十津川から会長以下3名参加)
- 2) 交流試合
(平成17年11月十津川へ会長以下20名参加)
- 3) 新十津川町開町120周年記念尚武会復活120周年記念大会
(平成22年8月十津川から会長以下20名参加)
- 4) 新十津川中学校武道場(尚武館)落成記念大会
(平成25年2月十津川から会長以下26名参加)
- 5) 十津川高校150周年記念大会
(平成26年11月十津川へ会長以下7名参加)
- 6) 交流試合
(平成27年11月十津川へ会長以下20名参加)

4. 成人が参加している主な大会

- ・全道規模大会：
全道団体優勝大会(旭川市)・全道段別個人選手権(札幌市)・国体予選(札幌市)・都道府県予選(札幌市)・北海道剣道祭(札幌市)・北海道高齢者大会(札幌市)
- ・空知管内規模：
全空知剣道大会・中空知剣道大会
- ・その他：
西部北海道剣道大会(留萌市)・石狩川右岸市町村対抗剣道大会(持回り)・農民交流剣道大会(持回り)・町村職員剣道大会(札幌市)

新十津川の少年剣道

1. 概要

新十津川の少年剣道の歴史については即ち尚武会の歴史であり、尚武会は町の歴史と共に歩んできた。少年剣道を大括りにすると開村から昭和20年の敗戦までの黎明充実期、昭和28年の剣道復活から昭和48年までの復興発展期、昭和49年の「尚武館」開館から現在までの飛躍期の3期に大別することができる。

今回、体育協会50周年記念誌に掲載するにあたっては、昭和49年から現在に至る「飛躍期」について記す。

昭和期の少年剣道は各地区の学校を中心に活動していたが、昭和47年に町より剣道場建設の話が起きて、昭和48年8月着工、同年11月に完成、昭和49年2月に開館式を行った。これにより中央地区における少年及び一般の剣道愛好家の修錬の場が確保されることとなったが、花月・大和地区の少年剣道は各学校が活動の中心であった。

昭和51年には増谷晴雄・田中弘明両氏が尚武会長より任命されて指導に当たっていたが、昭和54年に至り、町では専任指導員（社会教育指導員）を置くこととなり、田中弘明氏が任命され、田中氏の下、上家國義、後木祥一、竹原嘉一の各氏が手伝えることとなった。一方花月、大和は尚武館が遠いこともあり、少年剣士の数が激減、少年の剣道が途絶える状況となった。この事態を憂慮した剣道関係者はそれぞれの地区において剣道少年団を結成、昭和59年5月には大和剣道少年団が、同年6月には花月剣道少年団が発足し少年剣道の復活を見ることができた。大和地区剣道少年団の発足、指導には平田角平、吉田和男、田中弘、宮本英靖、島宗広吉、泉谷文雄、鈴木久一の各氏が当たった。また、花月剣道少年団の発足、指導には松本進、村部邦男、出田勇、野崎光秀、白石昇の各氏が当たった。これにより中央、花月、大和の3地区において小学

生の活動が始まり、中学生は尚武館において活動することとなった。「平成」の時代に入り、各小学校に優れた剣歴を持つ教員が配置された。大和小には荒木恵、花月小には高田宏昭、高橋一徳、新十津川小には高田恭介、そして新十津川中には松井大介の各先生が着任、少年たちは、小学校時代は3校で鑄を削り、中学校では同じ道場で切磋琢磨することとなった。

平成7年度の少年剣士の数は大和14名、尚武館17名、花月26名の合計57名の少年剣士を数えたが、以降人数が減少し始め花月では、同年から1年生の募集を停止する事態となった。平成13年に至り会員数の減少により大和、花月の剣道少年団は閉団の止むなきに至った。

尚武館では、平成10年3月に田中弘明氏が町教育委員会の生涯学習推進アドバイザーを退職、それに伴い尚武館館長に後木祥一氏が就任、高田恭介、松井大介両氏とともに小・中学生の指導に当たることとなった。平成13年の花月、大和の剣道少年団閉団以降は少年剣道の活動拠点は尚武館に集約されることとなり、教員の異動により指導陣にも異動があり、小学校では戸井一貫、高橋一徳、松浦健吾、中学校では西谷幸一、西谷広大、谷島靖弘、深川智史の各先生が指導に当たった。

平成24年4月に後木祥一氏が教育委員会より剣道指導員の委嘱を受け、同氏を中心に輪島昌幸、宮井浩之、前谷卓男、上家茂の各氏及び小・中学校の教員とともに少年剣道の指導に当たっている。平成30年4月には竹原嘉一氏が少年剣道指導の責任者として尚武会から任命され、同氏を中心に指導陣が構成されている。

【余談】

尚武館については、昭和49年に開館し多くの少年剣士を輩出してきたが、老朽化により平成25年には新しい尚武館（新十津川中学校武道場）が開館した。尚武館には多くの扁額が掲げられているが、新しい尚武館の正面に

は十津川村長更谷慈禧氏の揮毫による「尚武館」及び「新十津川中学校武道場」の額が掲げられ、建物内部には十津川村教育委員玉置豊氏揮毫による「尚武」の額、道場内には東志青邨氏揮毫による「尚武館」、東大寺長老清水公照氏揮毫による「快剣掃雲」の額が掲げられている。「快剣掃雲」の由来は母村十津川高校武道場に掲げられている、昭和の剣聖と言われた高野佐三郎氏及び嫡子高野弘正氏の揮毫による扁額を参考にしたものであり、同じ文字が新旧十津川に存在している。また、「道場訓」の額は、文は田中弘明氏、書は高樋正男氏（元新十津川中学校校長）によるものである。

旧尚武館の師範室入り口には「座鬼窟」の額が掲げられていた。この額は田中弘明氏が考案したものでウイットに富んだ額であった。少年たちにとって師範室は正に鬼の居る場所として映っていたのかも知れない。

尚武館では「茶坊主」の制度を設けていた。小学生の中級生あたりが指名されるが、この茶坊主は師範室の出入りが自由であった。即ち、稽古前あるいは稽古終了後、先生方にお茶を出すのであるが、お茶の入れ方から指導を受けた。まずは湯冷ましをし、急須に移し、急須を静かに回し湯呑に注ぐのであるが、注ぎ方の指導も受けている。このように茶坊主の指名を受けることは、先生方のよもやま話を聞ける特権を持っていた。また、この茶坊主の制度は来訪者をたいそう驚かせることとなった。来客時には少年たちが座布団、お茶を入れお客さまに提供することから、他館からのお客様は大変驚き、恐縮されていた。

2. 少年剣士の活躍

この章では、主な大会における少年剣士達の戦績を別紙に記す。

3. 少年指導に携わった先生のお話し (尚武館創立25周年記念誌より抜粋)

【松井大介先生】

平成8年3月に初めて佐賀、宮崎遠征を行い、その後、青森、兵庫、鹿児島遠征と保護者の方々には大きな負担をかけてきていますが、それぞれの遠征において技術的な成長はもちろん、行ったことのない土地で、親元を離れ、たくさんの地域の方々にお世話になり、たくさんの剣友が出来るといことは、お金に代えられない経験であり、将来に必ず役立つ大きな財産となっていると確信しています。そして、そこでの経験が大会シーズンに向け、一皮むける大切な時期となり、北海道一になった者にしか解らない体験を手につなぐもので、これからも保護者の方々のご理解、ご協力をお願いします。尚武館卒館生たちのその後の姿を見ますと、迷い、悩みながらも、それぞれの道で成長し、剣道を更に極めていこうとする者、学業に専念し、外国に留学した者、教育者を目指す者、医者を目指す者、家業を継ごうと考えている者と多岐にわたっております。それぞれの今後の活躍を祈念しつつ、夏休み、冬休みの帰省を楽しみに、また、現状報告、後輩指導で卒館生が一杯になる尚武館を誇りに思っています。

【高田恭介先生】

当初の私は、伝統ある道場の名を汚してはならない、自分が指導することにより、成績が落ちることになったらどうしようということばかりを考えていました。試合の結果に一喜一憂しながら、技術を体得させることに重点を置いた指導に必死でした。時には稽古を半強制的にやらせ、私の思うようにできなければ、叱る、責める、の連続でした。自分は一生懸命しているはずなのに、試合での成績が上がらない、そう悩む毎日でした。しかし、日々子供たちと接する中で、どんなに技術指導しても、子どもたちにそれを受け入れるま

じめさや真剣さがなければならぬということに、私はようやく気が付き始めました。普段の生活態度がいかに重要であるかということを知ったのです。それまでは技術指導、そして成績を残すことにこだわっていた私でしたが、生活がきちんとしていれば、結果は自ずとついてくるはずだと考えるようになりました。それからの私は、「道場訓」に記されている内容にふれて指導することが徐々に多くなりました。この道場訓は、剣士としての心構えと同時に、一人の人間としての生き方を子供たちに伝えているものだと思ったからです。子供たちには、この道場訓をよく理解し、少しでも近づけるよう努力してほしいと願っています。

「道場訓」

この道場は町の人々が私達のために建ててくれました。私たちは町の歴史と伝統に誇りを持ち、立派な人間になるために次のことを守ります。

- 一、基本を正確にし、工夫研究します。
- 一、礼儀を重んじ、年長者を敬います。
- 一、心を正しく、体をきたえます。
- 一、しんぼう強く、休まずけいこします。

4. 卒館生のお話し

(尚武館創立25周年記念誌より抜粋)

【平成5年度卒 佐藤勝也】

当時、私は勉強よりも剣道が好きで明けても暮れても剣道ばかりしていました。素晴らしい先生方の指導の下、暑中稽古、寒稽古、合宿等、毎日稽古に励んでいました。特に印象に残っているのは、暑さ対策として真夏に道場を締め切って暖房をつけての稽古は本当につらかったです。その稽古のおかげで本州の大会には暑さに負けることはありませんでした。仲間と助け合い汗を流した事は今の私の大きな財産となっております。また、尚武館の教えは、剣道はもちろん礼儀作法、私生

活を主にした人間関係にありました。試合に勝っても礼儀が出来てなければひどく怒られたものです。この教えは現在でも非常に生かされております。そして剣道は全国レベルの強さであり、小さい頃から優勝旗が数多く道場に飾られていて、先輩たちの活躍が素晴らしいものだと感じました。そして私が中学2年生の時、目標であった道場大会と中体連の全道優勝を達成することができました。あの時は涙が出るほど嬉しく、先生も父母の方も自分のことのように喜んでくれたのを憶えております。

【平成10年度卒 金山裕介】

小学校では時に厳しく、時にやさしい先生方、そして仲間達と共に剣道をする事の楽しさを学びました。そしてその楽しい剣道を「剣の理法の修練による人間形成の道」としてとらえるようになったのが尚武館での3年間です。尚武館での剣道は小学校の頃に比べ、量的にも質的にもいっそう厳しさを増し、入門当初は苦しい、辛いと思ったことも多々ありました。しかしその苦しみに耐え、慣れてくる頃には、技術面において高いレベルまで到達することができました。また、技術面を鍛えられると同時に精神面及び生活面に関しても先生方から多くのご指導をいただきました。例えば、審判に誤審があったとしても、不平をもらさず真摯に受け止めることや、試合結果に一喜一憂するのではなく自分に納得のいく試合をすること。「文」を疎かにせず、知性や教養を高め、文武両道を目指すことなどです。そしていつも心がけておかなければならなかったのが、謙虚であることでした。おごることなく、いつまでも向上心を持つことが大切であると教わりました。

1. 小学生の成績

1) 主催 北海道剣道連盟

ア. 北海道少年剣道錬成大会 (団体戦)

年 度	第何回大会	団体名	成 績
昭和 54 年	第 28 回大会	新十津川尚武会	準優勝
昭和 55 年	第 29 回大会	新十津川尚武会	第 3 位
昭和 63 年	第 37 回大会	新十津川尚武会 A	第 3 位
平成 15 年	第 52 回大会	新十津川尚武会 A	第 3 位
平成 18 年	第 55 回大会	新十津川尚武会 A	優 勝
平成 26 年	第 63 回大会	新十津川尚武会 A	優 勝
平成 27 年	第 64 回大会	新十津川尚武会 A	優 勝
平成 29 年	第 66 回大会	新十津川尚武会	準優勝

イ. 「赤胴」少年剣道錬成大会 (個人戦)

年 度	第何回大会	選手名	成 績
昭和 53 年	第 20 回大会	細川 雅史	第 3 位
昭和 62 年	第 29 回大会	佐藤 政行	準優勝
平成 7 年	第 37 回大会	後木 孝哉	第 3 位
平成 8 年	第 38 回大会	後木 顕人	優 勝
平成 15 年	第 45 回大会	佐藤 優平	第 3 位
		丸田 悠太郎	第 3 位
平成 16 年	第 46 回大会	久保田 尚也	優 勝
平成 18 年	第 48 回大会	久保田 和巳	第 3 位
平成 27 年	第 57 回大会	南 大祐	第 3 位
平成 29 年	第 59 回大会	鈴木 道大	第 3 位

2) 主催 全日本剣道道場連盟 (主管 北海道剣道道場連盟)

ア. 北海道道場少年剣道大会 (兼全国大会予選) (団体戦)

年 度	第何回大会	団体名	成 績
昭和 54 年	第 3 回大会	新十津川尚武館	優 勝
昭和 56 年	第 5 回大会	新十津川尚武館 B	第 3 位
昭和 59 年	第 8 回大会	新十津川尚武館 B	第 3 位
平成 8 年	第 20 回大会	新十津川尚武館 A	準優勝
平成 12 年	第 24 回大会	新十津川尚武館 A	優 勝
平成 14 年	第 26 回大会	新十津川尚武館 A	第 3 位
平成 15 年	第 27 回大会	新十津川尚武館 A	準優勝
平成 27 年	第 39 回大会	新十津川尚武会	第 3 位

平成 28 年	第 40 回大会	新十津川尚武館	優 勝
平成 29 年	第 41 回大会	新十津川尚武館	優 勝

イ. 北海道道場少年剣道大会 (個人戦)

年 度	第何回大会	選手名	成 績
昭和 55 年	第 4 回大会	細川 和義 (男子個人)	第 3 位
昭和 58 年	第 7 回大会	小野 由貴 (男子個人)	準優勝
平成 6 年	第 18 回大会	水谷 綾子 (女子個人)	第 3 位
平成 12 年	第 24 回大会	松井 雅嗣 (男子個人)	準優勝
平成 15 年	第 27 回大会	佐藤 優平 (男子個人)	準優勝
平成 16 年	第 28 回大会	久保田 尚也 (男子個人)	第 3 位
平成 18 年	第 30 回大会	久保田 和巳 (男子個人)	準優勝
平成 22 年	第 34 回大会	倉田 健人 (男子個人)	優 勝
平成 26 年	第 38 回大会	清野 創二郎 (男子個人)	第 3 位
平成 27 年	第 39 回大会	山内 麗生 (男子個人)	第 3 位

2. 中学生の成績

1) 主催 北海道剣道連盟

ア. 「はまなす国体開催記念」北海道中学生剣道錬成大会

年 度	第何回大会	団体名	成 績
平成 2 年	第 1 回大会	新十津川尚武会	第 3 位
平成 3 年	第 2 回大会	新十津川尚武会	準優勝
平成 4 年	第 3 回大会	新十津川尚武会	第 3 位
平成 5 年	第 4 回大会	新十津川尚武会	第 3 位
平成 8 年	第 7 回大会	新十津川尚武会	準優勝
平成 9 年	第 8 回大会	男子の部 新十津川尚武会	準優勝
		女子の部 新十津川尚武会	準優勝
平成 10 年	第 9 回大会	男子の部 新十津川尚武会	優 勝
平成 11 年	第 10 回大会	男子の部 新十津川尚武会	準優勝
平成 12 年	第 11 回大会	男子の部 新十津川尚武会	準優勝
平成 13 年	第 12 回大会	男子の部 新十津川尚武会	第 3 位
平成 14 年	第 13 回大会	男子の部 新十津川尚武会	優 勝
平成 15 年	第 14 回大会	男子の部 新十津川尚武会	優 勝
平成 16 年	第 15 回大会	男子の部 新十津川尚武会	第 3 位
平成 17 年	第 16 回大会	男子の部 新十津川尚武会	優 勝
平成 18 年	第 17 回大会	男子の部 新十津川尚武会	優 勝
平成 20 年	第 19 回大会	男子の部 新十津川尚武会	第 3 位

2) 主催 全日本剣道道場連盟 (主管 北海道剣道道場連盟)

ア. 北海道道場少年剣道大会 (兼全国大会予選) (団体戦)

年 度	第何回大会	団体名	成 績
昭和 56 年	第 5 回大会	新十津川尚武館 B	準優勝
昭和 57 年	第 6 回大会	新十津川尚武館 B	準優勝
昭和 58 年	第 7 回大会	新十津川尚武館 A	優 勝
昭和 61 年	第 10 回大会	新十津川尚武館 A	第 3 位
平成 2 年	第 14 回大会	新十津川尚武館 B	第 3 位
平成 4 年	第 16 回大会	新十津川尚武館	優 勝
平成 8 年	第 20 回大会	新十津川尚武館 A	優 勝
平成 10 年	第 22 回大会	新十津川尚武館	優 勝
平成 11 年	第 23 回大会	新十津川尚武館	優 勝
平成 13 年	第 25 回大会	新十津川尚武館 A	準優勝
平成 14 年	第 26 回大会	新十津川尚武館 A	優 勝
平成 15 年	第 27 回大会	新十津川尚武館 A	優 勝
平成 17 年	第 29 回大会	新十津川尚武館 B	準優勝
平成 18 年	第 30 回大会	新十津川尚武館 A	優 勝
平成 19 年	第 31 回大会	新十津川尚武館 A	第 3 位
平成 21 年	第 33 回大会	新十津川尚武館	優 勝
平成 29 年	第 41 回大会	新十津川尚武館	優 勝

イ. 北海道道場少年剣道大会 (個人戦)

年 度	第何回大会	選手名	成 績
昭和 56 年	第 7 回大会	細川 和義 (男子個人)	準優勝
昭和 62 年	第 11 回大会	佐野 和孝 (男子個人)	優 勝
昭和 63 年	第 12 回大会	植田 一至 (男子個人)	準優勝
平成 5 年	第 17 回大会	佐藤 勝也 (男子個人)	準優勝
平成 6 年	第 18 回大会	富田 学 (男子個人)	準優勝
平成 11 年	第 23 回大会	後木 顕人 (男子個人)	準優勝
平成 12 年	第 24 回大会	工藤 雄太 (男子個人)	優 勝
平成 14 年	第 26 回大会	岩谷 美奈 (女子個人)	第 3 位
平成 15 年	第 27 回大会	松井 雅嗣 (男子個人)	優 勝
平成 18 年	第 30 回大会	丸田 悠太郎 (男子個人)	準優勝
平成 19 年	第 31 回大会	久保田 尚也 (男子個人)	優 勝
平成 20 年	第 32 回大会	久保田 和巳 (男子個人)	優 勝
平成 21 年	第 33 回大会	久保田 和巳 (男子個人)	準優勝

3) 主催 北海道中学校体育連盟 北海道教育委員会 北海道剣道連盟 他
 ア. 北海道中学校剣道大会 団体戦 (男子の部)

年 度	第何回大会	団体名	成 績
昭和 55 年	第 1 回大会	新十津川中学校	第 3 位
昭和 57 年	第 3 回大会	新十津川中学校	優 勝
昭和 61 年	第 7 回大会	新十津川中学校	優 勝
平成 3 年	第 12 回大会	新十津川中学校	優 勝
平成 4 年	第 13 回大会	新十津川中学校	優 勝
平成 8 年	第 17 回大会	新十津川中学校	第 3 位
平成 10 年	第 19 回大会	新十津川中学校	優 勝
平成 11 年	第 20 回大会	新十津川中学校	準優勝
平成 12 年	第 21 回大会	新十津川中学校	優 勝
平成 14 年	第 23 回大会	新十津川中学校	第 3 位
平成 15 年	第 24 回大会	新十津川中学校	優 勝
平成 16 年	第 25 回大会	新十津川中学校	第 3 位
平成 17 年	第 26 回大会	新十津川中学校	優 勝
平成 18 年	第 27 回大会	新十津川中学校	優 勝
平成 19 年	第 28 回大会	新十津川中学校	優 勝
平成 21 年	第 30 回大会	新十津川中学校	優 勝
平成 30 年	第 39 回大会	新十津川中学校	優 勝

イ. 北海道中学校剣道大会 団体戦 (女子の部)

年 度	第何回大会	団体名	成 績
平成 9 年	第 18 回大会	新十津川中学校	準優勝
平成 13 年	第 22 回大会	新十津川中学校	第 3 位
平成 29 年	第 38 回大会	新十津川中学校	優 勝
平成 30 年	第 39 回大会	新十津川中学校	第 3 位

ウ. 北海道中学校剣道大会 個人戦 (男子の部)

年 度	第何回大会	選手名	成 績
昭和 57 年	第 3 回大会	銅谷 健一	第 3 位
昭和 62 年	第 8 回大会	梅坪 俊彦	優 勝
平成 9 年	第 18 回大会	工藤 大輔	準優勝
平成 10 年	第 19 回大会	後木 孝哉	優 勝
		金山 裕介	準優勝
平成 14 年	第 23 回大会	松井 雅嗣	準優勝
平成 15 年	第 24 回大会	松井 雅嗣	優 勝
平成 18 年	第 27 回大会	久保田 尚也	準優勝

平成 19 年	第 28 回大会	久保田 尚也	第 3 位
平成 20 年	第 29 回大会	久保田 和巳	準優勝
平成 21 年	第 30 回大会	久保田 和巳	優 勝

エ. 北海道中学校剣道大会 個人戦 (女子の部)

年 度	第何回大会	選手名	成 績
平成 10 年	第 19 回大会	水谷 綾子	優 勝
		寄谷 奈々絵	準優勝
平成 12 年	第 21 回大会	上村 梨紗	第 3 位
平成 13 年	第 22 回大会	前谷 綾乃	第 3 位
平成 28 年	第 37 回大会	高橋 緒戸	第 3 位

4) 特筆すべき足跡

ア. 全国中学校剣道大会 男子団体

年 度	第何回大会	開催地	団体名	成 績
平成 17 年	第 35 回大会	三重県	新十津川中学校	準優勝
平成 21 年	第 39 回大会	熊本県	新十津川中学校	ベスト 8

イ. 全国中学校剣道大会 男子個人

年 度	第何回大会	開催地	選手名	成 績
平成 15 年	第 33 回大会	北海道	松井 雅嗣	第 3 位
平成 20 年	第 38 回大会	富山県	久保田和巳	ベスト 8

ウ. 全国中学校剣道大会 女子個人

年 度	第何回大会	開催地	選手名	成 績
平成 10 年	第 28 回大会	青森県	水谷 綾子	ベスト 8

エ. 全日本選抜少年個人錬成大会 (主催 全日本剣道道場連盟)

年 度	第何回大会	開催地	選手名	成 績
平成 19 年	第 32 回大会	東京都	久保田 尚也	ベスト 8

オ. 全国選抜少年剣道錬成大会 (主催 水戸東武館)

年 度	第何回大会	団体名	成 績
平成 11 年	第 40 回大会	新十津川尚武会	ベスト 6
平成 13 年	第 42 回大会	新十津川尚武会	ベスト 6

カ. 北海道地区剣道少年団体発表会

主催 全日本剣道道場連盟 (主管 北海道剣道道場連盟)

年 度	第何回大会	選手名	成 績
平成 28 年	第 38 回大会	高橋 賢新	最優秀賞

尚武会の剣士たち



平成17年 8月20日
新十津川中学校剣道部全国大会準優勝報告



平成18年 3月18日
中学3年生を送る会



平成25年 9月22日
第31回全国道場対抗剣道大会
北海道立総合体育センター



平成30年 8月4日
第39回北海道中学校剣道大会優勝



平成27年11月15日 新十津川尚武会・十津川剣道クラブ 交流剣道大会
十津川村湯之原体育館

新十津川町パークゴルフ協会

結成26年の歩み

設立 1993(平成5)年6月10日

加盟 1994(平成6)年2月25日

はじめに

新十津川町体育協会が創立50周年を迎えられたことは、誠に喜ばしいことでありお祝い申し上げます。新十津川町パークゴルフ協会(以下、SPGAと称す)も体育協会よりご支援を賜り“結成26年”を迎えることができました。

近年、SPGAの会員数は、高齢化に伴って年々減少が続いていることと、新十津川町から近隣市町に転出した多くのパークゴルフ愛好者より入会を望む声に押され、平成30年に一部規約を改訂し“会員の拡大”に努め協会運営に取り組んでおります。

サンウッドパークゴルフ場は、近隣市町の



会長 阿部米男

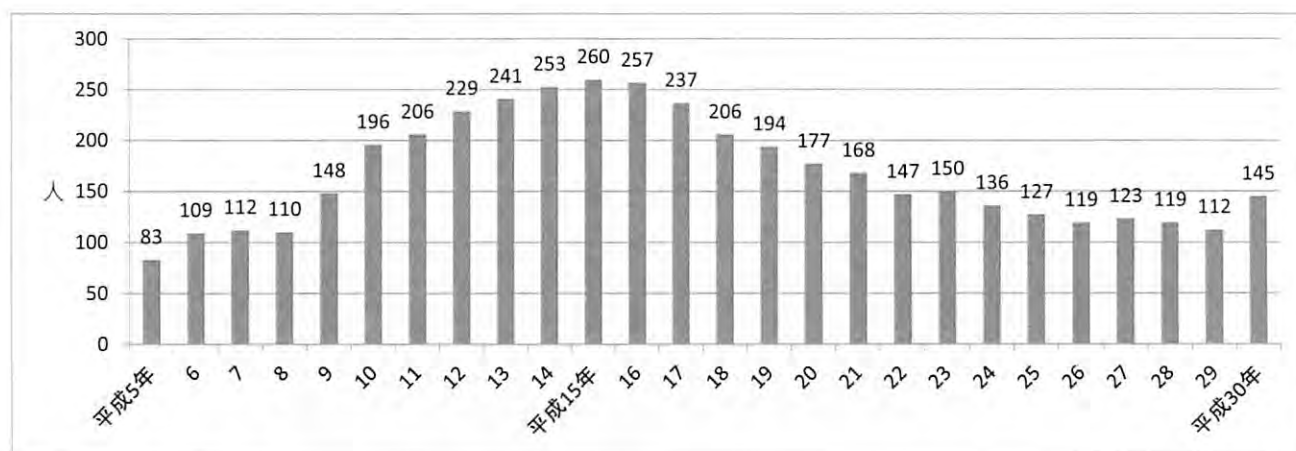
利用者から『いつ行っても、きれいに清掃され素晴らしいコース』と高評を得ております。これは、体育協会より援助を頂き会員各位による清掃活動の結果も要因の一つと思います。会員各位に深く感謝するとともに体育協会にも厚くお礼を申し上げます。

さて、SPGA結成26年までの歩みや会員の想いを以下に紹介しましたので、是非ご一読ください。

◆ 会員数の変遷

会員数は、平成5年の83名(スタート時51名)より右肩上がりで増加し、ピーク時の平成15年に260名となりました。その後は、高齢化の波に急速に押され平成29年に112名まで減少しました。

平成30年、近隣市町のパークゴルフ愛好者の入会によって、145名まで増加が図られました。



◆ 沿革及び役員

● S P G A の主なできごとや歴代役員は下表の通りです。

平成	できごと	会長	副会長	事務局 局長	会計				
5年	6月 会員51名でパークゴルフ同好会発足 10月 第1回町長杯PG大会(河川PG場 46名参加) 12月 会報 第1号発行	佐藤力夫	箱木松信	志賀正憲	平田将紀				
6年	2月 新十津川町体育協会加盟 7月 第1回交流研修会(鹿追町 31名参加) 9月 第1回会長杯開催(ふれ合いPG場 44名参加)								
7年	7月 三世代交流PG大会(ふれ合いPG場 60名参加)								
8年	3月 事務局制の導入を決定 5月 ラブリバー河川清掃作業のボランティアがスタート(10名参加) 6月 河川PG場花壇植栽のボランティアがスタート(7名参加) 6月 国際パークゴルフ協会加盟(240番目)								
9年	3月 同好会から協会に移行 5月 第1回道新杯PG大会(河川PG場 72名参加)								
10年	3月 サンウッドPG場の監視や指導の委託業務を決定 6月 パークゴルフ初心者講習会(スポーツセンター、サンウッドPG場)								
11年	2月 サライ設立1周年記念雪上PG大会 10月 体育協会創立30年協賛PG大会(サンウッドPG場 96名参加)								
12年	5月 第2回建設協会杯PG大会(河川PG場 122名参加) 7月 第4回道新杯PG大会(河川PG場 116名参加)								
13年	10月 奈良県十津川村中学校PG体験学習(サンウッドPG場 55名参加)								
14年	3月 大会参加費(100円)徴収及び大会毎に障害保険加入を決定 10月 第10回道新杯PG大会(サンウッドPG場 106名参加)								
15年	6月 結成10周年記念PG大会(河川PG場/サンウッドPG場 129名) 8月 第1回世代間交流PG大会(サンウッドPG場) 10月 結成10周年記念式典・祝賀会(ゆめりあ 97名参加)								
16年	4月 会報名を「健 颯爽」に変更(会報と特集号を統一)を決定								
17年	7月 第1回ふるさとまつりPG大会支援(サンウッドPG場) 8月 第1回紫朗杯PG大会(サンウッドPG場 74名)								
18年	5月 とっぶジュニアPG活動がスタート 9月 日帰り研修がスタート(安平町追分ファミリーPG場 62名参加)					境和一	田口末男	森吉田	出田光夫
19年	4月 宿泊を伴う交流会を春・秋の日帰り研修に変更が決定 9月 第1回グランドチャンピオン大会(サンウッドPG場 58名参加)								
20年	4月 大会を36ホールに統一やA・Bフライト制の導入を決定 8月 第6回空知新聞社杯PG大会支援(サンウッドPG場) 10月 名称を忘年会から納会に変更して開催(サライ)	入井繁	田口末男	篠原信雄	木村勲				
21年	4月 とっぶジュニアPGクラブの廃止(指導者の高齢に伴い)を決定 5月 第1回グリーンパークしんとつかわ杯PG大会支援(サンウッドPG場) 7月 第1回新十津川総合振興公社杯PG大会支援(サンウッドPG場) 8月 第1回教育長杯PG大会(サンウッドPG場 67名参加)								
22年	4月 大会場所はサンウッドPG場に1本化することを決定 8月 第1回JAピンネ杯PG大会支援(サンウッドPG場) 11月 サンウッドPG場の樹木選定作業がスタート								
23年	5月 サンウッドPG場の清掃作業(5月～9月)がスタート 5月 第1回サンウッドオープン杯PG大会支援(サンウッドPG場)	森紫朗	出田光夫	関山洋幸	浦家暉堯				
24年	4月 秋季山口杯と紫朗杯の廃止を決定 7月 第1回石山新聞販売所杯PG大会(サンウッドPG場 59名参加)								
25年	7月 結成20周年記念PG大会(河川PG場/サンウッドPG場 80名参加) 8月 とっぶ子どもゆめクラブ交流会支援(河川PG場) 10月 結成20周年記念式典・祝賀会(改善センター) 10月 結成20周年記念ペア大会(サンウッドPG場 72名参加)	出田光夫	阿部米男	浦家暉堯	木原滋春				
26年	7月 第12回空知老人クラブ連合会PG新十津川大会支援(サンウッド場)								
27年	10月 名称をグランドチャンピオン大会からクローズ杯に変更して実施								
28年	6月 春の日帰り研修(札幌PG倶楽部 福井の杜 40名参加) 9月 秋の日帰り研修(由仁町 三川PGクラブ 43名参加)								
29年	5月 ラブリバー河川清掃ボランティア(11名参加) 6月 河川緑地公園の花壇植栽ボランティア(13名参加)								
30年	4月 近隣市町のパークゴルフ愛好者の入会を決定 9月 秋の日帰り研修(安平町ファミリーA ⁺ -7追分 52名参加) 10月 クローズ杯PG大会(サンウッドPG場 67名参加)	阿部	斉藤	松川					

● 執行体制（平成30年度～平成31年度）

役職	氏名	行政区
理事	阿部米男（会長）	大和
	斉藤陽（副会長）	中央
	松川純子（副会長）	総進
	野原哲雄	〃
	笹木健一	花月
	谷口榮	文京
	佐藤勝麿	みどり
	田辺利明	大和
	堀隆一	文京
監事	西山裕也	みどり
	垣野昇	中央
	笹木覚	菊水

役職	氏名	行政区
顧問	田口末男	みどり
	伊藤勝也	菊水
	篠原信雄	総進
	出田光夫	中央

事務局	氏名	行政区
局長	浦家暉堯	みどり
次長	古林辰己	青葉
会計	木原滋春	橋本

◆ 活動内容

● 競技部

開催月	大会名
5月	建設協会杯
6月	春の日帰り研修 会長杯
7月	石山新聞販売所杯
8月	教育長杯
9月	町長杯
〃	秋の日帰り研修
10月	クローズ杯

● 指導普及部

- ・アシスタント研修会の実施
- ・指導者講習会の計画
- ・各種交流会の実施 など

● 総務部

- ・広報『健 颯爽』の発行
（現在 176号を発行済み）
- ・福利厚生（納会など）の計画 など

● ボランティア

- ・サンウッドPG場のオープン前準備作業及び樹木選定
- ・ラブリバー河川清掃作業 ・河川緑地公園の花壇整備作業
- ・各種組織外大会の支援 ・子どもゆめクラブ交流会の支援
- ・サンウッドPG場のクローズ準備作業 など



河川清掃ボランティア 29年5月



花壇植栽ボランティア 29年6月



とっふ子どもゆめクラブ交流会 25年8月



SPGA結成20周年記念PG大会 25年7月



秋の日帰り研修(安平町追分) 25年9月

◆ 会員の想い

● 努力すれば報われる

みどり区 田口 末男さん

パークゴルフとの出逢いは、みどり区の交流大会に誘われて出たのが始まりでした。

人並みにできる自信がありました。ボールは思うように言うことを聞いてくれませんでした。

同行の先輩諸氏からは「最初からうまい人はいないヨ！」と慰められながらのプレーで“俺には才能がないのかな”と落ち込んだものでした。

しかし、持って生まれた負けず嫌いの性格から、暇を見つけては、パークゴルフ場に通い始めホールの起伏と打つ方向や芝草一本一本を見る小さな事柄を身体で覚えるように繰り返し練習し、少しずつ上達するにつれて面白くなりました。

そして、始めて4年目頃には中空知や空知の大会で優勝や入賞ができるようになりました。

不器用で上手になれないと思っている人でも『必ず練習すれば巧くなり、好きになり、続けると健康に良く、人との交流が広がり、老後の潤い』になります。

九州男児の私は、新十津川での知り合いと言えば町内会の限られた人達だけでしたが、パークゴルフを始めたお陰で多くの方々に名前を覚えていただき、近隣のパークゴルフ場に行っても声をかけてくれる知人がたくさんできました。

今後も年齢を忘れ健康に気を付けて、末長くパークゴルフを楽しみたいと思いますので、よろしくお願い致します。

● パークゴルフと私

大和区 杉岡 富子さん

私がパークゴルフを始めたのは、平成8年からです。夫を亡くしてぼんやり過ごしていた頃、弟夫婦に誘われ、河川緑地公園P G場に行き、ただ漠然と打っていたところ、知人から打ち方などを親切丁寧に教えて頂きまし

た。

度々P G場に行くうちに、友達も出来て楽しくなり、近郊のパークゴルフ場にも行くようになりました。

平成10年にS P G Aに入会し、多くの人との出会いから協会の大会にも参加し、平成15年秋季山口杯では準優勝もでき、一層パークが面白くなりました。

年2回の研修交流会も、遠くはパーク発祥の地「幕別」までも連れて行っていただき、私にとって楽しい思い出がたくさん出来ました。

入会して21年過ぎ足腰も曲がりましたが、パークゴルフを出来ることがとても幸せです。

動けるうちは「ずうっと」続けたいと思っていますが、この楽しさは先に立ってお世話してくださる方がいるからですね。ありがとうございます。

何の役にたたない私ですが、感謝の気持ちだけは忘れないで、毎日を過ごしたいと思っています。

『パークとは、狙い定めて球を打つ

たかがパークさ！ されどパークさ！』どこかで聞いたような言葉ですが、頂いて短歌にしてみました。

おわりに

S P G Aは、スポーツが心身の発達を促し、人間性を豊かにし、健康な生活を営む上で極めて重要と考えております。これからも関係団体の（社）日本パークゴルフ協会や空知地区パークゴルフ協会連合会はもとより、新十津川町体育協会や加盟団体と連携を深め、協会運営を進める所存でおります。

おわりに、体育協会の創立50周年の歩みとスポーツへの貢献に敬意と感謝を申し上げるとともに、今後のご発展を祈念し、お祝の言葉といたします。

新十津川ミニバレーボール協会

設立 1991(平成3)年7月19日
加盟 1992(平成4)年4月

沿革

● 協会誕生と軌跡

ミニバレーボールは、昭和47(1972)年に十勝の大樹町が発祥の地であります。柔らかいボールと低いネット、狭いコート、簡単なルールなどで、子供からお年寄りまで手軽に楽しめる事から、本町においても見よう見まねのミニバレーボールがレクリエーションとして広く取り入れられるようになり愛好者も急増していった。

その後、ミニバレーボールを一層盛んにしたきっかけは、教育委員会が主催した昭和57年全町女子ミニバレーボール大会である。昭和61年には男子の大会も併せて開催するにいたり行政区を中心とした参加チームが増えた。

かくして、平成3(1991)年3月初代会長、境和一氏を準備委員長に協会設立に向かって動きだし平成3年7月に設立を致しました。

大会は各行政区の同好会がほとんどであったが、個別のチームも発足し、近隣市町との交流試合も盛んになりました。

平成4(1992)年度には、新十津川町体育協会の参加団体となり、又道民スポーツ大会の正式種目として実施されるようになりました。その後、平成9(1997)年度より、悪七廣雄氏に会長を努めて戴き、平成12年度には本町主催で道民スポーツのミニバレーボール大会が開催され、町関係者及び協会関係者一丸となって運営に携わったところでありました。平成18(2006)年度より、現会長の川下晃弘氏を迎え、協会設立20周年記念大会の主催大会を始め、各近隣市町大会への参加、新十津川町での近隣チームの参加を呼び掛けた大会など、初代会長・前会長の残した功績を受け継ぎ又、新しい取組み等、色々なチームが参加できる大会を主催して行き、又、協会設立30周年に向けてもっと若い世代の人にも参加してもらえる様な大会を企画しようと施行錯誤しながら、現在に至る。



活動の足跡と現況

● 平成12年度

- ・ 6/22 近隣市町村大会 (砂川)
- ・ 7/6 近隣市町村大会 (美唄)
- ・ 7/6 空知交流大会 (岩見沢)
- ・ 7/16 道民スポーツミニバレーボール大会 (新十津川)
優勝 新十津川 グランブ
- ・ 8/17 近隣市町村大会 (奈井江町)
- ・ 9/28 近隣市町村女子ミニバレーボール大会 (新十津川)
- ・ 10/19 近隣市町村男子ミニバレーボール大会 (新十津川)
- ・ 11/2 全町混合ミニバレーボール大会 (新十津川)
- ・ 11/30 近隣市町村大会 (浦臼)
- ・ 12/14 全町選手権ミニバレーボール大会 (新十津川)

● 平成16年度

- ・ 6/20 近隣市町村大会 (砂川)
- ・ 7/4 近隣市町村大会 (美唄)
- ・ 7/4 空知交流大会 (岩見沢)
- ・ 7/11 会長杯争奪ミニバレーボール大会 (新十津川)
- ・ 8/15 近隣市町村大会 (奈井江町)
- ・ 9/5 明日萌の里ミニバレーボール大会 (沼田)
- ・ 10/17 近隣市町村男子ミニバレーボール大会 (新十津川)
- ・ 11/7 全町混合ミニバレーボール大会 (新十津川)
- ・ 11/30 近隣市町村大会 (浦臼)
- ・ 12/12 全町選手権ミニバレーボール大会 (新十津川)
- ・ 2/6 住電杯ミニバレーボール大会 (奈井江)



● 平成20年度

- ・ 6/10 近隣市町村大会 (砂川)
- ・ 7/1 近隣市町村大会 (美唄)
- ・ 7/13 会長杯争奪ミニバレーボール大会 (新十津川)
- ・ 8/12 近隣市町村大会 (奈井江町)
- ・ 9/2 明日萌の里ミニバレーボール大会 (沼田)
- ・ 12/21 全町選手権ミニバレーボール大会 (新十津川)
- ・ 1/18 全町混合ミニバレーボール大会 (新十津川)
- ・ 2/3 住電杯ミニバレーボール大会 (奈井江)

● 平成23年度

- ・ 6/26 創立20周年記念
全町会長杯争奪ミニバレーボール大会 (新十津川町)
- ・ 7/3 市民体育祭 (砂川)
- ・ 7/24 空知地区ミニバレーボール交流大会 (岩見沢)
- ・ 8/21 チャンピオンシップ杯 (砂川)
- ・ 9/4 明日萌の里ミニバレーボール大会 (沼田)
- ・ 10/30 全町混合ミニバレーボール大会 (新十津川)
- ・ 12/18 全町選手権ミニバレーボール大会 (新十津川)
- ・ 2/12 全町親睦ミニバレーボール大会 (新十津川)
- ・ 2/19 リップル杯スーパーミニバレーボール大会 (深川)



● 平成25年度

- ・ 6/9 市民体育祭ミニバレーボール大会 (砂川)
- ・ 8/25 会長杯争奪ミニバレーボール大会 (新十津川)
- ・ 9/1 チャンピオンシップ杯 (砂川)
- ・ 9/8 明日萌の里ミニバレーボール大会 (沼田)
- ・ 11/17 全町選手権ミニバレーボール大会 (新十津川)
- ・ 1/26 砂川市ミニバレーボール協会会長杯 (砂川)
- ・ 2/19 全町親睦ミニバレーボール大会 (新十津川)
- ・ 2/23 ペガココ&アグレ杯ミニバレーボール大会 (奈井江)





● 平成27年度

- ・ 6/28 会長杯争奪ミニバレーボール大会
(新十津川)
- ・ 7/12 空知地区ミニバレーボール交流大会
(岩見沢)
- ・ 9/6 明日萌の里ミニバレーボール大会
(沼田)
- ・ 10/4 全町混合ミニバレーボール大会
(新十津川)
- ・ 12/20 全町親睦ミニバレーボール大会
(新十津川)
- ・ 1/31 砂川市ミニバレーボール協会会長杯
(砂川)
- ・ 2/14 全町選手権ミニバレーボール大会
(新十津川)
- ・ 3/6 レディースミニバレーボール大会
(栗山)

● 平成28年度

- ・ 6/5 市民体育祭ミニバレーボール大会
(砂川)
- ・ 7/10 空知地区ミニバレーボール交流大会
(岩見沢)
- ・ 7/17 会長杯争奪ミニバレーボール大会
(新十津川)
- ・ 9/11 明日萌の里ミニバレーボール大会
(沼田)
- ・ 11/20 全町混合ミニバレーボール大会
(新十津川)
- ・ 12/11 全町選手権ミニバレーボール大会
(新十津川)
- ・ 1/22 砂川市ミニバレーボール協会会長杯
(砂川)
- ・ 2/19 全町親睦ミニバレーボール大会
(新十津川)
- ・ 3/5 レディースミニバレーボール大会
(栗山)
- ・ 3/5 アメニティー杯ミニバレーボール大会
(砂川)

● 平成29年度

- ・ 6/18 会長杯争奪ミニバレーボール大会
(新十津川)
- ・ 7/9 空知地区ミニバレーボール交流大会
(岩見沢)
- ・ 7/16 市民体育祭ミニバレーボール大会
(砂川)
- ・ 9/10 明日萌の里ミニバレーボール大会
(沼田)
- ・ 10/1 全町混合ミニバレーボール大会
(新十津川)
- ・ 10/14 全町選手権ミニバレーボール大会
(新十津川)
- ・ 3/4 レディースミニバレーボール大会
(栗山)
- ・ 3/25 全町親睦ミニバレーボール大会
(新十津川)



● 平成30年度

- ・ 5/24 市民体育祭ミニバレーボール大会
(砂川)
- ・ 6/24 会長杯争奪ミニバレーボール大会
(新十津川)
- ・ 7/8 空知地区ミニバレーボール交流大会
(岩見沢)
- ・ 12/16 全町親睦ミニバレーボール大会
(新十津川)
- ・ 1/27 砂川市ミニバレーボール協会会長杯
(砂川)
- ・ 2/10 全町混合ミニバレーボール大会
(新十津川)
- ・ 3/3 レディースミニバレーボール大会
(栗山)
- ・ 3/25 全町交流ミニバレーボール大会
(新十津川)

歴代役員

- 会長
 - 境 和 一 (1991～1996)
 - 悪七 廣 雄 (1997～2005)
 - 川下 晃 弘 (2006～)
- 副会長
 - 富久尾 佳代子 (1991～1992)
 - 金 沢 つみ (1991～1992)
 - 河 村 恵 子 (1993～1994)
 - 進 藤 真裕美 (1993～1994)
 - 佐 藤 哲 郎 (1995～1996)
 - 戸 田 郁 代 (1995～1996)
 - 川 村 和 芳 (1997～2000)
 - 河 村 恵 子 (1997～2000)
 - 木 下 留美子 (2001～2005)
 - 乗 松 良 行 (2001～2008)
 - 大 森 弘 子 (2006～2008)
 - 多 田 佳 則 (2009～2010)
 - 新 井 久美子 (2009～2010)
 - 小 川 志 保 (2011～2014)
 - 川 下 拓 真 (2015～)
- 監事
 - 河 村 恵 子 (1991～1992)
 - 萩 原 洋 子 (1991)
 - 阿 部 三洋子 (1992)
 - 杉 村 照 子 (1993～1994)
 - 今 佐 也子 (1993～1994)
 - 小 山 シゲ子 (1995～1996)
 - 鈴 井 直 美 (1997～2002)
 - 坂 本 浩 美 (1997～2002)
 - 倉 田 敬 也 (2003～2006)
 - 多 田 佳 則 (2007～2010)
 - 斉 藤 恵 子 (2011～2016)
 - 渡 辺 千 鶴 (2017～2019)
 - 倉 田 郁 美 (2018～)
- 事務局長
 - 松 川 純 子 (1991～1996)
 - 佐 藤 善 彰 (1997)
 - 中 川 勝 美 (1998～1999)
 - 川 下 晃 弘 (2000～2005)
 - 木 下 留美子 (2006～2009)
 - 西 村 麗 永 (2010～)



ミニバレーの仲間及び協会会員の声

【ミニバレーボールに携わって】

会長 川下 晃 弘

体育協会創立50周年おめでとうございます。
私とミニバレーとの出会いは、約25年くらい前の事、妻が入っていたチームが秩父別の大会に参加した時でした。「すぐ負けてしまうから」とのことでその後、家族で旭山動物園にでも行こうと計画を立てていました。ところがその大会で良い成績を上げて時間も遅くなり、動物園どころでは無くなりました。一日中待っていたので疲れた記憶があります。その時、来年は僕たちもこの大会に参加させてもらえないかと思い知合いを通じて参加できるように成り、地域の仲間を集め、男女混合で参加したのがミニバレーボールを始めるきっかけになりました。

始めは負けてばかりだったので仲間と秩父別の温泉に入って食事をして帰ってくる事が多かったのですが、それが楽しみの一つに成り、体を動かしストレス発散にも成りました。その後チームを作り近隣市町村の大会にも参加する様になりました。

一番の思い出は、前悪七廣雄会長時代に、事務局長を務めていた時、平成12年に、道民スポーツ・ミニバレーボール大会が新十津川で開催された時です。協会会員が審判を務めることになり、色々ルールを勉強し何とか大会を成功させたいと思いが一生懸命に頑張っていた事が思い出されます。会員皆のお蔭で大会も成功に終わり安堵しました。

その後、平成18年前悪七廣雄会長の後を継ぎ3代目会長として協会役員又協会会員の皆さんの力を借りて務めています。各チームは、世代交代の時期に来て、やむなく解散しなければならないチーム、又、世代交代が上手く行き存続するチームと色々です。ミニバレーボール協会も、後2年で創立30周年の年を迎えます。これからも地域の皆が参加できる大会を開いて行くために老体に鞭を打ちながらそして協会役員又協会会員の皆さんの協力を得ながら「もう会長を辞めて下さい。」と言われるまで頑張っていきたいと思っています。

【青春の1ページ】

元副会長 木下 留美子

体育協会創立50周年おめでとうございます。平素は格別のお引き立てを賜り、ありがたく厚く御礼申し上げます。

テレビの漫画やドラマの「アタックNo.1」「サインはV」に憧れ、始めたバレーボール。中学・高校・社会人と下手の横好きで終わってしまいましたが、自分の青春の1ページを色鮮やかに描いてもらいました。

そんな中で、ミニバレーボールと出会い昔に戻ったかのようにスポーツを楽しみ、仲間と出会い、子育てを共有し、皆さんに感謝の日々を送らせて頂き、20年以上のお付き合いになりました。今後とも健康で楽しみましょう。体育協会様の今後ますますのご発展をお祈り致します。

【自分にとって】

副会長・スーパースターズ 川下 拓真

今から20年以上前、自分の父親が新十津川で男子チーム(スーパースターズ)を作った。小学校の頃父親や母親と体育館に一緒に行っていた。ミニバレーには、興味が無かったが遊びで練習に参加する程度だった。

中学生になり本格的に練習に参加し始めて中学3年生になる頃には、試合にも出たが惨敗...。それから同級生と2人父親のチームに入れてもらい、その頃には男子だけで2チーム作れるくらいの大所帯!女子のチームを合わせるばかなりのチーム数に成っていたと思う。暇さえあれば体育館で練習した。20年近くミニバレーをしている。

現在33歳で3児のパパ...。妻もミニバレーをしていて、僕は父親のチーム(スーパースターズ)を継ぎ、妻も父親の作った女子のチーム(マリンスターズ)でミニバレーをやっています。ミニバレーをしていなかったらなんて想像で出来ないくらい、ミニバレー=自分になっている。

今ではミニバレーボール協会の副会長!自分のチームを持ち、副会長となつて、ミニバレー人口が少なくなる中、色々な地方に行き、試合にも参加させてもらっています。自分の好きなミニバレーがもっと楽しく、気軽に誰でも参加でき、益々発展するように副会長として協会役員及び協会会員と共に頑張っていきたいと思っています。



【心も体も健康に】

事務局長 西村 麗

私は高校卒業後、就職で新十津川町を離れましたが、7年後に帰郷。地元の友達と疎遠になっていた私に「ミニバレーにおいて」と声をかけてくれたのが、現在所属しているミニバレーチーム「ブルズ」のメンバーの方々です。それから結婚・出産・子育てなどで練習に来られない事もありますが、20年続けてきました。

私にとってこのチームの仲間は、最初はミニバレーを楽しむ仲間から始まり、独身時代の人生の良き先輩であったり子育ての悩みを相談できる仲間であったり、私にとっては、無くてはならない存在になって行きました。私がミニバレーを始めた頃は、たくさん町内の方がミニバレーを楽しんでおり、協会の活動も活発でした。川下会長から事務局を引き継ぎ、会員数、登録チームの減少に悩む時期もありましたが、今後も町内のミニバレーの普及を進め、現在活動している会員と共に、これからも楽しくミニバレーボールを、もう少し続けて行きたいです。

【バレーボールと私】

ブルズ 田中 智江

ミニバレーに出会ったのは、20年程前。それまでは、学生から社会人バレーしかプレーしていなかった私は、「こんな狭いコートで本当に6人でバレーが出来るの?」と思いました。初めは仲間との近さや、ケガなど不安でしたが、練習の度に仲間との距離感とコミュニケーションの大事さを考えてプレーする事の大事さを考えてプレーすることの大切さを知りました。そして、ミニバレーにしかない楽しさも知りました。

20年もチームに所属していると、歴史を語れるくらいですが、私的には、ミニバレーを続けられる事に感謝しかありません。チーム・仲間への感謝。家族への感謝バレーに携わって40年、バレーが大好きな私。私からバレーを取ってしまうと何も取り得が無くなるかも(笑)

いつまでバレーを続けられるか分かりませんが、チームや周囲の皆に感謝を忘れず、もう少しミニバレーを続けたいと思っています。



【私の楽しみ】

ブルズ 小玉 千鶴

高校生の時に「ミニバレー」というものに出会ってから約20年!! 最初の頃は遊びという感覚でやってきました。

現在のチームに加入し、大会に参加していくうちに「勝ちたい」という気持ちが芽生え、そこからミニバレーの奥深さを知る事と成りました。今では私の生活の一部となっていると言っても過言ではありません。そのくらいミニバレーが楽しくて仕方ありません。

20年前と比べるとチームも変化し、メンバーも変わっています。あんなに動いていた身体も、なかなか思い通り動いてくれない足腰!! 現実と葛藤しながらも毎週楽しみに練習に励んでいます。いつも楽しくお腹が痛くなるまで笑ってミニバレーができるのもチームメンバーのおかげです。最近では、なかなか人数も集まらず試合にも年に数回程度しか出られていません。しかし、先日行われた大会で優勝を手にすることができました。長年かかって手に入れた優勝はとて嬉しかったです。これからも「優勝」という二文字を目指しつつ、チームの皆で楽しく笑顔で続けて行きたいと思っています。

【ミニバレーを初めて】

マリンスターズ 川下 美奈子

私がミニバレーを始めたのは、今から10年以上前の事です。3度の出産を経て、その度に長期休暇&復帰を繰り返してきました。当初のメンバーの中では最年少だった私も気が付くと最年長... 周りのチームを見ても、若いチームが盛り上がりてきていると感じています。何歳まで続けられるかわからないけど、健康な限り、チームメイトに必要とされる内は、ミニバレーを続けて行きたいと思っています。



【ミニバレーに出会って・・・パートI】

OGS 高桑 祥代

下の子が2歳の時始めたミニバレー。子供も小さく、週2回の練習にはなかなか参加出来ませんでしたが、今では「ママ、ミニバレー頑張ってきてね!!」と子供たちも快く送り出してくれます。

体育館を管理してくださっている体育協会、ミニバレーができる環境を作ってくださっているミニバレーボール協会、子供たちを見てくれる家族、応援してくれる子供たち、一緒にチームを作ってきた仲間に感謝しながら、これからも楽しくミニバレーボールを続けていきたいです!!



【ミニバレーに出会って・・・パートII】

OGS 山形 亜希子

私がミニバレーを始めたのは、新十津川のミニバレー協会が開催した一般の人でも参加できる親睦大会に子育て支援センターで知り合ったママ友達と出場したのがきっかけでした。家事や子育て中心の中で、体を動かして汗を流し、気持ちをリフレッシュさせられる時間はとても新鮮で、定期的に続けられたら... との思いで私達のチームが結成しました。

チーム一丸となって試合をする楽しさ、勝利した時の喜びはもちろんですが、毎日の生活から少し抜け出し、個性の強い仲間達と集まって笑いあっている時間が日々の活力となり私にとってとても大切な時間です。技術も経験もまだまだ足りない私達ですが、仲間と一緒に年を重ねながら楽しくミニバレーを続けられることを目標に、これからも頑張っ

【ミニバレーに出会って・・・パートIII】

OGS 千葉 圭子

8年半前、友人に誘われてミニバレーを始めました。まだ、子供が1歳半と小さかったため、大変な事もありましたが体を動かし肩こり解消。友人と練習の合間に他愛もない話をしてストレス解消... 私にとって、とても大切な時間になっていきました。

家族もバレーを楽しんでいる私を理解し協力してくれ、週2回の練習以外にも、ラ・ピースの一員として他市町村の大会に積極的に参加したり、町内の親睦大会にママ友を誘ってでたり、休日もバレーを楽しむが私の日常になっていました。

数年前ラ・ピースが解散し、今はOGSというチームに在籍しています。子供の年齢が近いこともあり、練習の合間に子育ての悩みを話したり、私の日常の中の大切な時間です。8年半前ラ・ピースの一員として誘ってくれた友人、チームの一員として迎えてくれたラ・ピース、OGSの皆、そして8年半以上の間、理解し協力してくれている家族に感謝しながらこれからもミニバレーを楽しく続けていきたいです。

新十津川スキー連盟

設立 1973(昭和48)年10月15日

加盟 1975(昭和50)年4月1日

祝・創立50周年 楽しいが原点のスポーツ振興を目指して



新十津川スキー連盟

会長 小玉 博 崇

新十津川町体育協会創立50周年。半世紀という大きな節目を迎えられ、これまで協会発展にご尽力してこられた多くの方々に深く敬意を表すとともに心からお祝いを申し上げます。

私どもスキー連盟も平成29年で創立20年という節目を迎えました。その前身となるスキー協会の設立は昭和48年に遡り、さらにその以前からスキーを愛する同志が同好会を立ち上げたことから連盟の歴史が始まります。

その歴史と共に歩んできた歴代会長から平成28年にバトンを託され、突如会長に就任することとなりました。当時は戸惑いと同時に別世界に足を踏み入れた感覚を覚えています。

しかし、スキーは子供のころから大好きでした。私にとってスキーは冬の遊びで、楽しむもの。恰好良く滑りたいと常に思いながらも、スキー教室や検定とは距離を置いてきたため別世界に感じたのかもしれない。

スキー連盟創立20周年を迎え、多くの関係者の協力により記念誌を発刊いたしました。連盟会員の回想録には、会員一人ひとりのスキーとの出会いや思い出が記されています。読むたびにスキーが楽しいという思いがひしひしと伝わり、私自身もスキーが楽しくて仕方がなかった当時の気持ちが再現されます。共通点である「楽しい」という思いが連盟の原点であり、かつ原動力であったことを知り、別世界でなくなりました。

生涯スポーツを通じた健康増進、体力向上の推進は健康で明るい地域づくりに欠かず、体育協会の存在意義は益々高まると感じます。スキー連盟としてもそっち岳スキー場を拠点に幅広い年齢層の方が雪とふれあい、楽しみを通じた冬のスポーツ振興に向け会員一丸となり取り組んで参ります。

新十津川町体育協会の益々の発展と新たな未来への一步を祝福し、記念誌への寄稿とさせていただきます。



スキー場安全祈願祭を主催

【沿革】

1. スキーの広がり

スキーが冬のスポーツとして広まり根付いたのは戦後のことである。

高度成長期に入った昭和30年代、本町に初めての「スキー仲間」ができた。役場職員による「スキー同好会」である。山間部の学校では、体育にスキーを取り入れるようになり、昭和43年には、吉野小中学校裏山で第1回町内小中学校スキー大会が開かれている。

かくしてスキー仲間が学校や役場から外に広がったのは、昭和40年代である。

2. スキー協会の誕生

昭和48年10月15日

新十津川スキー協会設立

昭和50年4月1日

新十津川町体育協会加盟

「上砂川に行ってみよう！」

「ニセコに行って滑ってみませんか！」スキー仲間が互いに呼びかけるようになった。

このスキー仲間を束ねたのが高宮氏（スキー連盟顧問）、西川氏（元西川電設社長）、故庄司十生男氏等であり、昭和48年、新十津川スキー協会が誕生した。ホームゲレンデがないため近隣のスキー場をめぐるながらスキーを楽しんだ。翌49年度には仲間に公認指導員を得て「スキー教室」が開催されるに至っている。

一方、冬の健康づくりと体力増進、自然にふれながら逞しさや協調性などを育てるために「歩くスキー」にも取り組み、昭和51年には「第1回歩くスキーの集い」を開催した。

3. そっち岳スキー場オープン

昭和55年12月21日

そっち岳スキー場竣工

スキー協会設立によってスキー仲間の輪が広がり、会員の技術も徐々に向上し、冬の生活を「より楽しくしたい」「ホームゲレンデを」という願いが高まり、この「町民の声」に行政が動いてくれた。

スキー場設置審議会を立ち上げ、いくつかのスキー場候補地から総進町営牧場を選び「そっち岳スキー場」と命名、昭和55年12月にオープンした。

ロープリフト1基、電源は発電機、プレハブを連結した休憩所、圧雪は雪上車とブルドーザー、夜間照明も備えてオープンした。スキー協会待望のホームゲレンデの誕生である。

管理・運営は、町から委託を受け、新十津川スキー協会が担うこととなり、昭和55年12月から平成9年3月まで続いた。

その後、昭和56年には2基目のロープリフトが整備され、昭和59年には、ゲレンデ専用圧雪車が導入された。



ロープトウ時代のスキー場

4. スキー連盟発足とスキー場整備

平成9年4月1日

新十津川スキー連盟設立

平成9年11月15日

北海道スキー連盟加盟認可

平成9年12月 ペアリフト新設

全長 331.65m

工事費 106,417,500円

平成10年度 圧雪車購入

購入費 29,347,500円

平成11年11月 ロッジ新築

鉄骨造・平屋造 321㎡

工事費 68,901,000円

スキー協会誕生から25年、全日本スキー連盟・北海道スキー連盟「公認」の講習会や検定、スキー学校の開設等は「滝川スキー連盟所属」のもとで実施してきた。

平成9年、ペアリフトとゲレンデが整備されたのを機に、滝川スキー連盟から独立、「新十津川スキー連盟」として全日本スキー連盟・北海道スキー連盟に登録し、公認の連盟事業（講習・検定・スキー学校開設等）を行うこととなった。

ペアリフトの設置、ロッジ完成で、そっち岳スキー場は名実ともに「町民の冬のグラウンド」となった。



整備された そっち岳スキー場

5. 近年のスキー場運営

平成20年2月17日

第1回そっち岳スキー大会開催

昭和58年2月に町主催で始まった「町民スキー大会」が、スキー連盟の主催に変更

平成20年度

町内中学生以下リフト料金無料開始

平成23年11月

リフト運行業務

新十津川町体育協会に委託開始

平成27年4月

リフト運行業務及び料金収納業務

合同会社 LifTop に委託開始

平成28年度

ロッジ食堂業務

ふじ宴からピンネ荘に変更

平成30年度 圧雪車購入

購入費 39,528,000円



そっち岳スキー大会



スキー場清掃ボランティア

6. 将来に向けて

低経済成長時代に入り、砂川、赤平、滝川、上砂川スキー場が相次いで閉鎖に追い込まれ、そっち岳スキー場のニーズは一段と高まってきた。それだけに多くの課題も抱えている。

～魅力あるスキー場に～

スキー場の利用者が求めるニーズの多くは、ハード面にあるが、当スキー連盟には、指導者として、スキー・スノーボード技術を伝え、広めていくという使命がある。

スキー場を訪れる皆さん一人ひとりが「快・満足・喜び」といった、心地良さをお土産に持ち帰れことができるよう、自己研鑽に努め、より一層、快適な環境づくりに努めていかなければならない。

～指導者の養成が急務～

こうした中、指導スタッフの高齢化が進み、若い指導者は職場においても重要ポストに位置するようになり、スキー指導に当たれるスタッフが年々少なくなっている。

一方、若い指導者の養成は思うように進んでいない。資格取得の環境と条件が厳しくなっていることもあろう。「指導者養成」は、当連盟喫緊の課題となっている。



スキー教室



スキー指導方法の研鑽



スキー検定会

【歴代役員】

平成9年

顧問	会長	副会長	副理事長	事務局長	事務局次長	会計	スキー学校長	検定委員長	遠高岡阿悪木河小高松	藤宮本部七村村林橋川	清九州克哲廣	健靖俊栄	一夫幸造雄勲治典明一
----	----	-----	------	------	-------	----	--------	-------	------------	------------	--------	------	------------

平成10年～11年

顧問	会長	副会長	副理事長	事務局長	事務次長	会計	スキー学校長	検定委員長	遠高岡阿悪木河小高松	藤宮本部七村村林橋川	清九州克哲廣	健靖俊栄	一夫幸造雄勲治典明一
----	----	-----	------	------	------	----	--------	-------	------------	------------	--------	------	------------

平成12年～13年

顧問	会長	副会長	副理事長	事務局長	事務局次長	会計	スキー学校長	検定委員長	遠高岡阿悪木河小坂泉	藤宮本部七村村林林谷	清九州克哲廣	健靖凉文	一夫幸造雄勲治典一雄
----	----	-----	------	------	-------	----	--------	-------	------------	------------	--------	------	------------

平成14年～15年

顧問	会長	副会長	副理事長	事務局長	事務次長	会計	スキー学校長	検定委員長	高岡関高悪木河浦大千	宮本山橋七村村辻槻石	九州克洋俊廣	健達厚哲	夫幸幸明雄勲治也二也
----	----	-----	------	------	------	----	--------	-------	------------	------------	--------	------	------------

平成16年～17年

顧問	会長	副会長	副理事長	事務局長	会計	スキー学校長	検定委員長	高岡関坂悪河木高千	宮本山林七村村橋川石	九州克洋凉廣健	泰敬哲	夫幸幸一雄治勲之博也
----	----	-----	------	------	----	--------	-------	-----------	------------	---------	-----	------------

平成18年～19年

顧問	会長	副会長	副理事長	事務局長	事務次長	会計	スキー学校長	検定委員長	高岡関大悪鈴木高富	宮本山槻七木村橋川田	九州克洋厚廣	泰敬忠	夫幸幸二雄誠勲之博章
----	----	-----	------	------	------	----	--------	-------	-----------	------------	--------	-----	------------

平成20年～21年

顧問	会長	副会長	副理事長	事務局長	事務次長	会計	スキー学校長	検定委員長	高岡堀中悪鈴木高千富	宮本川七木村橋石田	九州克隆敬廣	泰哲忠	夫幸一博雄誠勲之也章
----	----	-----	------	------	------	----	--------	-------	------------	-----------	--------	-----	------------



冬を愛する仲間と共に

平成22年～23年

顧問	問長	高岡	宮本	九州	夫
会副	副	岡堀	本川	克隆	幸一
副副	副	中悪	川七	敬廣	博雄
理事	理事	鈴木	木村		誠勲 (H22)
副理事	副理事	寺齋	田田	佳佳	正正 (H23)
事務局	事務局	高千	藤橋	英泰	正之 (H23)
		泉	石谷	哲文	
	事務局次長				
	計				
	スキー学校長				
	検定委員長				

副理事長	坂寺	林田	凉	一
事務局次長	今齋	井藤	佳尚	正美
計	鈴泉	木谷	英文	之誠
スキー学校長				雄
検定委員長				

平成28年～29年

顧問	問長	高岡	宮本	九州	夫
会副	副	岡堀	玉部	克隆	幸崇
副副	副	小堀	七林	博隆	一造
理事	理事	阿悪	田石	哲廣	雄一
副理事	副理事	坂寺	藤木	凉佳	正也
事務局次長	事務局次長	千齋	谷藤	哲英	之誠
計	計	鈴泉	佐藤	文哲	也 (H28)
スキー学校長	スキー学校長				也 (H29)
検定委員長	検定委員長				

平成24年～25年

顧問	問長	高岡	宮本	九州	夫
会副	副	岡堀	川七	克隆	幸一
副副	副	中悪	林田	敬廣	博雄
理事	理事	坂寺	藤宮	凉佳	一正
副理事	副理事	齋野	田木	英秀	之明 (H24)
事務局次長	事務局次長	寺鈴	谷文	佳文	正誠 (H25)
計	計				
スキー学校長	スキー学校長				
検定委員長	検定委員長				

平成30年～31年

顧問	問長	高岡	宮本	九州	夫
会副	副	岡堀	玉部	克隆	幸崇
副副	副	小堀	七林	博隆	一造
理事	理事	阿悪	田石	哲廣	雄一
副理事	副理事	坂寺	藤木	凉佳	正也
事務局次長	事務局次長	千齋	谷藤	哲英	之誠
計	計				也
スキー学校長	スキー学校長				
検定委員長	検定委員長				

平成26年～27年

顧問	問長	高岡	宮本	九州	夫
会副	副	岡堀	川七	克隆	幸一
副副	副	中悪		敬廣	博雄
理事	理事				
副理事	副理事				
事務局次長	事務局次長				
計	計				
スキー学校長	スキー学校長				
検定委員長	検定委員長				



新十津川吹矢倶楽部

設立 2018(平成30)年7月24日

加盟 2018(平成30)年8月30日

吹き矢は、世界各地の狩猟民族、日本においても古くから存在していたが、近年日本でスポーツとしての開発が進められ世界に発信されている。

我町においてはスポーツクラブが吹き矢に取り組み、H27年初めて吹き矢講習会が行われる。日本スポーツ吹矢協会（現日本スポーツウェルネス吹矢協会）北海道支部長の工藤先生の教えを乞う。25名の参加者が吹き矢初体験をする。

すぐさま文京区で、次いで花月区で吹矢倶楽部が誕生、活動を続けてきている。29年12月、初の全町吹き矢交流大会が開催されている。そんな中、より多くの仲間を求め、大会の開催を目指す等の機運が高まり、町内一円を対象にしたクラブの設立を目指す。時の文京役員（野崎秀男、倉兼俊明）、花月役員（熊澤定男、金山勇蔵）が発起人となり現在の新十津川吹矢倶楽部を立ち上げる。（30年7月24日）着実に会員も増え、毎月の練習定例会、年2回の交流大会を開催している。（会員数は32名、他の地域クラブと重複する会員が過半数）日本スポーツウェルネス吹矢協会に所属し活動している者もいる。

同好会は青葉区、大和区で組織され、現在では、町内で100人近くの愛好者が活動している。

令和元年度の役員は次の通りである。

会長	熊澤定男
副会長	野崎秀男
会計	金山勇蔵
監査	稲垣茂雄
	佐々木行利

交流大会の優勝者

第1回大会

（平成29年12月2日：改善センター）

80歳以上の部	野崎秀男
80歳未満の部	金山勇蔵

第2回大会

（平成30年6月23日：改善センター）

女性の部	白石さかえ
78歳以上の部	佐々木行利
78歳未満の部	熊澤定男

第3回大会

（平成30年11月11日：改善センター）

77歳以上の部	葛西光晴
77歳未満の部	白石さかえ

第4回大会

（平成31年4月30日：スポーツセンター）

女性の部	松原澄子
76歳以上の部	谷口榮
76歳未満の部	千田正志



H31.4.30 第4回大会

新十津川軟式野球連盟

設立 1948(昭和23)年

加盟 1969(昭和44)年6月13日

【沿革】

本町における野球の草分けは、昭和5年に橋本町グラウンドで同好者による村内対抗試合が行われたことからとされている。当時はまだ、村内のチームをまとめる組織はなく、チームの監督同士の話し合いで、随時試合の企画がなされたようである。

戦後、昭和23年には本町にも軟式野球連盟が結成されたが、昭和30年代に入って社会環境の変化から野球熱もやや停滞気味となり連盟は一時自然解散の状態となった。

昭和42年、軟式野球連盟の活動がやや停滞ぎみのときに、朝の出勤前のひとときを、健全なスポーツをとおしてお互いの親睦と、友愛の精神を培う目的に朝野球協会が結成された。当初の構成チームは、三枝商店、清水靴店、松葉商店、笹木クリーニング、中根建設、三谷ポンプ工業所、役場OBの7チームであった。以後平成6年まで28年間、総当たりリーグ戦の形で継続、昭和60年頃には最大13チームの参加があった。

平成に入ってから、競技人口の減少で連盟

から脱会するチームが多くなり、持回り当番の事務局担当チームの解散などがあって、平成7年にはついに活動を停止する事態になった。歴史ある軟式野球連盟のこの状態を憂い、体育協会と教育委員会の肝煎りで再構築が図られ、翌平成8年から暫定的に事務局を社会教育課に置き、ナイターリーグ戦を中心として平成10年まで活動をしていたが、平成11年に休止状態となった。

平成12年、歴史ある軟式野球連盟の停滞脱却と施設の有効活用を図るべく、再度体育協会と教育委員会、野球活動しているピンネ農協野球部代表、役場野球部代表との話し合いが持たれ、開町110年の記念を機に大会開催に向け、乗松政勝氏を会長に迎えて、1日大会(3チーム総当たり)が実施された。

平成21年には第10回記念大会を開催、Aグループ、Bグループに分かれて7チームが参加し、試合前には各チームの代表によるホームラン競争も行われ記念大会に華を添えた。

平成24年まで最大9チームが参加し、AクラスとBクラスに分かれて大会が実施されていたが、平成25年以降はチーム数の減少により1クラスの大会となっている。



平成30年8月19日 J Aピンネ対しんとつかわオールスターズ

【対外活動の状況】

滝川市軟式野球連盟には、現在新十津川町役場野球部とJAピンネ野球部が加盟して活動を続けている。

- ・平成12年 第44回高松宮賜杯全日本軟式野球2部全道大会が旭川支部で開催され、新十津川町役場野球部が北空知支部代表として出場、決勝まで駒を進め惜しくも準優勝となった。
- ・平成20年 第52回高松宮賜杯全日本軟式野球2部全道大会が西胆振支部で開催され、JAピンネチームが北空知支部代表として出場した。
- ・平成21年 第32回東日本軟式野球2部全道大会が北空知支部で開催され、JAピンネチームが北空知支部代表として出場、決勝まで駒を進め惜しくも準優勝となった。
- ・平成27年 第38回東日本軟式野球2部全道大会が小樽支部で開催され、JAピンネチームが北空知支部代表として出場、決勝まで駒を進め石狩支部代表SEVEN SEAと対戦し、惜しくも準優勝となった。
- ・平成29年 第61回高松宮賜杯全日本軟式野球1部全道大会が南空知支部で開催され、JAピンネチームが北空知支部代表として出場した。
- ・平成29年 第40回東日本軟式野球1部全道大会が石狩支部で開催され、JAピンネチームが北空知支部代表として出場した。

【歴代会長】

	氏名	役職年		氏名	役職年
1	杉浦 順孝	S23年～S24年	7	松原 一穂	S59年～S60年
2	矢野 龍馬	S25年～S35年	8	谷口 輝夫	S61年～S62年
3	表谷 英夫	S36年～S37年	9	橋 昭夫	S63年～H2年
4	島田 薫	S38年～S41年	10	伊藤 康純	H3年～H10年
5	三枝 泰司	S42年～S48年	11	乗松 政勝	H12年～H26年
6	仲谷 武夫	S49年～S58年	12	笹木 正文	H27年～

【平成12年度以降歴代優勝チーム】

大会名	年月日	優勝チーム名	チーム数	他参加チーム名
2000年大会 開町110年記念	H12.8.19(土)	しんとつかわオールスターズ	3	新十津川町役場、JAピンネ
2001年大会	H13.8.12(日)	しんとつかわオールスターズ	4	新十津川町役場、JAピンネ、浦臼町
2002年大会	H14.8.18(日)	しんとつかわオールスターズ	5	新十津川町役場、JAピンネ、浦臼町、Pee's
2003年大会	H15.8.17(日)	しんとつかわオールスターズ	6	新十津川町役場、JAピンネ、浦臼町、Pee's、ブラックベアーズ
2004年大会	H16.8.22(日)	新十津川町役場	9	JAピンネ、浦臼町、Pee's、ブラックベアーズ、オールスターズ SWAT、極東建設、妻神工業
2005年大会	H17.8.21(日)	しんとつかわオールスターズ	8	JAピンネ、浦臼町、Pee's 新十津川町役場、SWAT 極東建設、妻神工業

大会名	年月日	優勝チーム名	チーム数	他参加チーム名
2006年大会	H18.8.20(日)	A: J Aピンネ	4	オールスターズ、新十津川町役場 浦白町
		B: 妻神工業	4	ブラックベアーズ、SWAT Pee's、
2007年大会	H19.8.19(日)	A: J Aピンネ	4	オールスターズ、ブラックベアーズ 妻神工業
		B: 新十津川町役場	4	SWAT、浦白町、Pee's
2008年大会	H20.8.17(日)	A: J Aピンネ	4	オールスターズ、新十津川町役場 SWAT
		B: 浦白オールスターズ	4	Pee's、ブラックベアーズ 妻神工業
2009年大会 第10回記念 大会	H21.8.9(日)	A: J Aピンネ	3	浦白オールスターズ、妻神工業
		B: 新十津川町役場	4	オールスターズ、Pee's ブラックベアーズ
2010年大会	H22.8.29(日)	A: J Aピンネ	3	浦白オールスターズ、妻神工業
		B: 新十津川町役場	4	オールスターズ、Pee's ブラックベアーズ
2011年大会	H23.8.21(日)	A: J Aピンネ	3	オールスターズ、新十津川町役場
		B: 浦白オールスターズ	4	Pee's、ブラックベアーズ 妻神工業
2012年大会	H24.8.19(日)	A: 浦白オールスターズ	4	オールスターズ、ブラックベアーズ J Aピンネ
		B: オールスターズ	4	Pee's、新十津川町役場 妻神工業
2013年大会	H25.8.18(日)	雨天中止	4	オールスターズ、新十津川町役場 Pee's、J Aピンネ
2014年大会	H26.8.17(日)	しんとつかわオ ールスターズ	4	新十津川町役場、Pee's J Aピンネ
2015年大会	H27.8.16(日)	新十津川町役場	3	J Aピンネ、オールスターズ
2016年大会	H28.8.21(日)	雨天中止	3	J Aピンネ、オールスターズ 新十津川町役場
2017年大会	H29.8.27(日)	J Aピンネ	3	オールスターズ、新十津川町役場
2018年大会	H30.8.19(日)	しんとつかわオ ールスターズ	4	J Aピンネ、新十津川町役 場、ブラックベアーズ

【現役員】

役職名	氏名	役職名	氏名
会長	笹木 正文	理事	板倉 和彦
副会長	蓬田 泰弘	監事	岡崎 弘幸
理事	藤村 康紘	会計	東 勝美
理事	新井 直樹	事務局長	内田 充
理事	谷口 秀樹	事務局	鎌田 章宏

新十津川町ハーフテニス協会

設立 1998(平成10)年4月1日

加盟 1999(平成11)年4月1日

沿革

ハーフテニスは、平成元年に、町教育委員会担当職員の考案により誕生した軽スポーツの一つである。

適度な運動量で、健康増進に寄与し、加えてふれあいの場醸成など魅力あるスポーツとして、子どもから高齢者まで多くの町民から愛され発展してきました。

競技方法などは、バドミントンコート、ネットを活用することによって手軽にコートを確保することが出来、ラケットはバウンドテニス用のものを、ボールは柔らかく、スピードが落ちるスポンジ製のものを使用することによってレシーブし易く、高齢者でも気軽に組みめるスポーツと言えます。

町は、平成元年、スポーツセンターの完成に合わせて、多くの町民に対しスポーツ活動の推進を図るため定期的に講習会を開催してハーフテニスの普及と定着化を進めてきたこともあり、特に夏休みの学校開放事業の実施によって愛好者が増加した。

平成2年には、男性9チーム、女性3チームの参加を得て、第1回全町大会が開催され熱戦を繰り広げた。

それを契機に、スポーツセンター、大和小学校、花月小学校を中心に定期的に活動を行っていたが、間もなく大和、花月は農繁期の多忙理由などで消滅し、スポーツセンターのみとなった。

その後、愛好者の固定化とともに平成10年

4月会員30名(男性18名、女性12名)で同好会を結成し、会員の健康増進と親睦を深めつつ、平成11年4月1日新十津川町体育協会への加盟が認められたことを機に新十津川町ハーフテニス協会と改称し現在に至っている。

活動の状況

現在、90才代を筆頭に50才代まで30名(男性11名、女性19名)で日常活動を続けている。

例会は昼間が9時～12時、夜間が19時～21時と、それぞれ週3回、2～3時間程度心地良い汗を流している。

毎年2月には、全町大会を開催して多くの町民との交流の場を設けており、今年は記念すべき30回目の大会を迎えますが、何よりも発足以来、1回も途絶えることなく続けていることは特筆すべきことである。

他にも、ナイター大会、親睦大会を実施しているが、全町大会においては、かつて小中学生、一般合せて100名を超える参加者があった。特に多くの青年層の参加によって盛況なときもあったが、現在は、30～40名余りの参加に留まり一時期程の盛り上がりには欠け、大変残念なことである。

今後の展望

ハーフテニスが本町のオリジナルスポーツとして考案されてから30年が経過しました。毎年、全町大会、親睦大会等を実施して、交流・普及活動を図ってきたが、他の競技スポーツと同様に、会員の高齢化は否めない事実であり、加えて、社会的風潮で新規加入者も余り望めないのが実態です。

かねてより協会では、婦人層を中心にハーフテニス教室を開催するなど普及活動を行ってきたが、その効果は希薄である。

空知管内及び全道的に見て、同種のスポーツを行っているところは少ないようであるが、室蘭市、登別市、石狩市などが参加し、スポンジテニスの名称で全道大会の実施について、時折り新聞報道を目にしている。

かつて平成18年に深川市民及び沼田町民と交流の機会があったが現在は途絶えているが、今後は他市町村との交流も視野に入れ“メリハリ”のある活動も必要かと考えている。

いずれにしても、ハーフテニスは新十津川町で考案された大切なスポーツの一つであることは論を俟たないところであり、今後は、会員の増加を図りながら仲間とともに快よい汗を流して参りたい。

歴代会長

篠原 信雄	平成11年～平成17年度
谷口 榮	平成18年～平成27年度
川村 和芳	平成28年～平成30年度

現在の役員

会 長	向井 信一
副 会 長	松川 純子 (会計担当)
”	佐藤 恭子
事務局長	佐藤 実
監 事	谷口 榮
”	澁谷 訓子



第30回全町ハーフテニス大会 (平成31年2月9日開催)

新十津川町ソフトボール協会

設立 1979(昭和54) 3月8日

加盟 同上

沿革

*わが町のソフトボールのいぶき

本町でソフトボールのいぶきを感じられるようになったのは、昭和51年頃。現在の農村環境改善センター前は、雑草の生い茂った空き地であったが、ここで近所に住む若いお母さんや保育士さんが集まり、ソフトボールを投げたり打ったりしている風景が見られた。

*わが町の最初の取り組み

愛好者も多くなり、男子協力員を入れた紅白試合を楽しめるようになってきた昭和52年7月初旬、当時の町収入役や中央商店店主らが教育委員会に中央地区のソフトボール大会の計画を要請。社会教育係に準備事務局を実施し、組織、行事化を目指して活動を開始した。この大会は昭和52年から55年の4年間にわたり、毎年9月4日の神社例大祭の日に行われた。

*新十津川町ソフトボール協会の誕生

全町の組織づくりは順調に進み、昭和54年3月8日における発会式で役員を選出し、全町組織として衣替えした。

新十津川町ソフトボール協会初代役員

会長	高宮九州夫
副会長	桜田一雄
理事長	猪股陽一
事務局長	北島義弘
審判部長	秋場毅

この頃から北空知各市町間の親睦交流試合が開催され、町内ではトップレディーズを結成し、上砂川町での第1回大会で優勝した。

各種大会

どの大会もそうであるが、ソフトボールは、大会実施によって各行政区、区域内のコミュニティづくりに大きく寄与した。

各種大会は次のとおり。

*行政区対抗女子ソフトボール大会

(昭和55年から平成6年)

*北空知近隣家庭婦人ソフトボール大会

(昭和61年から平成元年位)

*石狩川右岸線家庭婦人ソフトボール大会

(平成2・3年)

*全町親子ソフトボール大会

(平成7・8年)

*行政区対抗男子ソフトボール大会

(昭和56年から現在)

当時、女子大会の開催に刺激を受け、男子ソフトボール大会が開催され、現在も年1回実施している。最盛期は17チームが参加し、4会場をたった1日間の日程で消化する強行スケジュールであった。

現在も毎年10チーム前後が参加し、石狩徳富河川緑地多目的広場の球場2面を使って1日間の日程で開催している。



(平成20年行政区対抗男子ソフトボール大会)

現在の新十津川町ソフトボール協会

*協会の減少

発足当時 38 名いた会員も、現在は特別顧問も含めて6名と、非常に少ない状況であり、行政区対抗男子ソフトボール大会は、特別顧問を除く5名で執り進めている。当然ながら、1試合に塁審まで出す余裕がなく、滝川市ソフトボール協会からも協力いただいているものの、塁審は各チームにお願いしている状況にある。

協会員減少の理由のひとつは、協会員の高齢化である。長年にわたり尽力された協会員も高齢になると退会していく。また、どこの団体でもそうであろうが、若い人の加入が少ない。

このような現況ではあるが、10 チームも参加いただいている行政区対抗男子ソフトボール大会を続けていけるようにしたいと考えている。

活動履歴

年月日	大会名	備考
H20. 6. 9	第28回全町一般男子ソフトボール大会	優勝 文京
H20. 8. 19	第9回一般男子秋季ソフトボール大会	
H21. 6. 28	第29回全町一般男子ソフトボール大会	優勝 橋本
H21. 8. 29	第29回中学校秋季ソフトボール大会	
H22. 5. 23	第27回種田杯北空知中学校春季ソフトボール大会	
H22. 7. 25	第30回全町一般男子ソフトボール大会	優勝 菊水
H23. 5. 21	第28回北空知協会長杯中学校春季ソフトボール大会	
H23. 6. 26	第31回全町一般男子ソフトボール大会	優勝 宮前
H24. 5. 27	第29回北空知協会長杯中学校春季ソフトボール大会	
H24. 6. 24	第32回全町一般男子ソフトボール大会	優勝 菊水
H25. 6. 2	第30回北空知協会長杯中学校春季ソフトボール大会	
H25. 6. 23	第33回全町一般男子ソフトボール大会	優勝 菊水
H26. 5. 31	第31回北空知協会長杯中学校春季ソフトボール大会	
H26. 6. 22	第34回全町一般男子ソフトボール大会	優勝 青葉
H27. 6. 28	第35回全町一般男子ソフトボール大会	優勝 菊水
H28. 7. 17	第36回全町一般男子ソフトボール大会	優勝 菊水
H29. 7. 9	第37回全町一般男子ソフトボール大会	優勝 宮前
H30. 6. 24	第38回全町一般男子ソフトボール大会	優勝 総進

ソフトボール協会歴代役員名

平成11～12年

会長	藤林 亘
副会長	篠原 信雄
理事長	篠原 信雄
事務局	佐川 純
審判部	木村 勲
事業部	田垣 尚武

平成13～15年

会長	藤林 亘
副会長	篠原 信雄
理事長	乗松 政勝
事務局	佐川 純
審判部	木村 勲
事業部	田垣 尚武

平成16～17年

会長	藤林 亘
副会長	篠原 信雄
理事長	乗松 政勝
事務局	佐川 純 加藤 和仁
審判部	木村 勲
事業部	田垣 尚武

平成18～19年

会長	藤林 亘
副会長	篠原 信雄
理事長	乗松 政勝
事務局	加藤 和仁
審判部	田垣 尚武
事業部	木村 勲

平成20～21年

会長	藤林 亘
副会長	篠原 信雄
理事長	乗松 政勝
事務局	齋藤 政敏
審判部	田垣 尚武
事業部	谷口 義則

平成22～23年

会長	藤林 亘
副会長	乗松 政勝
理事長	乗松 政勝
事務局	齋藤 政敏
審判部	田垣 尚武
事業部	谷口 義則

平成24～25年

会長	藤林 亘
副会長	乗松 政勝
理事長	乗松 政勝
事務局	齋藤 政敏
審判部	田垣 尚武

平成26～27年

会長	藤林 / 乗松
副会長	乗松 政勝
理事長	乗松 政勝
事務局	齋藤 政敏
審判部	田垣 尚武

平成28～29年

会長	乗松 政勝
理事長	乗松 政勝
事務局	齋藤 政敏

平成30～31年

特別顧問	乗松 政勝
会長	佐川 純
理事長	佐川 純
事務局	齋藤 政敏

新十津川ラジオ体操会



設立 2017(平成29)年5月
加盟 2017(平成29)年5月

沿革

【ラジオ体操の歩み】

昼のゴチソウをかかえ、家族総出で足早にグラウンドに集まってくる。かつては小中学校の運動会・体育大会はもとより、多くのスポーツ行事はラジオ体操で始まっていた。ラジオ体操は「準備運動」に適した要素で組み立てられていたからである。

ラジオ体操の放送は「国民保険体操」として1928年に始まった。戦後、放送は一時中断、1951～2年「簡単容易・だれでもどこでもできる・それが健康増進につながる」ものとして練り上げられたのが現在のラジオ体操第一・第二。1999年「国際高齢者年」にちなみ「みんなの体操」が考案され今日に至っている。

【新十津川ラジオ体操会結成】

携帯ラジオを肩に早朝ウォーキングをしている初老夫婦。朝6時30分には改善センター前でラジオ体操を始める。そこに1人2人加わって体操が始まった。新十津川ラジオ体操会のスタートだった。

毎年5～10月、毎週月曜朝は改善センター前、金曜日は青葉区会館前で区主催のラジオ体操会が開かれるようになった。元気な掛け声が響きわたり爽やかな光景だ。

年々集まる人が増え、改善センター前には

20～25人、青葉区会館前は40人を超える人たちが集まるようになった。ラジオ体操会結成の機運が高まってきた。

ラジオ体操の環境づくりに教育委員会も後押ししてくれた。看板設置、電源、器具の保管などである。2017年5月「新十津川ラジオ体操会」を旗揚げし、体育協会傘下の団体として活動している。

和気あいあいのラジオ体操

【初めて夏期巡回ラジオ体操に参加】

1999年、滝川市で夏期巡回ラジオ体操が開催された。簡易保険からの助成で幟を作り、Tシャツを揃えて「新十津川ラジオ体操会」として参加した。参加者は16人、大団体のラジオ体操に感激して会場を後にした。何かしら満たされた気分であった。

【開町120年記念夏期巡回ラジオ体操】

「健康づくりのまち」を宣言して何十年にもなる。「ラジオ体操を健康づくりの引き金にし、まちづくりの一助にしたい」というの



がラジオ体操会の願いである。

ラジオ体操に関心を持ってもらう方策は「夏期巡回ラジオ体操会を新十津川に呼び込む」ことである。全国に向けて新十津川の元気な姿を発信する大きなイベントになる。町民としての誇りと愛郷心の醸成、健康づくりへの関心を高め、ラジオ体操の効果などを知ってもらうチャンスだ。

NHK・簡易保険局に要請行動を起こしたのは開町120年を迎える2年前であった。

2010年7月28日、町主催の「開町120年記念夏期巡回ラジオ体操・みんなの体操会」が行われた。会場のふるさと公園には町内外から1100人の人たちが参加した。

関心の高さのあらわれであったと思う。

【やっぱりラジオ体操、2回目】

脳をはじめ骨格・関節・筋肉・臓器等、すべて最良の状態に成長・発達・保持・進化する。一方、使わないものは退化する。これが生命体の生理原則だ。保険・介護・医療政策で「医療より軽スポーツを！」という自治体がある。軽スポーツを盛んにした結果、医療費負担が下がったという。

1回の夏期巡回ラジオ体操会だけでは浸透力はまだまだ。「再度巡回ラジオ体操を！」チャンスは開町130年記念。「母村十津川との2元開催」を教育委員会に進言した。しかし、「現状では難しい」というのがNHK等からの回答だったようである。それより「健康づくり宣言50周年をメインに呼び込もう」という方向性が示された。



呼び込みに幸いしたことは、本町の「巡回ラジオ体操環境（会場、実施のための組織体制等）」についてNHK・簡保当局が把握していたことである。

2018年7月28日、2回目の夏期巡回ラジオ体操・みんなの体操会がふるさと公園で行われた。ふるさと公園から新十津川の元気を電波に乗せることができた。

【普及発展のために】

ラジオ体操・テレビ体操は毎日放送される。「正しい理解と実践」で効果が高まる。

近年、学校体育からラジオ体操が影をひそめ、過疎化が進む中で夏休みラジオ体操は下火傾向にある。

普及発展のため、体育協会主催で「ウォーキング」とセットの「ラジオ体操講習会」を2回実施してきた。いずれも50～60人の参加が得られた。

また、指導員資格取得の講習会に参加しすでに4人のラジオ体操指導員が誕生し、先頭に立って活動している。

【気軽に楽しみながら】

毎年道内3か所程度、巡回ラジオ体操・みんなの体操会が開かれる。そこに参加するのが楽しみでもある。

●滝川市でのラジオ体操祭

2006年、運動公園に2000人余り参集、新十津川からも個々に参加。幟を背にみんなで体操。



●1000万人ラジオ体操・みんなの体操祭

2012年、札幌モエレ沼公園で開催。毎年都道府県持ち回りで「中央大会」が開催される。その日は全国で1000万人がラジオ体操に取り組むというもの。札幌会場には11000人が集まった。教育委員会の特別助成でバスを仕立て新十津川からは25人が参加できた。コンサドーレとファイターズガールのパフォーマンスで盛り上がる。

●岩見沢市でのラジオ体操祭

2015年。特別助成を戴き29人参加。他市町に出かけ、祭り気分であげ気楽に参加するのも楽しい。意欲が沸き仲間づくりにもなっている。

今後に向けて

ラジオ体操会はホヤホヤの新生児。より多くの町民に参加を呼びかけ輪を広げることに関心を持って取り組んで参りたい。

(文責 悪七)

新十津川町バスケットボール協会

設立 1950(昭和25)年4月1日

加盟 1969(昭和44)年6月13日

沿革

昭和25年4月、新十津川中学校教諭、安田麻夫・教育委員会渡辺博文らが中心となって設立。

昭和38年頃に所属チーム数がピークを迎え、その後は減少傾向であったが、昭和45年には全道クラブ選手権大会Cクラス準優勝、また、同年の空知スポーツ大会の準決勝へ町村チームとしては唯一進出した。

昭和61年には道民スポーツ空知大会において3位に入賞し、その後も北空知地区大会及び全道大会に積極的に参加した。

町内のバスケットボールの交流及び振興にも力を注ぎ、平成11年からは町内宿泊施設サンヒルズ・サライに合宿に来ている、岡山県の倉敷美術科学大学バスケットボール部との交流試合を行うなど、他地域との交流を積極的に図った。また、町内における事業振興では、時代の変化に即し若者が興味を持つ「3ON3」大会を屋外及び屋内で実施し、若年層に対するバスケットボールの振興に努めた。

また、平成16年には町内の小学3年生から6年生を対象とした、チーム対抗戦でバスケットボールを楽しんでもらう教室を開催したところ、39名の参加があり、多くの児童にバスケットボールの楽しさを伝えることができた。この教室をきっかけに、平成18年から町内の小学生及び幼児を対象にバスケットボールの楽しさを普及するために、バスケットボールクラブの活動を積極的に行った結果、平成25年にはミニバスケットボール少年団の設立に至っている。

現在においては、少年団の設立及び活動により、小学生は元より、連動して中学生の活動も活発に行われ、町内の多くの児童及び生徒がバスケットボールを愛好する結果となっている。

役員

会長	東 志 和 義
副会長	斉 藤 正 史
事務局	笹 木 裕 一
監 査	西 野 哲 弥

新十津川町体育協会功績表彰者

功績賞	高 崎 重 男 (昭和63年)
振興賞	斉 藤 正 弘 (平成2年)
貢献賞	塩 崎 裕 道 (平成8年)
振興賞	東 志 和 義 (平成11年)

〈これまでの主な実施大会及び参加大会〉

(平成11年度～平成30年度)

春季町内バスケットボール大会(ナイターリーグ)
夏季町内バスケットボール大会(3ON3大会)
倉敷美術科学大学バスケットボール部との交流試合
冬季町内バスケットボール大会(3ON3大会)
北空知春季一般バスケットボール大会
北空知秋季一般バスケットボール大会
北海道道民バスケットボール大会
北部北海道バスケットボール大会
北海道クラブバスケットボール選手権大会
北空知地区バスケットボール総合選手権大会
北空知地区クラブ連盟結成バスケットボール大会(夏季)
北空知地区クラブ連盟結成バスケットボール大会(冬季)
奈井江町バスケットボール大会
広野スポーツ杯バスケットボール大会

新十津川卓球連盟

設立 1957(昭和32)年4月1日

加盟 1969(昭和44)年6月13日

沿革

本連盟は、卓球が手軽にできるスポーツとして町内の愛好家により、昭和32年に発足した。その後、昭和44年に新十津川町体育協会に加入し、今年で50年を迎え、その活動は栄枯盛衰を経て現在に至っている。

このスポーツは、年齢や性別に関係なく幅広く小学生から高齢者に至るまで楽しむことができる。また、個人種目的競技であるために少人数でも気軽に楽しめることから全町大会はシングルス、ダブルスの個人戦が主流であった。

しかし、昭和55年12月21日に新十津川町開基90周年記念卓球大会が開催された。この大会は、今までの大会とは異なって行政区対抗の団体戦で開催され、総勢100名の中学生、大人の参加であった。男子は13チーム、女子は7チームの参加でトーナメント方式により行った。結果は、男子優勝総進区、女子優勝文京区であった。この年より、毎年団体戦の大会を実施してきたが、参加チームが年々減少してきたことから開催不能となり、団体戦の大会を行っていない。

また、卓球がより多くの人に愛され、親しまれるようにとルール改正が全日本卓球協会により行われた。その結果、卓球の試合は、今までの21ポイント3セットマッチから11ポイント5セットマッチになり、ボールも直径38mmセルロイドから40mmプラスチックへと変わり、それに伴い軟式の大会は行われなくなった。

平成21年4月より、後木達哉、須藤聡、澤田忠治の3名が相談し、新十津川卓球少年団

を結成した。それは、町の人口減少に伴い、卓球人口も減少してきたので、このままでは新十津川卓球連盟存続の危機に遭遇するので何とか将来展望につなげるためにも子どものころから卓球に親しんでもらうことにより、将来の卓球人口増へとつなげようと考え少年団を設立した。

その結果、小学生と中学生が練習に励み、平成26年度の中体連卓球大会に於いては、少年団で練習していた須藤未羽、後木玲奈、池田有亜、上村佑衣奈の4名が頑張り、北空知大会では、「女子団体の部優勝、女子シングルス優勝・後木玲奈、準優勝・須藤未羽、6位池田有亜」、全空知大会に於いても「女子団体優勝、女子シングルス優勝・後木玲奈、3位須藤未羽、ベスト8池田有亜」となり、中体連全道卓球大会に団体戦、個人戦とも出場した。更に全道大会では、個人戦シングルスで後木、須藤が全国大会にコマを進め活躍した。

現況

平成27年2月から毎年、卓球教室を体育協会の協力を得て開催してきた。毎年30数名の老若男女が参加し、和気藹々と楽しく卓球に興じてきた。健康的な生活を営むために卓球を通して身体的な健康づくりと友人や知らない人との交流によって精神的な健康を身に付ける良い機会である様に努めている。

また、一般の男子では、平成29年度滝川卓球連盟主催の加盟団卓球大会(参加範囲中空知)Cクラスで優勝、翌年の30年にはAクラスで準優勝している。

ここ20年の間では、町内卓球大会は開催していませんが、小学生を対象としたチャレンジスポーツで卓球の基本を指導してきた。



平成28年 卓球教室

年々卓球をする人が減ってきている。卓球は気軽にでき、少人数でも行え、怪我の危険も少ないので、生涯スポーツには最適と言われている。町内の小学生、中学生、高校生、一般の方は、スポーツセンターで毎週金曜日に練習をしている。概ね60歳以上の方は、毎週金曜日に「ゆめりあ」で練習を行っている。誰でも気軽に参加できるので、多くの方の参加を期待している。

少年団活動

卓球少年団の活動は、毎週火曜日と金曜日の夜間19時～21時の2時間練習を行っている。年間80数回実施し、90%以上の出席率である。モットーは、真面目に、研究熱心に技術の習得を目指すである。素晴らしいことは、親子で卓球に打ち込んだ後木親子、須藤親子の存在である。その結果、後木玲奈が北海道卓球選手権大会カデットの部で優勝することができた。この後木玲奈は、今年高校を卒業して大学に進学し、今後も卓球を続けるようだ。団員にとって良い目標となっている。

次に、これまでの主な活動を紹介します。

- ◎平成24年北海道卓球選手権大会（江別市）
 - ・ホープス女子の部、後木玲奈（準優勝）
- ◎平成24年全日本卓球選手権大会（神戸市）
 - ・ホープス女子の部、後木玲奈 2回戦惜敗
- ◎平成24年北海道卓球選手権大会（小樽市）
 - ・カデットの部女子13歳以下シングルス 須藤未羽（第3位）、後木玲奈（第3位）
 - 池田有亜（1回戦惜敗）
 - ・カデットの部男子13歳以下シングルス 内田大翔（2回戦惜敗）
- ◎平成24年全日本卓球選手権大会（越谷市）
 - ・カデットの部女子13歳以下シングルス 須藤未羽（2回戦惜敗）
 - 後木玲奈（4回戦惜敗、ベスト32）



平成30年 卓球少年団

- ◎平成25年北海道卓球選手権大会（帯広市）
 - ・カデットの部女子13歳以下シングルス 後木玲奈（第3位）、池田有亜（2回戦惜敗）
 - ・カデットの部男子13歳以下シングルス 内田大翔（2回戦惜敗）
 - ・カデットの部女子14歳以下シングルス 須藤未羽（準優勝）
- ◎平成25年全日本卓球選手権大会（岡崎市）
 - ・カデットの部女子13歳以下シングルス 後木玲奈（4回戦惜敗、ベスト32）
 - ・カデットの部女子14歳以下シングルス 須藤未羽（2回戦惜敗）
- ◎平成26年北海道卓球選手権大会（札幌市）
 - ・カデットの部女子14歳以下シングルス 後木玲奈（優勝）、池田有亜（2回戦惜敗）
- ◎平成26年全日本卓球選手権大会（大津市）
 - ・カデットの部女子14歳以下シングルス 後木玲奈（4回戦惜敗、ベスト32）

歴代会長は、次のとおりです。

- ・小林 宏吉 ・宇城 義守 ・矢木澤 薫
- ・乗松 寿徳 ・澤田 忠治

卓球連盟役員

- | | |
|--------|--------|
| ・顧問 | 澤田 忠治 |
| ・会長 | 後木 智子 |
| ・副会長 | 北澤 直美 |
| ・事務局長 | 真島 宏幸 |
| ・事務局次長 | 加藤 暢貴 |
| ・理事 | 齊藤 光貴 |
| ・理事 | 上山 達也 |
| ・理事 | 遠藤 久美子 |
| ・理事 | 中村 勉 |

- ・卓球に関する連絡先
事務局 真島宏幸 (TEL 090-1648-6594)

新十津川ゲートボール連盟

設立 1986(昭和61)年3月22日

加盟 同上

けるため、ゲートボール連盟が1986(昭和61)年3月22日に設立された。

各行政区内にゲートボール場が整備され、冬期間も中央体育館で練習に励んだ。

本町のゲートボールは、1981(昭和56)年度から高齢者の健康保持と相互の友好親睦を図り、余暇活動を楽しむ軽スポーツとして、地域の老人クラブを中心に普及してきた。その後町内の愛好者が一堂に会して活動する機会を設

1995(平成7)年には19クラブ会員数219人を数えたが、会員の高齢化や新規加入者の減少などにより、会員数は年々減少し、2018(平成30)年には、連盟としての活動を休止した。

主な戦績(全道規模大会上位入賞、全国規模の大会出場)

年	大会名	チーム名
1988(昭和63)年	第4回創始者杯・道新旗全道大会3位	ピンネ
1989(平成元年)年	はまなす国体デモンストレーション大会5位	新十津川
1998(平成10)年	第4回創始者杯・道新旗全道大会70歳以上の部優勝	新十津川
	第11回全国スポーツ・レクリエーション大会出場	新十津川

歴代会長名

年度	氏名
1986(昭和61)年～1988(昭和63)年	笹木金五郎
1989(平成元年)年	坂井正二
1990(平成2)年～1998(平成10)年	井澤清
1999(平成11)年～2008(平成20)年	長谷川信康
2009(平成21)年～2015(平成27)年	工藤政雄
2016(平成28)年～2017(平成29)年	北村弘

新十津川町水泳協会

設立 1989(平成元)年8月7日

加盟 1993(平成5)年

勤労者温水プールが完成した1989(平成元)年、新十津川町水泳同好会が設立され、翌年に新十津川スイミングクラブに改称、さらに1993(平成5)年に体育協会へ加入と同時に名

称を新十津川町水泳協会に改めた。

1997(平成9)年には、全道マスターズ短水路水泳競技大会を誘致したり、毎年町民水泳大会を開催したりして、水泳の魅力を町内に広めてきたが、会員数の減少などにより、現在は休会の状態にある。

歴代会長名

年 度	氏 名
1989(平成元)年～1993(平成5)年	関 山 洋 幸
1994(平成6)年～1997(平成9)年	小 西 和 夫
1998(平成10)年～2011(平成23)年	星 野 浩
2012(平成24)年～現在	大 山 幸 成

新十津川バドミントン協会

設立 1980(昭和55)年11月1日

加盟 同上

新十津川バドミントン協会は、1980(昭和55)年の設立と同時に体育協会に加盟し、さ

らに1981(昭和56)年には、北空知地区バドミントン協会にも加盟。道民スポーツ空知大会や近隣での大会に出場するなど、技術力や指導力の向上に努めてきたが、会員数の減少などにより、現在は休会の状態にある。

歴代会長名

年 度	氏 名
1980(昭和55)年～1983(昭和58)年	長谷川 信 康
1984(昭和59)年～1988(昭和63)年	西 川 貞 和
1989(平成元)年～現在	平 野 誠

かつて体育協会に加盟していた団体の状況

新十津川町バレーボール協会

設立 1969(昭和44)年

加盟 1969(昭和44)年6月

解散 2004(平成16)年

1953(昭和28)年に上徳富中学校教諭であった吉田義男が中心となって、女子の希望者58人を集めて、上徳富排球クラブを結成した。

上徳富排球クラブを発展的に解消し、全町

から希望者が参加できるようにと、1960(昭和35)年に新十津川排球クラブと改称、さらに、1969(昭和44)年の体育協会設立時に新十津川町バレーボール協会となった。

同協会は、2004(平成16)年に解散したが、現在も、スポーツセンターで週2回、愛好者女性数名が集まり、練習を行っている。

主な戦績 (全国・全道大会出場)

年	大会名	チーム名
1954(昭和29)年	全道青年大会3位、全国青年大会出場	上徳富排球クラブ
1955(昭和30)年	全道選手権優勝(昭和32年まで3年連続優勝)	上徳富排球クラブ
1957(昭和32)年	全道青年大会優勝、全国青年大会出場	上徳富排球クラブ
1959(昭和34)年	全道選手権大会優勝	上徳富排球クラブ

歴代会長名

年度	氏名
1953(昭和28)年～1958(昭和33)年	岡本信雄
1959(昭和34)年～1965(昭和40)年	藤崎信一
1966(昭和40)年～1981(昭和56)年	笹木外次
1982(昭和57)年	吉田良宗
1983(昭和58)年	浅野宏
1984(昭和59)年	後藤昭六
1985(昭和60)年～1987(昭和62)年	工藤健
1988(昭和63)年～1989(平成元年)	宮川登
1990(平成2)年～1991(平成3)年	悪七廣雄
1992(平成4)年～1994(平成6)年	川西勝
1995(平成7)年～1996(平成8)年	阿部弥太郎
1997(平成9)年～1998(平成10)年	大内俊
1999(平成11)年～2002(平成14)年	佐藤正彦
2003(平成15)年～2004(平成16)年	本間章久

新十津川弓道連盟

設立 1953(昭和28)年10月30日

加盟 1969(昭和44)年6月

解散 2009(平成21)年

新十津川弓道会として、1953(昭和28)年に発足。1988(昭和63)年には、新十津川弓道連

盟に改称し、平成元年にオープンしたスポーツセンターのサブアリーナに弓道場が設置され、落成祝射会をはじめ百年記念射会、研修会などが開催された。

会員数の減少などにより、2009(平成21)年に解散した。

歴代会長名

年 度	氏 名
	竹 井 巳之助
	藤 森 純 義
	橋 本 英 彦
～1982(昭和57)年	乗 松 章
1983(昭和62)年～2009(平成21)年	塩 崎 能 宣

陸上競技クラブ

設立 時期不明

加盟 1969(昭和44)年6月

解散 2003(平成15)年頃

陸上競技クラブは、1965(昭和40)年頃すでに設立していたと考えられる。

1970(昭和45)年に第1回新十津川町陸上競技選手権大会(町開基80周年記念)、1980(昭

和55)年には町内駅伝大会(町開基90周年記念協賛)を開催。

また、1990(平成2)年には、母村十津川で開催された第36回十津川村駅伝大会(置村100年記念)に招待され、高宮九州夫監督と選手9人が参加した。

近年、会員数の減少が著しく、2003(平成15)年頃に解散した。

歴代会長名

年 度	氏 名
設立時～1974(昭和49)年	志 賀 進
1974(昭和49)年～1997(平成9)年	阪 本 哲 夫
1997(平成9)年～2001(平成13)年 2002(平成14)年～2003(平成15)年	会長代行 会長 志 賀 正 憲

新十津川町テニス協会

設立 1997(平成9)年11月28日
加盟 1998(平成10)年4月6日
解散 2004(平成16)年頃

1990(平成2)年発足の新十津川町テニス同好会が発展的解散し、新十津川町テニス協会が1997(平成9)年に設立。スポーツセンター

や屋外テニスコートで練習を重ねながら、1998(平成10)年には、第1回新十津川町テニス大会を開催した。

テニス協会は2004(平成16)年頃に解散したが、現在も、スポーツセンターで週3回、愛好者数名が集まり、練習を行っている。

歴代会長名

年 度	氏 名
1997(平成9)年～1999(平成11)年	吉 田 静 江
2000(平成12)年	竹 本 重 喜
2001(平成13)年～2002(平成14)年	伏 見 佳 高
2003(平成15)年	松 田 妙 子
2004(平成16)年	秋 山 千 恵 子

新十津川太極拳同好会

設立 1994(平成6)年3月4日
加盟 1998(平成10)年2月15日
解散 2009(平成21)年頃

新十津川太極拳同好会は、公民館特設講座

「チャレンジ太極拳」をきっかけとし、1994(平成6)年に発足。町内外での研修会参加、町民文化祭出演などさまざまな活動を展開していたが、会員数の減少などにより、2009(平成21)年頃に解散した。

歴代会長名

年 度	氏 名
1994(平成6)年～2006(平成18)年	藤 田 壬 巳
2007(平成19)年～2009(平成21)年	東 志 京 子

新十津川柔道連盟

設立 1979(昭和54)年4月10日

加盟 同上

解散 時期不明

町内少年柔道大会の開催や近隣柔道大会への参加など、活動を展開していた。

また、柔道スポーツ少年団が1985(昭和60)年に結成されたが、会員数の減少などにより解散した。

新十津川柔道連盟は、1979(昭和54)年発足。

歴代会長名

年 度	氏 名
1979(昭和54)年～不明	鶴 田 儀 夫

新十津川カヌークラブ

設立 2002(平成14)年

加盟 同上

解散 2009(平成21)年頃

や新十津川橋上流では、石狩川の美化を願う愛好者らで組織する石狩川下覧(くだらん)権(かい)の行事である「子供川塾」の運営スタッフとして参加。町内の子どもたちが多数参加し、普段、触れたことのないカナディアンカヌーやカヤックに乗り、子どもたちの楽しそうな声に私たちが喜びを感じたことが、つい最近のことように思い出される。

数回ではあるが、町観光協会が主催する「味覚まつり」にも参加し、徳富川で希望する来場者を乗せ、遊覧船ならぬ遊覧カヌーを運行。新十津川の自然を満喫し、まつりの一部を構成させていただきこともあった。

しかし、2009頃会員の減少により解散した。

新十津川カヌークラブは、当初10名の会員で発足した。

活動の中心は、石狩川だったが、支流の空知川を芦別ダムから赤平市内まで何度となく下った。

また、キャンプを兼ねて道北の天塩川や十勝の歴舟川、道東の釧路川なども下り、特に原始的な河川だった歴舟川や釧路川の澄んだ水や、川面から見る自然の美しさに、しばし目を奪われ日常の忙しさを忘れたものである。

徳富川でもよく活動した。旧吉野公園付近

歴代会長名

年 度	氏 名
2002(平成14)年～2009(平成21)年	高 橋 俊 明

各スポーツ少年団の状況

新十津川尚武会少年部

父母の会 会長 伊藤 直也

新十津川尚武会は、新十津川町の剣道の歴史と伝統を受け継ぐ組織であり、平成27年度より親会と少年指導育成の一本化を図り、剣道振興のために活動を続けています。平成30年度の少年団員は、小学生18名、中学生14名の計32名です。

以前は、中央・花月・大和でそれぞれ少年団として活動をしていましたが、少子化や剣道人口の減少などで、今は一つの場所（尚武館）で稽古に励んでいます。

最近では、小学生・中学生ともに稽古の成果を思う存分発揮し、小学生は平成26年、27年には、全道剣道少年錬成大会において見事優勝し、2年連続北海道チャンピオンになることができました。

また、中学生は平成29年度は全道中体連で女子が平成30年度は男子がそれぞれ全道優勝し全国大会へ出場することができました。

日々の稽古では「道場訓」を基本精神として活動をしています。

「道場訓」

この道場は町の人々が私達のために建ててくれました。私達は町の歴史と伝統に誇りを持ち立派な人間になるために次のことを守ります。

- 一 基本を正確にし工夫研究します
- 一 礼儀を重んじ年長者を敬います
- 一 心を正しくからだをきたえます
- 一 しんぼう強く休まず稽古します

当少年団が今現在も輝かしい成果を残し続けることができているのも、伝統が継承され続けているのも今までご指導していただいた尚武会の先生方と、様々な活動を最大限の力でサポートして下さる保護者のみなさんのおかげだと思っております。今後共新十津川の剣道発展のために、尚武会全員でより一層の努力をしていく所存です。



新十津川町中央野球スポーツ少年団

設立年月日 1981(昭和56)年4月12日

現在の役員	代表	東 勝美
	指導者	村上 拓也 白川 泰裕 清水 淳巨 西村 和紘
	事務局長	坂下 佳則
	父母会長	石井 秀紀
	団 長	菅原 瑠偉(6年)

活動内容

新十津川町中央野球スポーツ少年団、ホワイトベアーズは、昭和56年に誕生し、野球を通じ、健康の向上と体力の増強に努めるとともに集団行動による徳育を実践し、健全な人間形成を図ることを目的として、「礼儀、絆、

感謝」をチームスローガンに活動してまいりました。

結成以来、約350人の仲間たちが、ホワイトベアーズのユニフォームに袖を通し、冷たい雨が降る寒い日も、燦々と太陽の光が注ぐ暑い日も、元気いっぱい真っ白いボールを、ユニフォームが真っ黒になるまで追いかけてきました。その甲斐もあり、これまで全国大会出場1回(ベスト4)、全道大会出場18回(優勝1回、準優勝1回、第3位3回)を数え、また、近年では、5年連続で各種全道大会に出場するなど輝かしい成績を収めることができました。

当団は、2021年に結成40周年を迎えますが、これから先も変わることなく指導者父母一丸となって、子どもたちの健全育成のため活動してまいります。



新十津川サッカー少年団

代長 野 崎 奈津希

当団は、昭和59年に設立以来35年余り経過しました。これ迄、団活動を続けてこられた団員初め父母の皆様と指導者の方々に深くお礼申し上げます。

現在、当団は31名の団員（キャプテン・菅野拓海、副キャプテン・野呂琉馬）で、新十津川小学校、ふるさと公園サッカー場、イベント広場、スポーツセンター、旧大和小学校を利用して、週3回の練習をしております環境が整ったところでの練習に有り難さを痛感しています。また、各種大会にも参加しております。

今年度の父母の会役員は、事務局に渡部亜杏、会計に山下良子と女性陣になりました。監督には、平成10年に当団部員だった伊賀嵩将監督が平成29年より監督として指導に携わっていただいております。コーチ陣は、北空知女子サッカーで活躍されております、秋田谷剛コーチが兼任して頂き、保護者コーチとして野呂直人コーチは、トップチームの指導を主に担当しております。又、昭和61年に

当団部員でした星場保宏コーチは、現在サテライトを中心に指導しております。アシスタントコーチには、岩田考AC、森直文AC、押野佑太AC、石黒信行AC、高畑英幸AC、教育委員でお勤めの佐々木貴大ACと6名のアシスタントコーチが揃い、コーチの補助や試合の審判に携わって

いただいております。更に、新十津川小学校の植田雅博先生、松岡英一先生、平川慎吾先生には、平日の放課後に指導を行って来ております。

近年、サッカーは、ワールドカップなど多くのファンを持つてはいるものの、少子化による団員の減少は当団にとっても対応していかなければならない、大きな問題の一つです。

「サッカーが好き」という子供達の思いを育むために、“考えるサッカー”“創造するサッカー”“人を思いやるサッカー”等々、友達との関わりの中で、様々な感情を経験しその度に自分と向き合い身体と共に心の成長をしていく子供達の姿を見守っていきたくと考えています。



H30.7.29 砂川ライオンズクラブ杯

水泳少年団

代表 白石 信 乃

水泳少年団の成り立ちは、平成10年に5名位でレッスンが始まったのち、平成12年に要望が高まり、水泳少年団が本格的に始動しました。令和元年度は28名で活動しています。

町内のプールで5月～9月のあいだ月曜日と金曜日に17時30分から18時30分の時間帯で活動しています。(全30回)

●活動目的

- ①水の事故防止と安全水泳の習得
- ②スポーツの大切さを理解し、活動意欲を高める
- ③団員同士のふれあい、思いやりの心を身につける
- ④4泳法の習得

●令和元年度の指導者（敬称略）

徳永光幸、本庄和子、小都みどり
大下邦彦、奈良猛士

●令和元年度の役員

代表～白石信乃、坂 梨恵、高桑祥代

練習内容については、初級・中級・上級の3グループに分かれ、それぞれ指導者の指導を受け、泳力向上を目指しています。初級グループは水に慣れることから始め、楽しみながら泳ぎの基礎を覚えていきます。中級グループは基本の泳ぎを身に着けるために、一つ一つ確認しながら練習に励んでいます。上級グループはタイムも意識し、更なる泳力向上を目指しています。上記の練習時間以外にも練習を重ね、日本水泳連盟の規定する泳力検定に挑戦し、2級合格という輝かしい記録を出した団員もいます。

9月のシーズン締めくくりには水泳記録会が行われ、一人一人の力を発揮する場が設けられています。これまで指導者から習ってきた泳法を意識し、記録会に参加します。タイムを自覚し、子供たちは達成感を感じることが出来、自信をつける良い機会でもあります。一人4種目まで出場でき、学年・男女別に最高タイムを掲載します。今年度は4種目すべてに新記録を樹立した団員もいました。

今の水泳少年団を支えてくれている指導者の方々や、団員の保護者のあたたかいサポートもあり、平成最後の活動は終わろうとしていますが、これからもみんなで協力し合い、これまで築き上げて頂いた水泳少年団を守っていききたいと思います。



新十津川バスケットボール少年団

設立 2013(平成25)年4月1日

<沿革>

平成18年にバスケットボール協会斉藤正史、笹木裕一、そして佐伯健二ら有志により、町内で子ども達にバスケットボールの楽しさを伝えることを目的にバスケットボールクラブを発足させた。

クラブ発足後、旧大和小学校体育館にて土曜日、日曜日の週2回、大人も一緒に練習や試合に加わり、子ども達と汗を流しバスケットボールの楽しさを伝えた。正式なユニフォームはなく、練習環境も現在の少年団ほど整ってはいなかったが、ボランティアで参加してくれる多くの人達の手作りで温かみのある行動により活動は推進された。

クラブ発足7年目の平成25年4月、前述クラブの有志らが中心となり、現在の「新十津川ミニバスケットボール少年団」を設立。設立後は、北空知ミニバスケットボール連盟に加盟し、連盟大会及び各種練習試合に積極的に参加し活動の幅を広げていった。練習試合では札幌や旭川、遠く稚内の少年団チームを町内に招待、逆にこちらが相手チーム少年団へ出向き練習試合を重ねるなどして、技術の向上及び他地域の児童との交流を図っていった。

また、様々な人的ネットワークから、「札幌清田中学校女子バスケットボール部高橋コーチバスケットボールクリニック」、「札幌山の手高校女子バスケットボール部上島コーチバスケットボールクリニック」など、全国クラスの高レベルな指導を少年団団員に受けさせる機会も得ることができたことは大変感謝するところである。

平成28年からは団員の対象をこれまでの小学生以下から中学生以下とし、幅広い少年団活動を推進している。

少年団が設立されて5年という月日が経過しますが、これまで少年団が継続して活動できてきたのは、町教育委員会、小学校及び中学校のご協力、そして地域の多くの人達の手助け、ご尽力があったからだ実感しています。これからも感謝の気持ちを忘れず、少年団活動を行っていき、引き続き子供たちにバスケットボールの楽しさを伝えていければと考える。

団員数：32人（小学生19人、中学生13人）

※平成31年1月1日現在



<役員(平成30年度)>

代表者 斉藤 正史
代表補佐 遠藤 進、佐伯 健二
指導者 片岡 浩、斉藤 正史
笹木 裕一
事務局長 笹木 裕一
(会計) 片山千恵美
監 事 久保田亜紀
父母会代表(会長) 林 奈々

<上位戦績>

第30回平野杯ミニバスケットボール大会

3位（平成29年）

第38回北空知ミニバスケットボール選手権大会

3位（平成29年）

<これまでの主な活動及び参加大会>

（平成25年度～30年度）

- ・練習 小学生 週5回（月、水、木、土、日）
- ・練習 中学生 週6回（月、火、水、金、土、日）
- ・練習試合
- ・管内中学校大会
- ・スプリングマッチ
- ・北空知地区会長杯ミニバスケットボール大会
- ・夏季ミニバスケットボール大会
- ・北空知中体連バスケットボール大会
- ・スーパー練習試合
- ・栗山カップ大会
- ・平野杯ミニバスケットボール大会
- ・滝川地方法人会ミニバスケットボール大会
- ・無限ドリームステージ北海道大会3ON3

- ・札幌清田中学校女子バスケット部高橋コーチ
バスケットボールクリニック
- ・管内中学校秋季大会（ゼビオカップ）
- ・管内中学校新人大会
- ・芦別ミニバスケットボール協会会長杯
- ・北空知ミニバスケットボール選手権大会
- ・芦別会長杯中学校バスケットボール大会
- ・全道ミニバス地区選抜新人大会選手選考会
- ・深川連盟会長杯バスケットボール大会
- ・北空知地区ミニ交流大会
- ・北海道ミニバス大会出場選抜チーム壮行練習試合
- ・北空知ミニバスケットボールU-10交流大会
- ・大西杯中学校大会
- ・6年生大会
- ・札幌山の手高校女子バスケット部上島コーチ
バスケットボールクリニック
- ・滝川ライオンズ杯ミニバスケットボール大会
- ・ミニバス選抜チームとの練習試合
- ・北海道ミニバスケットボール新人大会
- ・北海道ジュニアオールスターバスケットボール大会

一輪車サークル

代長 山下 明 美

新十津川一輪車サークルは、児童館で一輪車に乗る子供達に色々な乗車技術を教えていた高松依子さんが、平成3年から技術認定会や演技発表に取り組み、平成12年より「新十津川一輪車サークル」として活動し、日本一輪車協会と北海道一輪車協会に所属しています。一輪車は皆さんご存知の通り、1つのタイヤにペダルとサドルが付いたものです。自転車と違いハンドルが無いので、左右に曲がる時は体重移動でバランスをとります。その為、初めて乗る時は壁や手すり等につかまって停止していることも難しく、ペダルを漕ぎだす最初の1歩は恐怖心との戦いです。そんな一輪車ですが、年1回行われる技術認定会では、一人で乗車して10mほど進み右回り左回りが出来て降車することが出来る7級から、片足だけでタイヤを操縦し30m進む片足前進や15cmの高さの台に飛び乗る段差乗りが課題となる1級、更には後ろ向きに回転するバックspinやサドルを両足で挟み立ち上がった体勢で移動する立ちグライディングなど高度な技が要求されます。サークル結成から現在まで、7級の合格者はおよそ150

名で3級は58名、2級は35名、1級は12名です。さらに高度なエキスパート3級は3名が合格しています。

また、個人の技術を磨きその成果が記録に残る認定会とは別に、チームワークや団結力が必要となる演技発表も行っており、ふるさとまつりや町民文化祭のステージ発表、町内外の高齢者施設のお祭りや赤い羽根や盲導犬のチャリティーイベントにも出演しています。更に年1回道内で開催される「北海道一輪車フェスティバル」は平成20年の第1回から出演し、平成26年に十勝で開催された「北海道演技競技会」では10名以下のチームとして小学生6名が出演し「ノーミス賞」と「努力賞」を頂きました。平成30年は江別市民会館の大ホールを会場に、札幌、江別、千歳などの石狩地区や名寄、士別の上川地区、帯広や釧路など道東からのチームの中に、空知ではただ1つのチームとして新十津川一輪車サークルが出演しました。今年9月15日(日)に岩見沢での開催が予定されています。出演する自分達の楽しみだけではなく、見に来てくれる多くの人たちに元気や感動を届けられるように、会員と指導者、そして保護者の方々にご協力を頂きながら活動を続けていきます。



平成30年文化祭出演



列移動練習

特定非営利活動法人新十津川町体育協会定款

(令和元年7月10日現在)

第1章 総則

(名称)

第1条 この法人は、特定非営利活動法人新十津川町体育協会（以下「法人」という。）という。

(事務所)

第2条 この法人は、主たる事務所を新十津川町内に置く。

第2章 目的及び事業

(目的)

第3条 この法人はスポーツ人口の拡大に向けたスポーツ教室やイベントの開催などにより、町民誰もがスポーツに親しむことができる環境をつくり、スポーツの普及発展と健康増進に寄与することを目的とする。

(特定非営利活動の種類)

第4条 この法人は、前条の目的を達成するため、特定非営利活動促進法（平成10年法律第7号。以下「法」という。）第2条別表第4号「学術、文化、芸術又はスポーツの振興を図る活動」に該当する特定非営利活動を行う。

(事業)

第5条 この法人は、第3条の目的を達成するため、特定非営利活動に係る事業として、次の事業を行う。

- (1) 町民スポーツの振興に関する事業
- (2) 町民スポーツの啓蒙と促進に関する事業
- (3) 町民スポーツ指導者育成に関する事業
- (4) 青少年スポーツの育成、支援に関する事業
- (5) スポーツ団体の強化、連携に関する事業
- (6) スポーツ関係功労者の表彰に関する事業
- (7) スポーツ施設及び付属施設等の管理、運営に関する事業
- (8) その他、法人の目的の達成に必要な事業

2 この法人は、次のその他の事業を行う。

- (1) 物品の販売に関する事業
- (2) 物品の貸付に関する事業

3 前項に掲げる事業は、第1項に掲げる事業に支障がない限り行うものとし、その収益は第1項に掲げる事業に充てるものとする。

第3章 会員

(種別)

第6条 この法人の会員は、次の2種類とし、正会員をもって法上の社員とする。

- (1) 正会員 この法人の目的に賛同して入会した個人及び団体
- (2) 賛助会員 この法人の目的に賛同し事業を賛助するために入会した個人及び団体

(入会)

第7条 会員の入会については、特に条件を定めない。

2 会員として入会しようとするものは、理事長が別に定める入会申込書により、理事長に申し込むものとし、理事長は、正当な理由がない限り、入会を認めなければならない。

3 理事長は、前項の正会員の申し込みについて、入会を認めない場合は、理由を付した書面をもって本人にその旨を通知しなければならない。

(年会費)

第8条 会員は、総会において別に定める年会費を納入しなければならない。

(会員の資格の喪失)

第9条 会員が次の各号のいずれかに該当するに至ったときは、その資格を喪失する。

(1) 退会届を提出したとき

(2) 本人が死亡し、または、会員である団体が消滅したとき

(3) 継続して2年以上年会費を滞納したとき

(4) 第11条の規定する除名となったとき

(退会)

第10条 会員は、理事長が別に定める退会届を理事長に提出して、任意に退会することができる。

(除名)

第11条 会員が次の各号のいずれかに該当するに至ったときは、総会の議決により、これを除名することができる。この場合に、その会員に対し、議決の前に弁明の機会を与えなければならない。

(1) この定款等に違反したとき

(2) この法人の名誉を傷つけ、または目的に反する行為をしたとき

(抛出金品の不返還)

第12条 会員がすでに納入した年会費及びその他の抛出金品は、返還しない。

第4章 役員

(種別及び定数)

第13条 この法人に次の役員を置く。

(1) 理事 3名以上

(2) 監事 2名

2 理事のうち、理事長1名、副理事長1名、専務理事1名を置く。

(選任)

第14条 理事及び監事は、総会において選任する。

2 理事長、副理事長及び専務理事は、理事の互選とする。

3 役員のうちには、それぞれの役員について、その配偶者若しくは3親等以内の親族が1人を超えて含まれ、又は当該役員並びにその配偶者及び3親等以内の親族が役員総数の3分の1を超えて含まれることになってはならない。

4 監事は、理事またはこの法人の職員を兼ねることができない。

(職務)

第15条 理事長は、この法人を代表し、その業務を総理する。

2 副理事長は、理事長を補佐し、理事長に事故あるとき、又は欠けたときは、その職務を代行する。

3 専務理事は、理事長の命を受けて会務を掌理する。

4 理事は、理事会を構成し、この定款の定め及び理事会の議決に基づき、この法人の業務を執行する。

5 監事は、次に掲げる業務を行う。

(1) 理事の業務執行の状況を監査すること。

(2) この法人の財産の状況を監査すること。

(3) 前2号の規定による監査の結果、この法人の業務又は財産に関し不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実があることを発見した場合には、これを総会又は所轄庁に報告すること。

(4) 前号の報告をするため必要がある場合には、総会を招集すること。

(5) 理事の業務執行の状況又はこの法人の財産の状況について、理事に意見を述べ、若しくは理事会の招集を請求すること。

(任期)

第16条 役員任期は2年とする。ただし、再任は妨げない。

2 前項の規定にかかわらず、後任の役員が選任されていない場合には、任期の末日後最初の総会が終結するまでその任期を延長する。

3 補欠のため、又は増員によって就任した役員任期は、それぞれの前任者又は現任者の任期の残存期間とする。

4 役員は、辞任又は任期満了後においても、後任者が就任するまでは、その職務を行わなければならない。

(欠員補充)

第17条 理事又は監事のうち、その定数の3分の1を超える者が欠けたときは、遅滞なくこれを補充しなければならない。

(解任)

第18条 役員が次の各号のいずれかに該当するに至ったときは、総会の議決により、これを解任することができる。この場合には、その役員に対し、議決する前に弁明の機会を与えなければならない。

(1) 心身の故障のため、職務の遂行に堪えられないと認められるとき。

(2) 職務上の義務違反その他役員としてふさわしくない行為があったとき。

(報酬等)

第19条 役員は、その総数の3分の1以下の範囲内で報酬を受けることができる。

2 役員には、その職務を執行するために要した費用を弁償することができる。

3 前2項に関して必要な事項は、総会の議決を経て、理事長が別に定める。

(顧問)

第20条 この法人に顧問を置くことができる。

2 顧問は、理事会の承認を得て、理事長が委嘱する。

3 顧問は、理事長の諮問に応じて助言を行い、理事会の要請があるときは、これに出席して意見を述べることができる。

(職員)

第21条 この法人は、その業務を処理させるため、事務局長及びその他の職員を置くことができる。

2 職員は、理事長が任免する。

第5章 総会

(種別)

第22条 この法人の総会は、通常総会と臨時総会の2種類とする。

(構成)

第23条 総会は、正会員をもって構成する。

(権能)

第24条 総会は、以下の事項について議決する。

- (1) 定款の変更
- (2) 解散
- (3) 合併
- (4) 事業計画及び収支予算
- (5) 事業報告及び収支決算
- (6) 役員を選任及び解任、職務及び報酬
- (7) 年会費の額
- (8) 借入金（その事業年度内の収入をもって償還する短期借入金を除く。第51条において同じ。）その他の新たな義務の負担及び権利の放棄
- (9) その他運営に関する重要事項

(開催)

第25条 通常総会は、毎年1回開催する。

2 臨時総会は、次の各号のいずれかに該当する場合に開催する。

- (1) 理事会が必要と認め招集の請求をしたとき。
- (2) 正会員の5分の1以上から会議の目的である事項を記載した書面をもって招集の請求があったとき。
- (3) 監事が第15条第5項第4号の規定により招集したとき。

(招集)

第26条 総会は、前条第2項第3号の規定による場合を除き、理事長が招集する。

2 理事長は、前条第2項第1号及び第2号の規定による請求があった場合は、その日から30日以内に臨時総会を招集しなければならない。

3 総会を招集するときは、会議の日時、場所、目的及び審議事項を記載した書面をもって、少なくとも5日前までに通知しなければならない。

(議長)

第27条 総会の議長は、その総会において、出席した正会員の中から選出する。

(定足数)

第28条 総会は、正会員総数の2分の1以上の出席がなければ開会することができない。

(議決)

第29条 総会における議決事項は、第26条第3項の規定によってあらかじめ通知した事項とする。

2 総会の議決事項は、この定款で定めるもののほか、出席した正会員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところとする。

(表決権等)

第30条 各正会員の表決権は、平等なるものとする。

2 やむを得ない理由のため総会に出席できない正会員は、あらかじめ通知された事項について書面をもって表決し、又は他の正会員を代理人として表決を委任することができる。

3 前項の規定により表決した正会員は、前2条、次条第1項第2号及び第52条の適用については、総会に出席したものとみなす。

4 総会の議決について、特別の利害関係を有する正会員はその議事の議決に加わることができない。

(議事録)

第31条 総会の議事については、次に掲げる事項を記載した議事録を作成しなければならない。

(1) 日時及び場所

(2) 正会員総数及び正会員の出席者数（書面表決者又は表決委任者にあつては、その数を付記すること。）

(3) 審議事項

(4) 議事の経過の概要及び議決の結果

(5) 議事録署名人の選任に関する事項

2 議事録には、議長及びその会議において選任された議事録署名人2名以上が署名又は記名押印しなければならない。

第6章 理事会

(構成)

第32条 理事会は、理事をもって構成する。

(権能)

第33条 理事会は、この定款で定めるもののほか、次に掲げる事項を議決する。

(1) 総会に付議するべき事項

(2) 総会の議決した事項の執行に関する事項

(3) 事務局の組織及び運営

(4) その他総会の議決を要しない会務の執行に関する事項

(開催)

第34条 理事会は、次の各号のいずれかに該当する場合に開催する。

(1) 理事長が必要と認めたとき。

(2) 理事総数の2分の1以上の理事から会議の目的を記載した書面をもって招集の請求があったとき。

(3) 監事が第15条第5項第5号の規定により招集したとき。

(招集)

第35条 理事会は理事長が招集する。

2 理事長は、前条第2号及び第3号の規定による請求があったときは、その日から30日以内に理事会を招集しなければならない。

3 理事会を招集するときは、会議の日時、場所、目的及び審議事項を記載した書面をもって、少なくとも5日前までに通知しなければならない。

(議長)

第36条 理事会の議長は、理事長がこれに当たる。

(議決)

第37条 理事会における議決事項は、第35条第3項の規定によってあらかじめ通知した事項とする。

2 理事会の議事は、理事総数の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(表決権等)

第38条 各理事の表決権は、平等なものとする。

2 やむを得ない理由のため理事会に出席できない理事は、あらかじめ通知された事項について書面をもって表決し、又は他の理事を代理人として表決を委任することができる。

3 前項の規定により表決した理事は、次条第1項第2号の適用については、理事会に出席したものとみなす。

4 理事会の議決について、特別の利害関係を有する理事はその議事の議決に加わるできない。

(議事録)

第39条 理事会の議事については、次に掲げる事項を記載した議事録を作成しなければならない。

(1) 日時及び場所

(2) 理事総数、理事の出席者数及び出席者氏名（書面表決者又は表決委任者にあつては、その数を付記すること。）

(3) 審議事項

(4) 議事の経過の概要及び議決の結果

(5) 議事録署名人の選任に関する事項

2 議事録には、議長及びその会議において選任された議事録署名人2名以上が署名又は記名押印しなければならない。

第7章 資産及び会計

(資産の構成)

第40条 この法人の資産は、次の各号に掲げるものをもって構成する。

(1) 設立当初の財産目録に記載された財産

(2) 年会費

(3) 寄付金品

- (4) 財産から生じる収入
- (5) 事業に伴う収入
- (6) その他の収入

(資産の区分)

第41条 この法人の資産は、特定非営利活動に係る事業に関する資産及びその他の事業に関する資産の2種類とする。

(資産の管理)

第42条 この法人の資産は理事長が管理し、その方法は、総会の議決を経て理事長が別に定める。

(会計の原則)

第43条 この法人の会計は、法第27条各号に掲げる原則に従って行うものとする。

(会計の区分)

第44条 この法人の会計は、特定非営利活動に係る事業に関する会計及びその他の事業に関する会計の2種類とする。

(事業計画及び予算)

第45条 この法人の事業計画及びこれに伴う収支予算は、理事長が作成し、総会の議決を得なければならない。

(暫定予算)

第46条 前条の規定にかかわらず、やむを得ない理由により予算が成立しないときは、理事長は、理事会の議決を経て、予算成立の日まで前事業年度の予算に準じ収入支出することができる。

2 前項の収入支出は、新たに成立した予算の収入支出とみなす。

(予備費の設定及び使用)

第47条 予算超過又は予算外の支出に充てるため、予算中に予備費を設けることができる。

2 予備費の使用は理事長が専決できるものとするが、その用途を理事会へ報告しなければならない。

(予算の追加及び更正)

第48条 予算議決後にやむを得ない事由が生じたときは、理事会の議決を経て、既定予算の追加又は更正をすることができる。

2 前項の規定にかかわらず、災害等緊急を要する事由が生じたときに限り、理事長は既定予算の追加又は更正をすることができる。ただし、その用途等を理事会へ報告しなければならない。

(事業報告及び決算)

第49条 この法人の事業報告書、収支計算書、貸借対照表及び財産目録等の決算に関する書類は、毎事業年度終了後、速やかに理事長が作成し、監事の監査を受け、総会の議決を経なければならない。

2 決算上剰余金を生じたときは、次事業年度に繰り越すものとする。

(事業年度)

第50条 この法人の事業年度は、毎年4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

(臨機の措置)

第51条 予算をもって定めるもののほか、借入金の借入れその他新たな義務の負担をし、又は権利の放棄をしようとするときは、総会の議決を経なければならない。

第8章 定款の変更及び解散

(定款の変更)

第52条 この法人が定款を変更しようとするときは、総会に出席した正会員の4分の3以上の議決を経、かつ、法第25条第3項に規定する以下の事項を変更する場合、所轄庁の認証を得なければならない。

- (1) 目的
- (2) 名称
- (3) その行う特定非営利活動の種類及び当該特定非営利活動に係る事業の種類
- (4) 主たる事務所及びその他の事務所の所在地（所轄庁変更を伴うものに限る。）
- (5) 社員の資格の得喪に関する事項
- (6) 役員に関する事項（役員の定数に関する事項を除く）
- (7) 会議に関する事項
- (8) その他の事業を行う場合における、その種類その他当該その他の事業に関する事項
- (9) 解散に関する事項（残余財産の帰属すべき事項に限る。）
- (10) 定款の変更に関する事項

(解散)

第53条 この法人は、次に掲げる事由によって解散する。

- (1) 総会の決議
- (2) 目的とする特定非営利活動に係る事業の成功の不能
- (3) 正会員の欠亡
- (4) 合併
- (5) 破産
- (6) 所轄庁による設立の認証の取消し

2 前項第1号の事由によりこの法人が解散するときは、正会員総数の4分の3以上の承認を得なければならない。

3 第1項第2号の事由により解散するときは、所轄庁の認定を得なければならない。

(残余財産の帰属)

第54条 この法人が解散（合併又は破産による解散を除く。）したときに残存する財産は、法第11条第3項に掲げる者のうち、新十津川町に譲渡するものとする。

(合併)

第55条 この法人が合併しようとするときは、総会において正会員総数の4分の3以上の議決を経、かつ、所轄庁の認証を得なければならない。

第9章 公告の方法

(公告の方法)

第56条 この法人の公告は、この法人のホームページに掲載して行う。

第10章 雑則

(細則)

第57条 この定款の施行について必要な事項は、定款で定めるもののほか、理事会の議決を経て、理事長が別に定める。

附 則

- 1 この定款は、この法人の成立の日から施行する。
- 2 この法人の設立当初の役員は、次に掲げる者とする。

理 事 長	高 宮 九州夫
副 理 事 長	乗 松 政 勝
専 務 理 事	谷 口 榮
理 事	藤 林 亘
理 事	入 井 繁
理 事	谷 口 秀 樹
理 事	東 勝 美
理 事	宮 井 浩 之
監 事	関 山 洋 幸
監 事	川 下 晃 弘
- 3 この法人の設立当初の役員の任期は、第16条第1項の規定にかかわらず、平成23年3月31日までとする。
- 4 この法人の設立当初の事業年度は、第50条の規定にかかわらず、成立の日から平成22年3月31日までとする。
- 5 この法人の設立当初の事業計画及び収支予算は、第45条の規定にかかわらず、設立総会の定めるところによるものとする。
- 6 この法人の設立時の年会費は、第8条の規定にかかわらず、徴収しない。

附 則

- 1 この定款は、北海道知事の認証を受けた日（平成30年8月6日）から施行する。

新十津川町体育協会規約 (平成21年まで)

(名称)

第1条 本会は、新十津川町体育協会という。

(目的)

第2条 本会は、町内の種目別体育団体の連絡提携を図り、町民体育の健全な普及発展と体力の向上に寄与することを目的とする。

(組織)

第3条 本会は、前条の目的に賛同する町内の種目別体育団体をもって構成する。

(事業)

第4条 第2条の目的を達成するため次の事業を行う。

- (1) 町民体育の振興を図ること
- (2) 加盟団体の強化育成と相互の連絡調整、親睦を図ること
- (3) 講習会その他体育に関する各種事業の実施及び援助を行うこと
- (4) 体育に関する情報を収集し、必要な啓発を行うこと
- (5) 体育功労者及び優秀選手者の表彰を行うこと
- (6) その他目的達成に必要な事業を行うこと

(加盟)

第5条 本会に加盟しようとするときは文書で会長に申請しなければならない。

2 加盟は評議員会の決議をもって承認する。

(脱退)

第6条 加盟団体より脱退の申し出のあったときは、理事会に諮り評議員会においてこれらを承認する

2 加盟団体として活動内容の伴わないとき、又は、協会の品位を損なう行為があったと理事会が認めた時は評議員会の決議を経て脱会させることができる。

(役員)

第7条 本会に次の役員を置く。

会 長	1 名
副 会 長	1 名
事務局 長	1 名
理 事	若干名
評 議 員	若干名
監 事	2 名

2 本会に顧問を置くことができる。

3 顧問は理事会で推薦し、評議員会の推薦を受ける。

(会長、副会長、事務局長)

第8条 会長、副会長、事務局長は本会に加盟する団体の構成員から理事会で推薦し、評議員会の承認を受ける。

2 会長は本会を代表して会務を総理する。

3 副会長は会長を補佐し、会長事故あるときはその職務を代理する。

4 事務局長は本会の庶務を司る。

(理事)

第9条 理事は各加盟団体において1名を選出する。

(評議員)

第10条 評議員は各加盟団体において2名を選出する。

(監事)

第11条 監事は評議員会において選出する。

2 監事は本会の会計事務を監査し、評議員会において報告しなければならない。

(役員任期)

第12条 役員（顧問を除く）の任期は約2年とする。ただし、再任を妨げない。

- 2 理事及び評議員のうちより本会の会長、副会長、事務局長、監事に選出されたとき、又は理事、評議員に欠員が生じたときは、その加盟団体は更にこれに代わる理事及び評議員を選出しなければならない。
- 3 補欠役員の任期は前任者の残任期間とする。
- 4 役員は任期満了しても、後任者が就任するまでは、その職務を負う。

(会議)

第13条 本会の会議は理事会及び評議員会とし、理事会は必要に応じて評議員会は毎年4月に開く。

(評議員会)

第14条 評議員会は本会の意思決定機関とし、会長、副会長、事務局長、理事及び評議員をもって構成し、毎年4月に次の事項を審議決定する。

- (1) 予算及び決算に関すること
 - (2) 役員の改選
 - (3) 規約改正に関する事項
 - (4) 本会の事項に関すること
 - (5) その他必要と認めること
- 2 評議員会は会長が招集する。ただし評議員の3分の2以上要請があった場合には、会議を招集しなければならない。
 - 3 評議員会は加盟団体の3分の2以上が出席しなければ開会することができない。
 - 4 評議員会の議事は出席者の過半数の決議で決め、可否同数の場合には議長がこれを決定する。

(理事会)

第15条 理事会は会長、副会長、事務局長、及び理事をもって組織し、評議員より委嘱された事項ならびに緊急必要事項について審議決定する。

- 2 理事会は会長が招集する。
- 3 理事会の議事は出席者の過半数の決議で決め、可否同数の場合は会長がこれを決定する。
- 4 理事会において決定された事項は、次の評議員会に報告しなければならない。

(会計)

第16条 本会の経費は次に掲げるもので支弁する。

負担金
補助金
寄付金
雑収入

(会計年度)

第17条 本会の会計年度は4月1日に始まり、翌年3月31日におわる。

(規定への委任)

第18条 この規約の施行について必要な事項は規定で定める

(事務局)

第19条 本会の事務を処理するため事務局を置く。

事務局次長 1名

- 2 事務局次長は会長が委嘱する。
- 3 事務局次長は会計、広報を担当する。

附 則

- 1 本規約は昭和44年6月19日より施行する。
- 2 この改正規約は昭和63年5月12日より施行する。(全文改正)
- 3 この改正規約は平成5年4月6日より施行する。
- 4 この改正規約は平成10年4月6日より施行する。(第8条改正)

新十津川町体育協会歴代役員

《会長》

氏名	就任月日	退任月日
鈴木 源太郎	1969(昭和44)年6月13日	1981(昭和56)年3月31日
高樋 正男	1981(昭和56)年4月1日	1987(昭和62)年3月31日
高宮 九州男	1987(昭和62)年4月1日	2009(平成21)年9月17日

《副会長》

氏名	就任月日	退任月日
田中 寛	1969(昭和44)年6月13日	1974(昭和49)年3月31日
高樋 正男	1974(昭和49)年4月1日	1979(昭和54)年3月31日
乗松 章	1979(昭和54)年4月1日	1983(昭和58)年3月31日
高宮 九州男	1983(昭和58)年4月1日	1987(昭和62)年3月31日
塩崎 能宣	1987(昭和62)年4月1日	1994(平成6)年3月31日
境 和一	1994(平成6)年4月1日	2001(平成13)年3月31日
藤林 亘	2001(平成13)年4月1日	2009(平成21)年9月17日

《理事長・事務局長》

氏名	就任月日	退任月日
橋本 英彦	1969(昭和44)年6月13日	1972(昭和47)年3月31日
柴田 幸雄	1972(昭和47)年4月1日	1972(昭和52)年3月31日
高宮 九州夫	1972(昭和52)年4月1日	1983(昭和58)年3月31日
塩崎 能宣	1983(昭和58)年4月1日	1987(昭和62)年3月31日
秋葉 毅	1989(平成元)年4月1日	1992(平成4)年3月31日
長名 實	1992(平成4)年4月1日	2002(平成14)年3月31日
乗松 政勝	2002(平成14)年4月1日	2009(平成21)年9月17日

特定非営利活動法人化 [2009(平成21)年9月18日] 以後

《理事長》

氏名	就任月日	退任月日
高宮 九州男	2009(平成21)年9月18日	2013(平成25)年5月30日
吉田 邦男	2013(平成25)年5月31日	現在

《副理事長》

氏名	就任月日	退任月日
乗松 政勝	2009(平成21)年9月18日	2010(平成22)年2月27日
吉田 邦男	2011(平成23)年5月31日	2013(平成25)年5月30日
青田 良一	2013(平成25)年5月31日	2013(平成25)年8月19日
悪七 廣雄	2013(平成25)年8月20日	現在

《専務理事》

氏名	就任月日	退任月日
谷口 榮	2009(平成21)年9月18日	現在

新十津川町体育協会表彰者一覧

(昭和45年4月1日表彰規程施行)

年度	氏名	種目	表彰理由
46	高 樋 正 男	箒 球	町体協監事、町箒球協会会長5年間 空知スポーツ大会準々決勝まで選手として活躍
	井 出 武	陸 上	北海道選手権800m、1,500mに第4位 国体教員の部2位、体協理事
	上 家 国 義	剣 道	青年大会個人2位 全北海道段別3段の部優勝
47	橋 本 英 彦	弓 道	弓道会会長9年 町体協理事長3年
	高 橋 あや子	陸 上	全国青年陸上大会3種競技第2位
	新十津川中学校 剣 道 部	剣 道	全空知少年剣道大会6連覇
48	宮 本 英 靖	剣 道	道民スポーツ剣道大会優勝 全国青年剣道大会第4位
	浅 川 博 雅	相 撲	全道相撲大会(青年)軽量級優勝
	故 田中 寛	剣 道	空知剣連理事20年 町体協副会長5年
	故 志賀 進	陸 上	町体協監事5年 町陸上競技クラブ会長5年
	故 小林 宏吉	卓 球	全卓球協会会長5年
	尚武会 若獅子会	剣 道	全国青年剣道大会優勝 監督 田中弘明 選手 谷本守正 前谷力男 上家国義 竹原嘉一 宮本英靖
49	竹 原 嘉 一	剣 道	全空知段別選手権3段の部優勝(3年連続) 全空知剣道連盟最優秀選手表彰受賞
50	尾 西 正	剣 道	昭和49年、全道段別選手権初段の部優勝 昭和50年、高体連全道大会個人の部優勝、北海道最優秀選手
51	ピンネチーム	排 球	全道ママさんバレーボール大会Dブロック準優勝 監督 棚橋 繁 選手 浅利栄子 佐川むつ子 井沢純子 中畑冴子 戸田郁代 藤林瑞枝 花山玲子 松原澄子 井出富士子 細川美智子 東田富美子 小西玲子 高桑茂子 田中良子 深瀬紀代恵
	柴 田 幸 雄	陸 上	町体協理事長5年 町陸上競技クラブ理事12年
	藤 崎 信 一	排 球	町バレーボール協会会長18年 町体協監事4年
	故 三枝 泰司	野 球	町朝野球協会会長11年
	杉 本 智 子	卓 球	昭和48年より全道大会など各種卓球大会に参加常に優勝若しくは準優勝など、優秀な成績を上げる
52	尚武会 若獅子会	剣 道	全国青年剣道大会に北海道代表として活躍 監督 上家国義 選手 石川暢宏 尾西 豊 鈴木久一 島宗廣吉 後木祥一 木村文秋
	窪 田 秀	箒 球	町箒球協会会長4年(離町) 町体協監事4年
	後 木 祥 一	剣 道	全国青年剣道大会第3位
53	尚武会 少年部	剣 道	全国少年剣道錬成大会敢闘賞 選手 銅谷健一 津辻和典 湯田博志 中村仁彦 細川雅史 岩橋亮典 細川和義
	井 出 武	陸 上	町陸上競技クラブ理事として10年間

年度	氏名	種目	表彰理由
53	銅谷 健一	剣道	全国少年剣道錬成大会個人優秀賞 高松宮賜杯日本軟式野球2部滝川地区予選優勝
	町役場野球部	野球	監督 植田 満 選手 小畑莊一 谷口 栄 北嶋義弘 佐川 純 石田賢吉 谷本守正 上家国義 工藤泰弘 河原井博 天間寿俊 福田章一 安中経人 蓬田泰弘
54	鈴木 源太郎	尚武会	町体協会長として10年間貢献
	尚武会 少年部	剣道	北海道地区剣道錬成大会優勝 選手 銅谷健一 細川和義 湯田博志 中村仁彦 岩橋亮典
55	藤根 弘士	箏球	町体協理事6年 町箏球協会事務局長6年
	宮井 義明	剣道	全国選抜少年剣道錬成大会5戦全勝
	住安 秀史	剣道	全国選抜少年剣道錬成大会5戦中4勝1分け
	尚武会 少年部	剣道	全国選抜少年剣道錬成大会団体殊勲賞 選手 住安秀史 宮井義明 原 佳満 村部泰弘 細川和義
	尚武会 Aチーム	剣道	全道団体優勝大会B級準優勝 選手 尾西 正 鈴木久一 後木祥一 竹原嘉一 矢藤良雄
	尚武会 少年部	剣道	全道中学校剣道大会第3位 選手 湯田博志 中村仁彦 細川雅史 岩橋亮典 田岡敏明
56	尚武会 少年部	剣道	全日本剣道錬成大会中学生の部第3位 選手 銅谷健一 津辻和典 湯田博志 岩橋亮典 細川雅史
	上杉 孝儀	剣道	尚武会事務局長理事長副会長として長年に亘って貢献
	五井 桂三郎	箏球	町箏球協会会長 町体協監事4年
	森川 岩夫	柔道	柔道連盟の結成、柔道スポーツ少年団の結成 町体協理事2年
	梅津 豊志	卓球	町卓球協会副会長8年 町体協理事3年
	なぎなた連盟	なぎなた	北海道なぎなた大会準優勝、全国大会に出場
57	佐藤 和子	なぎなた	スポーツ振興賞 新十津川なぎなた連盟を創設し、なぎなた普及に貢献
58	仲谷 武夫	野球	スポーツ振興賞 川町軟式野球連盟会長を昭和49年から10年間
	上家 国義	剣道	スポーツ奨励賞 第26回東北北海道剣道大会に優秀な成績 (宮城県中新田町)
60	増谷 晴雄	剣道	スポーツ貢献賞
	高崎 重男	バスケットボール	スポーツ貢献賞 バスケットボール協会役員として33年間
	高桑 美智江	なぎなた	スポーツ奨励賞 本道代表なぎなた選手として国体に3年連続出場
	小野 由貴	剣道	スポーツ奨励賞 全道中学生剣道錬成大会中学2年生の部優勝
61	高田 宏昭	剣道	スポーツ奨励賞 第22回全道教職員剣道大会(留萌市)個人戦小学校の部優勝
	小野 由貴	剣道	スポーツ奨励賞 少年少女剣道錬成大会(昭和61年4月)中学3年の部Aブロック優勝
	尚武会 少年部	剣道	中体連全道大会(昭和61年8月釧路市)優勝、道少年剣道錬成大会3位 監督 田中弘明 新井和幸 選手 前田幸男 佐野和孝 梅坪俊彦 宮井浩之 小野由貴
	高樋 正男		感謝状。体育協会の設立(昭和44年)以来会長など役員を長年務め 社会体育の活発化に尽力した。

年度	氏名	種目	表彰理由
62	尚武会 高校生	剣道	第22回全日本少年剣道錬成大会(昭和62年8月)中学生団体コート優勝 監督 田中弘明 選手 前田幸男 黒沢賢明 梅坪俊彦 蔭田康行 佐野和孝
	尚武会 中学生	剣道	第29回全国選抜少年剣道錬成大会(昭和63年3月、水戸市)コート準優勝 監督 田中弘明 選手 江目祥彰 蔭田和則 山村健二 三浦 健 佐藤政行
	上 家 国 義	剣道	第33回全道段別剣道選手権(昭和62年4月、札幌市) 7段の部3位及び東北北海道剣道大会出場
	高 田 宏 昭	剣道	第23回全道教職員剣道大会(昭和62年7月、登別市) 小学教員の部個人戦2位
	佐 野 和 孝	剣道	第11回全道少年剣道錬成大会(昭和62年7月、千葉市) 中学生個人の部優勝
	梅 坪 俊 彦	剣道	昭和62年度中体連全道剣道大会(昭和62年8月、網走市) 中学生個人の部優勝
	佐 藤 政 行	剣道	第29回赤銅少年剣道錬成大会(昭和62年7月、札幌市) 個人戦2位
	長 名 留 美	なぎなた	第42回国体秋季大会(昭和62年10月、沖縄) なぎなた競技少年少女の部北海道代表
	島 捨 夫	ソフトボール	貢献賞 町ソフトボール協会設立(昭和54年)に尽力、副会長、会長を歴任した
63	尚武会 少年部	剣道	第37回全道少年剣道錬成大会(札幌市)団体戦3位 監督 高田宏昭 選手 和歌伸洋 上家輝久 池田 尚 清野正嗣 加藤康仁 岡 豊
	ゲートボール連盟	ゲートボール	第2回発祥の地杯全国大会(昭和63年8月1日、芽室町)優勝 選手 中川直一 坂井正二 高桑良哉 松長 茂 遠藤春水
	ゲートボール連盟 A チーム	ゲートボール	第3回知事杯争奪北海道ゲートボール大会(昭和63年3月) シニア男子の部3位
	新 十 津 川 トップレディーズ	ソフトボール	第2回ニチイ杯全日本ママさん大会道予選会ベスト8
	高 桑 美智江	なぎなた	昭和58年から6年連続して国体なぎなたの部に道代表として出場 (奨励賞)
	植 田 一 至	剣道	第12回道地区少年剣道錬成大会(昭和63年7月、小樽市) 個人戦中学生の部準優勝 (奨励賞)
	渡 辺 謙	柔道	第10回全道少年柔道優勝大会(昭和63年7月、札幌市) 小学生の部3位 (奨励賞)
	長 崎 裕	卓球	花月小教諭在任中の10年間、町卓球連盟理事、審判長として町内卓球の振興に努めた (貢献賞)
H 1	高 桑 勇 司	剣道	第29回全北海道剣道段別個人選手権(昭和58年9月、札幌市) 2段の部3位 (奨励賞)
	高 桑 美智江	なぎなた	第44回はまなす国体なぎなた競技出場 (奨励賞)
	長 名 留 美	なぎなた	第44回はまなす国体なぎなた競技出場 (奨励賞)
	竹 原 嘉 一	剣道	第31回全国郵政武道大会出場 (奨励賞)
	中 村 重 晴	スキー バレーボール	永年に亘り、スキー及びバレーボール協会の役員として活躍、本町の社会体育進展に貢献 (貢献賞)
	赤 塚 正 昭	バドミントン スキー	永年に亘り、バドミントン及びスキー協会の役員として活躍、本町の社会体育進展に貢献 (貢献賞)
	斎 藤 正 弘	バスケットボール	永年に亘り、地域のスポーツの振興に寄与、団体の実践指導者としてリーダー的役割を果たす。 (振興賞)

年度	氏 名	種 目	表 彰 理 由
H 1	尚 武 会	剣 道	全北海道団体優勝剣道大会(平成元年6月、旭川市) 団体戦5段以上の部第3位 監督 松本 進 選手 新井和幸 白石 昇 鈴木久一 後木祥一 上家国義
	尚武会 少年部	剣 道	第13回北海道地区少年剣道錬成大会(平成元年5月、苫小牧市) 団体戦中学生の部ベスト8及び第24回全国少年剣道錬成大会 (8月、日本武道館)に北海道代表として出場 監督 田中弘明 選手 山村健二 三浦 健 中川 保 長名哲宏 井口真利
	尚武会 少年部	剣 道	第31回全国選抜少年剣道錬成大会(平成2年3月、水戸市) 第7コート、ベスト4進出、敢闘賞受賞 選手 浅川典隆 南 博 前原 始 富田 篤 後木洋祐 佐藤勝也
H 2	尚武会 少年部	剣 道	第14回北海道地区少年剣道錬成大会(白老町) 団体戦中学生の部3位
	長 名 哲 宏	剣 道	第36回全道剣道段別選手権、初段の部優勝
	村 本 政 美	陸 上	平成2年全道中学陸上800メートル1位 同年度中学北海道最高記録
	猪 股 陽 一	ソフトボール	新十津川中教諭在任中の17年間、同校の女子ソフトボール部と町 ソフトボール協会の設立と活動に尽力した。振興賞
H 3	中央野球少年団 ホワイトベアーズ	野 球	第20回全道少年野球大会 兼第11回全日本学童軟式野球北海道予選会ベスト8
	松 本 進	剣 道	第3回全道高齢者大会個人の部(60歳から64歳)優勝
	上 家 国 義	剣 道	第46回国民体育大会剣道競技北海道予選会 成年2部大将の部優勝
	竹 原 嘉 一	剣 道	第7回全道郵政武道大会剣道の部 個人4段以上の部優勝
	尚武会 少年部	剣 道	第15回北海道地区少年剣道錬成大会ベスト8 監督 田中弘明 選手 浅川、南、和歌、清野、加藤
	尚武会 少年部	剣 道	第12回北海道中学校剣道大会(平成2年8月3日、稚内市)優勝 監督 新井和幸 選手 浅川、南、和歌、加藤、清野、前原、政所
	佐 藤 瑞 穂	スキー	北海道スキー連盟主催3級公認アルペン競技女子の部 2月16日 ピアシリジャイアントスラローム大会(名寄市)第3位 2月23日 ジャイアントスラローム大会(赤平市)第2位 3月8日 ジャイアントスラローム大会(比布町)第1位
	秋 葉 毅	ソフトボール	昭和43年町ソフトボール協会設立時から審判部長就任、58年から 平成2年度まで理事長、平成3年から記録部長として永きにわたり 会及びソフトボールの振興に寄与した。
	沢 田 忠 治	卓 球	貢献賞 15年間にわたり町卓球連盟の理事として発展に寄与した。
	西 純 史	陸 上	第22回北海道中学校陸上競技大会(平成3年7月27日、釧路市) 砲丸投げ第5位
H 4	関 春 美	陸 上	第10回空知小学生陸上競技大会(平成4年6月21日、美唄市) ボール投げ女子800メートル 第10回北海道小学生選抜陸上競技大会(平成4年7月26日、函館市) 女子800メートル8位、ボール投げ
	尚武会 少年部 中学生の部	剣 道	第16回北海道地区少年剣道錬成大会(6月21日、室蘭市)優勝 第27回全日本少年剣道錬成大会(7月28日、日本武道館)第4会場優勝 監督 田中弘明 選手 佐藤勝也 前原 始 政所正人 南 博 浅川典隆

年度	氏名	種目	表彰理由
H 4	尚武会 少年部 小学生の部	剣道	第16回北海道地区少年剣道錬成大会ベスト8 第27回全日本少年剣道錬成大会(7月28日、日本武道館)1回戦敗退 監督 田中弘明 選手 岡 勝 後木主税 近藤卓弘 高松英紀 高崎 要
	新十津川中学校 剣道部	剣道	平成4年度中空知中体連剣道決勝大会(7月1日、新十津川町)第2位 全空知中体連剣道大会兼第12回全道中体連予選会(7月14日、新十津川町)優勝 第13回北海道中学校剣道大会(8月1日、足寄町)優勝 第22回全国中学校剣道大会(8月22日、福井県)予選リーグ敗退 監督 新井和幸 選手 佐藤、政所、南、浅川、富田、橘
	松本 進	剣道	第4回全道高齢者剣道大会(6月22日、札幌市) 個人の部(60歳から64歳)優勝
	竹原 嘉一	剣道	第8回全道郵政武道大会剣道の部(5月24日、札幌市) 個人4段以上の部優勝 第34回全国郵政武道大会(9月13日、長野市)団体戦(副将の部)優勝
	鹿島 美智江	なぎなた	昭和58年から平成4年まで10年連続して国民体育大会に出場特に平成元年はまなす国体で北海道優勝の原動力となった。 なぎなた連盟事務局長及び指導者としてまた、体育協会理事として永年体育の振興に貢献された。 敢闘賞
	岡本 克幸	スキー	昭和55年町スキー場開設以来平成3年度までの12年間にわたり町スキー協会の事務局長として活躍し、各種事業計画及び実施並びにスキー場の円滑な運営を図りながら理事及び会員をリードし今日のスキー場を冬期間における町民の楽しみ場、特に青少年健全育成の場として造りあげてきた功績は多大である。
H 5	松本 進	剣道	尚武会副会長、理事長を歴任。 第1回北海道農業者剣道大会個人戦(60歳以上の部)及び団体戦優勝 北海道高齢者剣道大会優勝(2連覇) 貢献賞
	竹原 嘉一	剣道	北海道郵政剣道大会優勝 全国郵政剣道大会団体優勝(2連覇) 奨励賞
	村部 邦男	剣道	第1回北海道農業者剣道大会(11月21日)個人戦(60歳以上の部) 第2位 奨励賞
	宮本 英靖	剣道	第1回北海道農業者剣道大会個人戦(6段以上の部)及び団体戦優勝 奨励賞
	前田 幸男	剣道	第1回北海道農業者剣道大会個人戦(3段以上の部)及び団体戦優勝 奨励賞
	新十津川福寿チーム	ゲートボール	第8回北海道地区ゲートボール選手権大会 空知予選大会(7月31日、赤平市)第2位 第8回北海道地区ゲートボール選手権大会(8月28日、網走市) 決勝トーナメント7位入賞(参加、道内118チーム) 奨励賞
	新十津川尚武館	剣道	第4回全道中学生剣道錬成大会 団体戦3位 監督 田中弘明 選手 富田 学 後木洋祐 高崎 要 長名俊幸 上家 茂 佐藤勝也 奨励賞
H 6	塩崎 能宣	ソフトボール協会	昭和60年から町ソフトボール協会会長、兼ねて昭和62年から北空知協会副会長 貢献賞
	佐藤 智幸	少年野球	昭和60年から中央野球スポーツ少年団の指導 振興賞
	中垣 孝	少年野球	中央野球スポーツ少年団の初代代表として結団(昭和56年)に奔走し、以来指導者として尽力。団を第1回全道少年軟式野球選抜大会優勝に導く。 振興賞
	高田 宏昭	剣道	昭和60年4月花月小学校に着任以来、花月剣道少年団の指導者として尽力、数多くの名剣士を育てる。今回教職員の人事異動により月形小学校へ転出。 振興賞

年度	氏名	種目	表彰理由
H 6	松井 大 介	剣 道	三重県尾鷲市で開催(8月10日)された第36回全国教職員剣道大会 中学校教員の部で優勝。 奨励賞
	竹原 嘉 一	剣 道	広島市で開催(10月23日)された第36回全国郵政剣道大会団体戦に 出場、北海道チームの大將として優勝に貢献(三連覇) 奨励賞
	長名 實	剣 道	端野町で開催された第2回道農業者剣道大会50歳代の部第3位 (11月27日) 奨励賞
	富田 学	剣 道	第18回道少年剣道錬成大会(6月26日、苫小牧市) 中学生の部第2位 奨励賞
	水谷 綾子	剣 道	第18回道少年剣道錬成大会(6月26日、苫小牧市) 小学生女子の部第3位 奨励賞
	中央野球スポーツ少年団 ホワイトベアーズ	野 球	8月29日から滝川市で18チームが参加して開催された第12回空知 少年野球秋季大会(新人戦)で優勝、さらに第1回全道少年軟式野 球選抜大会(16チーム)に空知代表として出場して優勝(平成6年 10月8日～10日、江別市営球場ほか) 監督 佐藤智幸 キャプテン 松葉 圭 選手 中沢嘉貴 工藤祐馬 加藤良和 三浦啓史 佐伯智司 岩井則明 上杉道継 村田祐樹 井上政聡 大塚和也 恒石優希 藤田 徹 岩谷 優 山下準平 日下健二 阪本 翼 渡辺 俊 西岡忠広 木下貴史 奨励賞
	新十津川尚武会	剣 道	旭川市で開催(6月19日)された平成6年全道団体優勝大会で準優勝 この大会は学生、警察、刑務官など参加し全道一を決める大会 選手 前田幸夫 高田恭介 松井大介 銅谷健一 高田宏昭 奨励賞
新十津川尚武館	剣 道	6月26日苫小牧市で開催された第18回道少年剣道錬成大会 中学生団体の部ベスト8 8月11日の第29回全日本少年剣道錬成大会 中学生団体の部3回戦進出 監督 田中弘明 選手 高崎 要 近藤卓弘 上家 茂 長名俊幸 富田 学 白石 学 奨励賞	
H 7	鈴木 鍾 三	軟式野球	昭和50年軟式野球審判員取得。昭和56年中央スポーツでは、代表 として中心的役割を果たし、以後指導と育成に活躍した。貢献賞
	中川 直 一	ゲートボール	昭和59年10月から平成8年4月までゲートボール連盟事務局とし てご尽力され、ゲートボールの振興普及に献身的な努力をされた。 貢献賞
	中根 梨乃	水 泳	公認・公式その他の全道水泳大会に出場し、優秀な成績を納める。 主な成績: ・J・O全国オリンピック(北海道予選)大会 平泳ぎ50m 1位 (平成6年7月) ・HBC杯全道水泳選手権大会 バタフライ50m 1位 (平成7年5月) 奨励賞
	高崎 修 一	スノーボード	平成8年1月から3月に参戦した10大会において、優秀な成績を 納めた。 主な成績: ・北海道サーキット第三戦全日本地区北海道代表 (2月10日ルスツ高原)第3位 ・中部サーキットJ S B A地区対抗北海道代表 (2月25日新潟県白馬乗鞍)第6位 奨励賞
	後木 孝 哉	剣 道	平成7年7月30日札幌で行われた第37回「赤銅」少年剣道錬成大会 において、第3位となる。全道の剣道連盟に所属する小学生の全 道一を決める大会での3位は価値がある。 奨励賞
	加藤 康 仁	剣 道	平成7年11月25日端野町で行われた第3回全道農民交流剣道大会 において、個人戦3段の部で準優勝する。 奨励賞
	銅谷 健 一	剣 道	平成7年11月25日端野町で行われた第3回全道農民交流剣道大会 において、個人戦4段の部で準優勝する。 奨励賞

年度	氏名	種目	表彰理由
H7	松井大介	剣道	第37回全道教職員剣道大会中学校教員の部でベスト8となる。 奨励賞
	新十津川尚武会	剣道	平成7年6月26日登別市で行われた第19回北海道少年剣道錬成大会において中学生の部でベスト8となり、全国大会の出場権を獲得した。 奨励賞
	新十津川尚武会		平成7年6月11日旭川市総合体育館で行われた平成7年度北海道団体優勝大会において、2年連続の準優勝となる。学生、警察官を含む団体の全道一を決める大会で連続の準優勝は価値がある。 奨励賞
H8	塩崎裕道	バスケットボール	永きにわたり町バスケットボールの振興に貢献してきた。町バスケットボールの基礎を築き上げた第一人者である。 貢献賞
	竹原和宏	剣道	中空知・全空知中体連剣道大会、各個人優勝し、全道中体連剣道大会に出場しベスト8となった。 奨励賞
	高橋一徳	剣道	第32回全道教職員剣道大会出場、小学校の部第3位 奨励賞
	後木顕人	剣道	第38回「赤銅」剣道大会に出場し、個人優勝 奨励賞
H9	松井大介	剣道	第32回全道教職員剣道大会中学校個人の部で優勝し、第38回全国教職員剣道大会に出場した。 奨励賞
	高田恭介	剣道	第32回全道教職員剣道大会中学校個人の部で優勝した。 奨励賞
H10	金山裕介	剣道	第19回北海道中学校剣道大会準優勝 奨励賞
	水谷綾子	剣道	第19回北海道中学校剣道大会優勝 全国中学校剣道大会ベスト8 奨励賞
	後木孝哉	剣道	第19回北海道中学校剣道大会優勝 全国中学校剣道大会ベスト16 奨励賞
	寄谷奈々絵	剣道	第19回北海道中学校剣道大会準優勝 奨励賞
	新十津川町尚武会	剣道	第22回北海道少年剣道錬成大会(道場大会)優勝 第9回全道中学生剣道大会錬成大会(はまなす国体記念)優勝 選手 後木孝哉 金山裕介 金子勇次 松下浩和 後木顕人 工藤竜実 辰口慎吾 奨励賞
	新十津川町尚武会	剣道	全道青少年剣道旭川大会(女子の部)優勝 選手 林美和 寄谷奈々絵 水谷綾子 岩井春香 上家良佳 宮井裕美 奨励賞
	新十津川中学校 剣道部	剣道	第19回北海道中学校剣道大会(中体連)優勝 選手 後木孝哉 金山裕介 金子勇次 松下浩和 後木顕人 工藤竜実 辰口慎吾
	井澤清	ゲートボール	平成2年4月から平成11年3月までゲートボール協会会長としてゲートボールの普及と発展に大きく貢献。 (特記～平成7年度の連盟結成10周年事業の成功、平成10年度の全国スポレク祭ゲートボール競技に道代表として参加など) 貢献賞
	後木智子	卓球	永年(約20年)にわたり、児童館、福祉センター、スポーツセンターにおいて、児童生徒・高齢者の卓球指導にあたりと共に、卓球連盟理事として、本町の卓球の振興に大きく貢献。 貢献賞
	新十津川町 ゲートボール連盟	ゲートボール	創始者杯兼道新旗・第14回北海道ゲートボール大会(8月8日、士別市)70歳以上の部で優勝し、第11回全国スポレク祭ゲートボール競技会(10/3～5、岐阜県)へ出初する。(全国大会成績～決勝トーナメント3位の4席 敢闘賞受賞) (チーム構成) 井澤清 小林孝一 羽下久太郎 朝倉清 菊池源太郎 松長茂 渡辺亀次 遠藤春水 奨励賞

年度	氏名	種目	表彰理由
H11	後木 颯人	剣道	第23回北海道少年剣道錬成大会 中学生個人の部 準優勝 奨励賞
	寄谷 美里	陸上競技	平成11年度北空知高等学校陸上競技大会 やり投げ1位 砲丸投げ1位 平成11年度北海道高等学校陸上競技大会 やり投げ6位 平成11年度全国高等学校総合体育大会出場 奨励賞
	新十津川尚武会	剣道	第40回全国選抜少年剣道錬成大会(水戸大会) ベスト6 選手 志賀隆史 鈴木逸人 鈴木純史 坂下裕樹 松田 悠 福士健一 奨励賞
	新十津川尚武会	剣道	第23回北海道少年剣道錬成大会 優勝 第10回全道中学生剣道錬成大会 準優勝 選手 笠松朋太 後木啓史 工藤雄太 泉谷雅人 後木颯人 奨励賞
	新十津川中学校 剣道部	剣道	第20回北海道中学校剣道大会 男子団体の部 準優勝 選手 笠松朋太 後木啓史 工藤雄太 泉谷雅人 後木颯人 奨励賞
H12	高橋 一徳	剣道	空知選抜チームに選ばれ、第35回全道教職員剣道大会団体の部において、チームの優勝に貢献 奨励賞
	東村 恵	剣道	第35回全道教職員剣道大会 団体3位 第55回国民体育大会出場 全国家庭婦人大会出場 奨励賞
	宮井 宏明	スキー	昭和59年に準指導員、昭和63年には指導員資格を取得。以来、子どもから大人にいたるまで多くのスキー愛好者の技術指導にあたったほか、準指導員・指導員養成講習会の主任講師も務めた。 振興賞
	川村 和芳	ソフトボール	昭和56年の第1回全町ソフトボール大会からコーチ兼選手として活躍し、地区はもとより町内へのソフトボールの普及振興に尽力した。さらに代表チームを率いて、北空知大会に出場、また、少年野球の指導者を長く務め、選手の技術向上に大きく貢献した。 振興賞
	山本 紘正	野球	新十津川中学校軟式野球部の顧問として18年間の永きにわたり、選手の育成に大きく貢献し、さらには、地域の朝野球チーム「ティーチャーズ」のチームリーダーとして、本町軟式野球の振興に尽力した。 振興賞
	新十津川町役場 野球部	野球	高松宮賜第44回全日本軟式野球大会2部 北空知支部大会 優勝 北海道大会 優勝 奨励賞
ピンネ農業協同組合	野球	中空知J A野球大会 優勝 全空知J A野球大会 優勝(2年連続) 全道J A野球大会 第3位 奨励賞	
H13	前谷 綾乃	剣道	第22回北海道中学校剣道大会女子個人の部 第3位 奨励賞
	岩槻 光	陸上競技	中空知中学校陸上競技大会 走り高跳び優勝 北海道中学校陸上競技大会出場 奨励賞
	新十津川尚武会	剣道	第42回全国選抜少年剣道錬成大会(水戸大会) ベスト6 選手 岩木慎吾 成田 穰 松井雅嗣 丸田翔太郎 柳町正司 小松龍矢 奨励賞
	新十津川中学校 剣道部	剣道	第25回北海道少年剣道錬成大会(道場大会) 準優勝 第12回全道中学生剣道錬成大会 第3位 選手 松田 悠 志賀隆史 鈴木逸人 竹田良平 松井雅嗣 奨励賞
	新十津川中学校 剣道部	剣道	第22回北海道中学校剣道大会女子団体の部 第3位 選手 前谷綾乃 上家智美 岩谷美奈 小田紗奈枝 中田佳代 永澤詩織 柏崎 望 奨励賞

年度	氏名	種目	表彰理由
H13	高橋 一徳	剣道	第37回全道教職員剣道大会小学校の部個人 準優勝 奨励賞
	坂口 哲	剣道	昭和54年のソフトボール協会設立に尽力。協会の事務局長、技術部長を歴任し、普及・振興に務めた。町内女子チームのトップレディーズを指揮し、数回にわたり全道大会に出場させるなど、指導力を発揮した。 振興賞
	境 和 一	ミニバレー ボール	平成6年から7年間に亘り、体育協会の副会長を務め、本町の社会体育進展に尽力。また、平成3年のミニバレーボール協会設立に尽力。平成8年まで会長として団体の育成にも寄与した。 貢献賞
	新十津川郵便局		永きにわたり本町の体育団体事業に対し浄財を賜り、体育振興に寄与した。(8団体 2,100千円) 感謝状
H14	松井 雅 嗣	剣道	第23回北海道中学校剣道大会男子個人の部 準優勝 奨励賞 全国中学校剣道大会出場
	橘 昭 夫	ハーフテニス	本町で考案された、オリジナルスポーツ「ハーフテニス」にいち早く取り組み、平成元年から15年間の長きにわたりハーフテニスの普及振興と後進の指導・育成に尽力した。 振興賞
	渡辺 猛 夫	ハーフテニス	本町で考案された、オリジナルスポーツ「ハーフテニス」にいち早く取り組み、15年間の長きにわたりハーフテニスの普及振興と後進の指導・育成に尽力した。 振興賞
	菊池 源太郎	ゲートボール	連盟発足当初から会員として活躍。さらに審判競技部長、事務局長、副会長等連盟の要職を務めるなど会員の技術向上、ゲートボールの普及等に大きく貢献した。 振興賞
	新十津川尚武会	剣道	第26回北海道地区少年剣道錬成大会 第3位 選手 佐藤優平 泉谷航平 久保田昂大 丸田悠太郎 永澤亮太 奨励賞
	新十津川尚武会	剣道	第26回北海道地区少年剣道錬成大会 優勝 「はまなす国体開催記念」 第13回全道中学生剣道錬成大会 優勝 選手 竹田良平 成田 稔 岩木慎吾 丸田翔太郎 松井雅嗣 奨励賞
	新十津川中学校 剣道部	剣道	第23回北海道中学校剣道大会男子団体の部 第3位 選手 竹田良平 成田 稔 岩木慎吾 丸田翔太郎 松井雅嗣 奨励賞
H15	佐藤 優 平	剣道	第27回北海道少年剣道錬成大会 小学生個人の部 準優勝 第45回赤胴少年剣道錬成大会 小学生個人の部 第3位 奨励賞
	丸田 悠太郎	剣道	第45回赤胴少年剣道錬成大会 小学生個人の部 第3位 奨励賞
	木村 勲	スキー	昭和54年から現在まで18年間の長期に渡り事務局長等の役員を歴任し、会員相互の交流はもとよりスキー指導員の養成、町内小中学校の体育スキー授業への支援等種々に尽力、町スポーツ振興発展に寄与した。 貢献賞
	栗田 利 行	卓球	全日本社会人卓球大会選手権ダブルスの部で北海道ランクベスト5に入った。さらに全国大会では1回戦勝利。また、勤務明けには本町のスポーツセンターにおいて、女性や子供の指導に努めるなど、地域スポーツの発展に寄与した。 奨励賞
	新十津川尚武会	剣道	第52回全北海道青少年剣道錬成大会 小学生団体の部 第3位 選手 泉谷航平 石原 旬 丸田悠太郎 柏崎 理 佐藤優平 久保田尚也 奨励賞
	新十津川尚武会	剣道	第27回北海道少年剣道錬成大会少年団体の部優勝 選手 泉谷航平 土井涼平 丸田悠太郎 佐藤優平 久保田尚也 奨励賞
	新十津川中学校 剣道部	剣道	第27回北海道少年剣道錬成大会中学生団体の部優勝 選手 岩木慎吾 水谷 新 成田 稔 丸田翔太郎 松井雅嗣 奨励賞

年度	氏名	種目	表彰理由
H16	久保田 尚也	剣道	第46回「赤胴」少年剣道錬成大会個人戦 優勝 第28回北海道少年剣道錬成大会小学生個人の部 第3位 奨励賞
	新十津川尚武会	剣道	第9回十勝大平原全道少年剣道錬成大会 優勝 選手 久保田尚也 土井涼平 石原 旬 久保田和巳 竹田郁哉 奨励賞
	新十津川中学校 剣道部	剣道	第25回北海道中学校剣道大会男子団体の部 第3位 選手 柏崎 諭 久保田昂大 永澤亮太 佐藤優平 丸田悠太郎 泉谷航平 柏崎 理 奨励賞
	新十津川中学校 剣道部	剣道	第5回北海道中学校新人剣道大会 優勝 選手 久保田昂大 永澤亮太 伊藤涼太 佐藤優平 丸田悠太郎 泉谷航平 柏崎 理 小林亮太 中田 大 奨励賞
	新十津川中学校 剣道部	剣道	第15回北海道中学生剣道錬成大会男子の部 第3位 選手 久保田昂大 永澤亮太 伊藤涼太 佐藤優平 丸田悠太郎 柏崎 理 奨励賞
H17	林 悦男	卓球	長きに亘り新十津川卓球連盟の役員を務め、本町における卓球の普及、振興のため尽力された。さらに、勤務終了後に町スポーツセンターにおいて、地域の女性や子供の指導にあたり、全道規模の大会に参加できるまでのレベルに引き上げた。 振興賞
	新十津川中学校 剣道部	剣道	第35回全国中学校剣道大会男子団体の部 準優勝 選手 久保田昂大 永澤亮太 伊藤涼太 佐藤優平 丸田悠太郎 泉谷航平 柏崎 理 奨励賞
H18	羽下 久太郎	ゲートボール	長年にわたり本会の役員を務め、競技指導者としてゲートボールの普及振興に尽力された。 振興賞
	松原 祐一	ソフトボール	昭和56年の第1回全町ソフトボール大会からコーチ兼選手として活躍し、地区はもとより町内へのソフトボールの普及振興に尽力した。 振興賞
	ゲートボール連盟	ゲートボール	同連盟は、昭和61年に地域の愛好者を中心に創立以来、長年に亘り、歴代役員を中心にゲートボール競技を通じ地域の活性化に寄与された。会員は、数々の全国全道大会に出場され、輝かしい成績を収めた。 振興賞
	新十津川尚武会	剣道	第30回北海道少年剣道錬成大会小学生男子個人の部 準優勝 久保田和巳 第55回北海道少年剣道錬成大会小学生団体の部 優勝 選手 土井優太郎 小林剛丈 竹田郁哉 松井一史 久保田和巳 小林拓哉 第48回赤胴少年剣道錬成大会個人の部 第3位 久保田和巳 奨励賞
	新十津川尚武会	剣道	第29回北海道少年剣道錬成大会中学生団体の部 準優勝 選手 中田 大 久保田尚也 柏崎 理 小林亮太 泉谷航平 奨励賞
	新十津川尚武会	剣道	第40回全日本剣道錬成大会中学生団体の部 コート優勝 ベスト16 選手 久保田昂大 永澤亮太 伊藤涼太 佐藤優平 丸田悠太郎 奨励賞
	新十津川尚武会	剣道	第30回北海道少年剣道錬成大会中学生団体の部 優勝 選手 泉谷航平 久保田尚也 佐藤優平 柏崎 理 丸田 悠太郎 奨励賞
	丸田 悠太郎	剣道	第30回北海道道場少年剣道大会中学生男子の部 準優勝 奨励賞
	新十津川中学校 剣道部	剣道	第27回北海道中学校剣道大会男子団体の部 優勝 選手 泉谷航平 久保田尚也 佐藤優平 柏崎 理 丸田悠太郎 中田 大 土井涼平 奨励賞
	久保田 尚也	剣道	第27回北海道中学校剣道大会男子個人の部 準優勝 奨励賞

年度	氏名	種目	表彰理由
H19	上家 恵美子	ゲートボール	平成8年よりゲートボール連盟の副会長に就任。平成12年から平成15年までは会長代行も務め、当連盟役員及び地域リーダーとして活躍した。 振興賞
	悪七 廣雄	ミニバレーボール	長年にわたり、新十津川町のミニバレーボール協会の会長を務め、ミニバレーボールの普及に貢献した。 貢献賞
	藤田 壬巳	太極拳	平成6年4月に新十津川町太極拳同好会を創立し、太極拳指導員として、そしてリーダーとして、太極拳の普及に大きく貢献した。 振興賞
	嶋谷 一俊	ソフトボール	全町ソフトボール大会の開催当初から、区民に参加を積極的に呼びかけ、選手としてまたチームリーダーとして中心的な役割を果たし、本町の体育振興に大きく貢献した。 振興賞
	松原 敬典	ソフトボール	全町ソフトボール大会の開催当初から、区民に参加を積極的に呼びかけ、選手としてまたチームリーダーとして中心的な役割を果たし、本町の体育振興に大きく貢献した。 振興賞
	浅川 博雅	ソフトボール	全町ソフトボール大会の開催当初から、区民に参加を積極的に呼びかけ、選手としてまたチームリーダーとして中心的な役割を果たし、本町の体育振興に大きく貢献した。 振興賞
	新十津川尚武会	剣道	第41回青少年剣道旭川大会 優勝 第28回北海道中学校剣道大会男子団体の部 優勝 選手 久保田尚也 土井涼平 石原 旬 竹田郁哉 久保田和巳 奨励賞
	新十津川尚武会	剣道	第41回青少年剣道旭川大会女子団体の部 第3位 選手 金子 舞 松井佑里子 古館幸奈 小野喜加 柏崎 歩 奨励賞
	金子 舞	剣道	第28回北海道中学校剣道大会女子個人の部 ベスト8 奨励賞
H20	高田 恭介	剣道	長年、指導者として新十津川中学校剣道部を率い、各種大会で優秀な成績を収めた。特に全国中学校剣道大会では、平成15年の男子個人第3位入賞、平成17年には男子団体準優勝に輝くなど、卓越した指導力で選手たちを育て上げた功績は大きい。 振興賞
	新十津川尚武会	剣道	第42回青少年剣道旭川大会男子の部 優勝 選手 竹田郁哉 松井一史 小林優介 土井優太郎 久保田和巳 奨励賞
	新十津川尚武館	剣道	第9回北海道中学校新人剣道大会男子の部 優勝 選手 竹田郁哉 松井一史 小林拓哉 土井優太郎 久保田和巳 石原 丈 古館寛樹 奨励賞
	久保田 和巳	剣道	第38回全国中学校剣道大会男子個人の部 ベスト8 奨励賞
H21	長谷川 信康	ゲートボール	平成11年4月より平成21年3月まで、新十津川町ゲートボール連盟の会長を務め、卓越した識見で連盟の発展に多大な貢献をした。 貢献賞
	田口 末男	パークゴルフ	監事、副会長を歴任し、パークゴルフ協会の運営、会員の技術指導に尽力し、協会の発展に大きく貢献した。 貢献賞
	稲垣 茂雄	ハーフテニス	早くからハーフテニスに積極的に取り組み、平成11年の協会発足時から監事、事務局長等の役員を歴任し、協会の発展、競技の普及に大きく貢献した。 振興賞
	中村 福夫	ハーフテニス	早くからハーフテニスに積極的に取り組み、平成11年の協会発足時から副会長を務め、協会の発展、競技の普及に大きく貢献した。 振興賞
H22	佐々木 金治	ゲートボール	平成15年から平成22年6月まで、ゲートボール連盟の理事監事として、連盟の発展と競技の普及に大きく貢献した。 振興賞
	大井 和夫	ソフトボール	全町ソフトボール大会の開催当初から、区民に参加を積極的に呼びかけ、選手としてまたチームリーダーとして中心的な役割を果たし、本町の体育振興に大きく貢献した。 振興賞
	倉田 健人	剣道	第34回北海道剣道練成大会 小学生個人の部 優勝 奨励賞
	後木 玲奈	卓球	北海道ホープ卓球選手権大会兼全日本予選会 第3位 全日本ホープス卓球選手権大会出場 奨励賞

年度	氏名	種目	表彰理由
H23	松原 聡	ハーフテニス	早くからハーフテニスに積極的に取り組み、平成11年の協会発足時から指導者として活躍し、協会の発展、競技の普及に大きく貢献した。 振興賞
	悪七 廣雄	スキー	昭和49年からスキーの振興・普及に尽力。昭和50年に全日本スキー連盟公認スキー正指導員の資格を取得。平成9年スキー連盟発足から理事長の重責を担い、組織の運営と指導者の育成に貢献した。 振興賞
	続木 安雄	ゲートボール	平成8年から14年の永きにわたり連盟の役員を務め、運営に貢献、ゲートボールの振興に尽力した。 振興賞
	首藤 未羽	卓球	北海道ホープス卓球選手権大会兼全日本予選会第6位 全日本ホープス卓球選手権大会出場 道新杯全道小学生卓球大会6年生女子の部第3位 奨励賞
H24	藤林 亘	ソフトボール	昭和56年から平成5年まで理事長、副会長などソフトボール協会の要職を歴任。永きに亘り、協会の運営、競技の普及に大きく貢献した。 貢献賞
	平田 昇	ゲートボール	平成14年から競技副部長、競技部長、会計などゲートボール協会の要職を歴任し、組織の円滑な運営に貢献した。 振興賞
	北村 弘	ゲートボール	平成14年から副会長、会長代行、会長の役職に就き、リーダーとして、組織の安定運営に尽力した。 振興賞
H25	高宮 九州夫		昭和52年4月から町体育協会理事長、副会長、会長の要職を担い、さらに平成21年9月からは特定非営利活動法人新十津川町体育協会理事長として、平成25年5月30日まで重責を果たした。この間そっち岳スキー場の開設及び青少年の健全育成を視点としたスポーツ少年団の育成並びに各体育団体の強化等に尽力、本町の体育振興発展に多大の貢献をなした。 貢献賞
	今中 博	ゲートボール	平成3年南花月ゲートボール連盟に入会。競技副部長を務め、連盟の円滑な運営に寄与した。 振興賞
	竹中 甫	ゲートボール	平成9年みどり区ゲートボール連盟入会。ゲートボール協会の理事、監事、競技副部長、審判副部長を歴任し、連盟の円滑な運営に寄与した。 振興賞
	寺島 敏	パークゴルフ	平成9年パークゴルフ協会へ入会。平成16年から平成26年3月まで厚生部長、理事、監事などの役員を歴任し、協会の振興発展に尽力した。 振興賞
H26	後木 達哉	卓球	町卓球連盟事務局長10年、卓球スポーツ少年団監督として、小中学生の卓球競技普及と競技力向上に貢献。特に2人の選手を全国規模の大会に出場するまでに育て上げた功績は大きい。 振興賞
	佐々木 行利	ゲートボール	平成14年南花月老人クラブに入会と同時にゲートボール連盟に入会。平成19年からは審判部長として活躍し、チームの作戦や技術力アップに貢献した。 振興賞
	枝澤 トミエ	ゲートボール	老人クラブ役員を務めながら、中央地区の女性選手として活躍し、平成20年からは連盟の役員として各種大会の開催や町外大会への選手派遣を行うなど連盟の運営に尽力した。 振興賞
	笹木 健一	パークゴルフ	平成9年パークゴルフ協会に入会、平成16年からは指導普及部副部長をはじめ、競技部副部長、協会理事などを歴任し、協会の円滑な運営に大きく貢献した。 振興賞
	清野 創二郎	剣道	第38回北海道道場少年剣道大会小学生男子個人の部 第3位 奨励賞
	明田 圭喬	野球	日本ハムファイターズジュニアの道内選手に選ばれ、NPB12球団ジュニアトーナメントエネオスカップ2014に出場し、チームの準優勝に貢献した。 奨励賞
	新十津川尚武会	剣道	第63回北海道団体優勝剣道大会D級の部 準優勝 選手 白石 昇 上家國義 後木祥一 竹原嘉一 泉谷文雄 奨励賞

年度	氏名	種目	表彰理由
H26	新十津川尚武会 少年部	剣道	第63回北海道少年剣道錬成大会 優勝 第9回全日本都道府県対抗少年剣道大会出場 選手 南大祐 山内麗生 新田拓海 高橋緒戸 清野創二郎 五十嵐雅人 奨励賞
	ホワイトベアーズ	野球	第32回ホクレン旗北海道少年軟式野球選手権大会準優勝 高円宮賜杯第34回全日本学童軟式野球大会ベスト4 マクドナルド・トーナメント南北海道大会 ベスト4 奨励賞
H27	岡本克幸	スキー	平成9年の新十津川スキー連盟発足に尽力。副会長を5年、会長を14年務め、町民のスポーツ振興に貢献した。 振興賞
	山内麗生	剣道	第39回北海道道場少年剣道大会 小学生男子個人の部 第3位 奨励賞
	南大祐	剣道	第57回赤胴少年剣道錬成大会 個人の部 第3位 奨励賞
	高橋賢新	剣道	第38回北海道地区剣道少年団体発表会 最優秀賞 全国大会 敢闘賞 奨励賞
	新十津川尚武会	剣道	第64回北海道団体優勝剣道大会D級の部 優勝 選手 上家國義 後木祥一 竹原嘉一 泉谷文雄 鈴木久一 奨励賞
	新十津川中学校 剣道部	剣道	第16回北海道中学校新人剣道大会 優勝 選手 中鉢天助 新田拓海 齋藤裕也 清野創二郎 清野麟太郎 奨励賞
	新十津川尚武会 少年部	剣道	第64回北海道少年剣道錬成大会 優勝 第10回全日本都道府県対抗少年剣道優勝大会 出場 選手 南大祐 小野眞之介 高橋賢新 伊藤大知 山内麗生 小西 祐 奨励賞
	J A ピンネ 軟式野球部	野球	第38回東日本軟式野球南北海道大会2部 準優勝 奨励賞
H28	坂本慶一	パークゴルフ	長年にわたり、本町パークゴルフ協会の役員（理事、競技部副部長、指導普及部副部長）として、本町パークゴルフの振興発展に大きく貢献した。 振興賞
	西田秀雄	パークゴルフ	長年にわたり、本町パークゴルフ協会の役員（理事、監事）として、本町パークゴルフの振興発展に大きく貢献した。 振興賞
	工藤政雄	ゲートボール	長年にわたり、本町ゲートボール協会の役員（会長、副会長）として、卓越した識見と指導力を発揮され、連盟の発展に大きく貢献した。 貢献賞
	泉谷文雄	剣道	第28回北海道高齢者剣道大会60歳から64歳の部 優勝 第29回全国健康福祉祭剣道交流大会出場 奨励賞
	新十津川尚武会 少年部	剣道	第40回北海道道場少年剣道大会小学生団体の部 優勝 第51回全国道場少年剣道大会 出場 選手 鈴木道大 小野獅童 中鉢絢乃 加藤隆斗 佐藤恵一 西川実佑 奨励賞
	新十津川中学校 剣道部	剣道	第71回北海道中学校新人剣道大会女子団体の部 優勝 選手 北村沙羅 加藤緒美 高橋緒戸 山下唯菜 斉藤菜々美 奨励賞
H29	堀隆一	スキー	スキー協会の時代から事務局長等を務め、ウインタースポーツの普及に尽力。スキー連盟発足後は平成20年から副会長を務め、スポーツ振興に大きく貢献した。 振興賞
	坂林涼一	スキー	全日本スキー連盟北海道ブロック第14回北海道マスターズスキー技術選手権大会 男子65歳～69歳の部 第2位 奨励賞
	鈴木道大	剣道	第59回赤胴少年剣道錬成大会 個人の部 第3位 奨励賞
	高橋緒戸	剣道	第37回北海道中学校剣道大会 女子個人の部 第3位 奨励賞

年度	氏名	種目	表彰理由
H29	新十津川尚武館 小学生チーム	剣道	第41回北海道道場少年剣道大会 小学生団体の部 優勝 文部科学大臣杯鷹揚旗全国選抜剣道大会 優勝 選手 小野獅童 山本青空 高橋一絆 加藤隆斗 清野博人 鈴木道大 奨励賞
	新十津川尚武館 中学生チーム	剣道	第41回北海道道場少年剣道大会 中学生団体の部 優勝 選手 山内麗生 伊藤大知 新田拓海 高橋緒戸 清野創二郎 奨励賞
	新十津川中学校 剣道部女子チーム	剣道	第38回北海道中学校剣道大会 女子団体の部 優勝 選手 加藤緒美 山下唯奈 北村沙羅 中鉢絢乃 高橋緒戸 齊藤菜々美 奨励賞
H30	新十津川中学校 剣道部男子チーム	剣道	第39回北海道中学校剣道大会 男子団体の部 優勝 第48回全国中学校剣道大会 ベスト16 選手 佐藤恵一 小野真之介 高橋賢新 伊藤大知 山内麗生 奨励賞
	新十津川中学校 剣道部女子チーム	剣道	第39回北海道中学校剣道大会 女子団体の部 第3位 選手 中鉢絢乃 齊藤菜々美 浦上 藍 西川実佑 加藤緒美 奨励賞

新十津川町体育協会創立30周年記念感謝状・表彰状受賞者 (敬称略)

表彰式・平成11年9月9日

*感謝状 株式会社 渡辺鉄工所

*スポーツ振興賞

(バスケットボール)	東志 和義				
(剣道)	長谷川信康	出田 勇	中井 公	白石 昇	
	泉谷 文雄				
(スキー)	悪七 廣雄	松川 栄一	堀 隆一	柴田 繁隆	
	河村 健治				
(ソフトボール)	藤林 亘	篠原 信雄	木村 勲	田垣 尚武	
	谷口 義則	乗松 政勝	佐川 純		
(ゲートボール)	岡本 正男				
(水泳)	山下 一男				
(ミニバレーボール)	境 和一				
(パークゴルフ)	佐藤 力夫				
(ハーフテニス)	乗松 寿徳	平田 将紀			

新十津川町体育協会創立50周年記念事業概要

▽新十津川町体育協会創立50周年記念式典・祝賀会

期日 2019（令和元）年7月10日

会場 グリーンパークしんとつかわ

内容 記念式典 表彰式 祝賀会

▽新十津川町体育協会創立50周年記念表彰受賞者（敬称略）

スポーツ功労賞（4名）

所属（推薦）団体	氏名
体育協会	高宮九州夫 藤林 亘 悪七廣雄 谷口 榮

スポーツ振興賞（24名）

所属（推薦）団体	氏名
尚武会	長名 實 白石 昇 竹原嘉一 鈴木久一 上家國義 後木祥一 泉谷文雄
スキー連盟	岡本克幸 堀 隆一 松川栄一 高橋俊明 鈴木 誠 千石哲也
パークゴルフ協会	出田光夫
水泳協会	星野 浩
ソフトボール協会	乗松政勝
卓球連盟	澤田忠治 後木智子
ミニバレーボール協会	川下晃弘 松川純子
バドミントン協会	平野 誠
ゲートボール連盟	佐々木行利 佐々木金治
旧バレーボール協会	中畑冴子

スポーツ奨励賞（1名）

所属（推薦）団体	氏名
尚武会	松井雅嗣

感謝状贈呈（1社）

株式会社セキュメント

▽新十津川町体育協会創立50周年記念冠大会等開催日

団体名	大会等名	開催月日 2019年～2020年	会場
吹矢倶楽部	全町吹矢交流会	4月30日(火)	スポーツセンター
	全町吹矢交流会	11月2日(土)	スポーツセンター
ラジオ体操会	ラジオ体操講習会	6月22日(土)	改善センター
ソフトボール協会	町内ソフトボール大会	6月23日(日)	石狩川河川緑地
卓球連盟	全町卓球大会	6月30日(日)	スポーツセンター
尚武会	町内剣道大会	8月10日(土)	尚武館
パークゴルフ協会	体育協会創立50周年 記念パークゴルフ大会	8月11日(日)	サンウッドパークゴルフ場
軟式野球連盟	町内軟式野球大会	8月25日(日)	ピンネスタジアム
ミニバレーボール協会	混合ミニバレー大会	9月8日(日)	スポーツセンター
ハーフテニス協会	全町ハーフテニス大会	2月8日(土)	スポーツセンター
スキー連盟	そっち岳スキー大会	2月中旬	そっち岳スキー場

▽スポーツスタンプラリー

実施期間 2019年4月1日～2020年3月31日

対象者 町民

内 容 町内で行われるスポーツイベント、教室等に参加したり、スポーツ少年団活動や中学校スポーツ部活動に取り組んだり、町内のスポーツ施設を利用するとポイントを獲得し、そのポイントで記念品(ふれあい商品券)がもらえます。5ポイントで500円券1枚、10ポイントで500円券2枚(中学生以下上限)、20ポイントで500円券4枚と交換できます。

スポーツ施設の概要

スポーツセンター



TEL・FAX 76-3390
 所 在 新十津川町字総進187番地 2
 竣 工 平成元年 1 月
 構 造 鉄骨鉄筋コンクリート造 2 階建
 面 積 3,193㎡
 事 業 費 817,800千円
 開場時間 9:00~21:00
 休 館 日 毎月の最終火曜日
 (祝日のときは翌日)
 12月31日~1月5日
 概 要 メインアリーナ、
 サブアリーナ、会議室、
 ランニングコース
 指定管理者 特定非営利活動法人 新十津川町
 体育協会

温水プール



T E L 76-2925
 所 在 新十津川町字総進187番地 1
 竣 工 平成元年 3 月
 (徒渉プール平成 6 年 3 月)
 構 造 (管理棟:セラミックブロック造 2 階建、
 プール棟:鉄骨造平屋建)
 面 積 1,129.29㎡
 事 業 費 182,025千円
 開館時間 10:00~20:00
 開設期間 4月29日~9月30日
 休 館 日 火曜日(町内小中学校の夏休み期
 間及び祝日の場合を除く)
 概 要 プール
 (25m×15m、7レーン
 水深1.1~1.2m)
 徒渉プール
 (6m×15m 変形
 水深0.45~0.70m)
 指定管理者 特定非営利活動法人 新十津川町
 体育協会

ふるさと公園 サンウッド パークゴルフ場



T E L 76-2500
 所 在 新十津川町字総進177番地 3
 竣 工 平成 9 年 7 月
 面 積 3.5ha
 事 業 費 316,634千円
 開場時間 8:00~21:00
 (ナイター営業:要予約)
 開設期間 4月29日~11月3日
 休 場 日 月曜日(祝日のときは翌日)
 概 要 しらかばコース:438m
 (夜間照明有り)
 もみじコース:454m
 つつじコース:421m
 (夜間照明有り)
 指定管理者 特定非営利活動法人 新十津川町
 体育協会

ふるさと公園 ピンネスタジアム ピンネテニスコート



T E L 76-3838
 所 在 新十津川町字総進177番地 1
 竣 工 平成 4 年 10 月
 面 積 21,910㎡
 事 業 費 519,223千円
 開場時間 8:00~21:00
 開設期間 4月29日~11月14日
 概 要 ピンネスタジアム
 両翼98m、センター122m
 夜間照明 6 基、
 観覧席約4,700人収容
 (内野:ベンチ、外野:芝生)
 ピンネテニスコート
 オムニコート
 (砂入り人工芝) 4 面
 (うち 2 面夜間照明有り)
 指定管理者 特定非営利活動法人 新十津川町
 体育協会

ふるさと公園

野球場



所 在 新十津川町字総進178番地 1
竣 工 昭和57年10月
面 積 14,400㎡
事 業 費 161,203千円
開場時間 8:00～21:00
開設期間 4月29日～11月14日
概 要 両翼86m、センター100m
夜間照明有り
指定管理者 特定非営利活動法人 新十津川町
体育協会

ふるさと公園

サッカー場



所 在 新十津川町字総進178番地 1
竣 工 平成3年11月
面 積 4,250㎡
事 業 費 24,102千円
開場時間 8:00～日没
開設期間 4月29日～11月14日
概 要 コート:縦85m、横50m
指定管理者 特定非営利活動法人 新十津川町
体育協会

ふるさと公園

テニスコート



所 在 新十津川町字総進178番地 1
竣 工 昭和57年10月
事 業 費 12,045千円
開場時間 8:00～日没
開設期間 4月29日～11月14日
概 要 クレイコート5面
指定管理者 特定非営利活動法人 新十津川町
体育協会

そっち岳スキー場



T E L 76-2075
所 在 新十津川町字総進294番地 1
竣 工 昭和56年12月
リフト設置 平成9年12月
ロッジ新築 平成11年12月
事 業 費 211,358千円
開設期間 12月第2土曜日～3月20日
休 場 日 12月31日～1月1日
概 要 スロープ330m
ペアリフト1基
(傾斜こう長331.65m)
ロッジ、夜間照明5基

編 集 後 記

わが国は世界一の長寿国となりました。「人生100年時代」がささやかれる昨今です。歴史を100年刻みで見ると、当協会は戦後四半世紀で誕生、更に半世紀を経て創立50周年を迎えたこととなります。この5月、年号が「平成」から「令和」と代りました。本年は誠に区切りの良い節目です。「文武の旗印」を掲げて発展してきた新十津川町です。体育協会創立50周年記念誌編集は「町民のスポーツ活動の足跡」として、また「新しい時代を切り拓いていくパワー」を確かめ合うものであります。

記念誌編集委員会では、次のような方針を立て編纂に当たることとしました。

- (1) 30周年記念誌の編集スタイルを踏襲する。
- (2) 30周年記念年以降の体協の歩み、各団体の実績や活動の様子をまとめる。
- (3) 社会変化の波を受け、活動休止中の団体の概要も記載する。

不慣れな私たち編集委員にとって前記念誌は最大の助っ人でした。開村以来の沿革、戦後の復興から右上がりの経済成長とともに歩んだ協会設立までの体育活動等の記録はそのまま掲載させていただきました。先人の偉業が克明に記されており、改めて記念誌編集・発行の重みを実感した次第です。

その後の20年、社会の変動はスポーツ界にも波及、本町のスポーツ活動にも大きな変化をもたらしました。事務局のまとめ、各団体の実績や将来展望などから読み取れることは「スポーツの多様化、少子高齢化による活動の盛衰、制度・組織の変動（NPOへの移行）」などがあげられます。一方、過去の栄光にこだわることなく、時代変化をより積極的に受け入れ、新たな一歩を踏み出そうという意気込みが滲み出ていることを強く感じました。

記念誌編集に当たり、関係者のみな様にはご多忙中にもかかわらず祝辞と励ましのことばを賜りました。また、協会傘下の各団体からは貴重な資料・写真等を添え、スポーツを楽しみ、健康づくり・仲間づくりに取り組んでいる記事をまとめていただきました。多くの方々の温かいお力添えで記念誌をまとめ上げることができました。心より感謝申し上げます。

(令和元年7月)



編集委員

悪 七 廣 雄
木 原 和 枝
上 家 國 義
佐 川 純
前 谷 弘 志

体協50年のあゆみ

発行日 令和元年7月10日

発行者 特定非営利活動法人 新十津川町体育協会

表紙題字 新十津川町体育協会理事長 吉田邦男

印刷所 (有)田中タイプ印刷